山形県埋蔵文化財調査報告書第110集

分布調査報告書(14)

1987

山形県教育委員会

分布調査報告書(14)

昭和62年度以降農林・土木事業他関係遺跡

埋蔵文化財包蔵地基礎調査・長井地区関係遺跡

C　調　査　実　施　遺　跡

立　会　い　調　査　実　施　遺　跡

試　掘　調　査　実　施　遺　跡

昭和62年3月

山形県教育委員会

目　次

I　調査の方法と経緯

1 調査の方法……1

2 調査に至るまで……1

3 調査の経過……2

II　調査の概要

1　昭和62年度以降農林・土木事業他関係遺跡地名表

（1）農村基盤総合整備パイロット事業・庄内地区関係遺跡……6

（2）県営圃場整備事業関係遺跡……6

（3）県営かんがい排水事業・最上川中流地区関係遺跡……6

（4）広域営農団地農道整備事業一村山東部地区一関係遺跡……6

（5）農免農道整備事業・成島地区関係遺跡……8

（6）国営鳥海南麓地区農地開発事業関係遺跡……8

（7）村山北部農業水利事業関係遺跡……10

（8）国道建設工事関係遺跡……10

（9）一般県道改良工事関係遺跡……10

(10) 主要地方道整備事業関係遺跡……10

(11) 東北横断自動車道酒田線関係遺跡……12

(12) 馬見ヶ崎川中小河川改良事業関係遺跡……12

(13) 庄内広域水道用水供給事業関係遺跡……12

2　埋蔵文化財包蔵地基礎調査・長井地区関係遺跡地名表……12

3　C調査実施遺跡

（1）公害防除特別土地改良事業・吉野川流域地区関係遺跡

a　富貴田遺跡……35

（2）広域営農団地農道整備事業一北村山地区一関係遺跡

a　安久戸D遺跡……46

（3）県営かんがい排水事業関係遺跡

a　大橋遺跡……54

4　立会い調査実施遺跡

（1）県営圃場整備事業・三郷堰地区関係遺跡

例　言

1　本書は、昭和61年度に山形県教育委員会が国庫補助を得て実施した、昭和61年度及び昭和62年度以降農林・土木事業他、各事業の立会い調査、埋蔵文化財包蔵地基礎調査に関する遺跡詳細分布調査報告書である。

2　調査は、山形県教育庁文化課の佐々木洋治（埋蔵文化財主査）・佐藤庄一（埋蔵文化財係長）・野尻　侃（主任技師）・佐藤正俊（主任技師）・名和達朗（技師）・渋谷孝雄（技師）・阿部明彦（技師）・長橋　至（技師）・安部　実（技師）・太田　優（嘱託）・黒坂雅人（嘱託）・伊藤邦弘（嘱託）の12名が担当した。

3　本報告書の執筆は、佐藤庄一・野尻　侃・名和達朗・渋谷孝雄・阿部明彦・長橋　至・安部　実・太田　優・黒坂雅人がそれぞれ分担し、また、挿図・図版作成等については、徳永裕子・鈴木貴史・前田和子・吉田直子・升谷繁子がこれを補助した。

4　本書の編集は、名和達朗・長橋　至が担当し、全体については佐々木洋治が総括した。

5　調査の対象となった遺跡及び事業名は、第１章でその事業名・内容を記載し、個々については第Ⅱ章に記載した。

6　挿図の縮尺についてはスケールで示し、遺跡位置図や遺跡地図については縮尺を明記した。また、方位は磁北に合わせた。遺跡地図の番号は、事業毎に遺跡地名表の番号に一致する。挿図・図版中の遺物は、½・⅓を原則とした。挿図及び文中の記号は、●・ＴＰ：坪掘り地点、◉：遺構検出・遺物出土地点、Ｔ：試掘トレンチ、ＲＰ：土器、ＳＡ：塀跡、ＥＡ：柵木、ＳＢ：掘立柱建物跡、ＥＢ：掘立柱、ＳＤ：溝跡、ＳＥ：井戸跡、ＳＫ：土坑、ＥＰ：ピット、ＳＸ：性格不明遺構で表記した。なお、遺跡概要図は、遺跡範囲を破線で表示した。

7　調査にあたっては、各関係機関、各市町村教育委員会、地元関係者の御協力を得た。記して感謝申し上る。

序

本報告書は、山形県教育委員会が昭和61年度に実施した、遺跡詳細分布調査の結果をまとめたものです。

近年の開発事業の進展に伴い、地下に埋もれた埋蔵文化財との関わりも増加する傾向にあります。県経済と県民福祉の向上を目的とする諸開発事業と、県民ひいては国民の文化遺産である埋蔵文化財との間には、今なお数多くの問題が介在しており、状況に応じた適切な対処が望まれているところです。

山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」と地域文化の環境づくりという立場から、これらの間の調整をはかり、今後も埋蔵文化財の保護と活用のため努力を続けていく所存です。

終わりに、本調査に御協力いただきました関係各位、地元の方々に感謝申し上げるとともに、本書が埋蔵文化財に対するおおかたの理解の一助となれば幸いです。

昭和62年３月

山形県教育委員会

教育長　小野　孝

a　西沼田遺跡……66
（2）公害防除特別土地改良事業・吉野川流域地区関係遺跡
a　東六角遺跡……70
b　観音堂遺跡……73
（3）国道建設工事関係遺跡
a　富貴田遺跡……76
b　東高堰遺跡……78
（4）一般県道米沢県南公園自転車道線関係遺跡
a　山の神1号墳……80
5　試掘調査実施遺跡
（1）県営圃場整備事業関係遺跡
a　南興野遺跡……94
b　熊野田遺跡……96
c　手蔵田6・7遺跡……98
d　手蔵田10・11遺跡……100
e　早稲田遺跡……102
f　桜林遺跡……104
g　西田遺跡……106
h　生石4遺跡……108
i　矢馳A遺跡……110
j　矢馳B遺跡……112
k　清水新田遺跡……114
l　げんだい遺跡……116
（2）広域営農団地農道整備事業―北村山地区―関係遺跡
a　志田B遺跡……118
（3）公害防除特別土地改良事業・吉野川流域地区関係遺跡
a　李の木遺跡……120
（4）村山北部農業水利事業関係遺跡
a　原の内A遺跡……122
（5）国道13号線南陽バイパス建設工事関係遺跡
a　月ノ木B遺跡……124
（6）一般県道改良工事関係遺跡

a　観音堂遺跡…… 126
b　新館遺跡…… 128
（7）東北横断自動車道酒田線関係遺跡
a　関沢B遺跡…… 130
b　向山遺跡…… 132
Ⅲ　まとめ…… 134

付表－1　昭和61年度分布調査遺跡一覧…… 3
付表－2　調査工程表…… 5
付表－3　富貴田遺跡ピット・土坑・溝状遺跡観察表……40
付表－4　富貴田遺跡出土土器観察表……41
付表－5　東六角遺跡ピット・土坑観察表……71

挿図目次

第1図　農村基盤総合整備パイロット事業・庄内地区関係遺跡地図
県営圃場整備事業関係遺跡地図（1）……14
第2図　県営圃場整備事業関係遺跡地図（2）……15
第3図　県営かんがい排水事業・最上川中流地区関係遺跡地図
広域営農団地農道整備事業－村山東部地区－関係遺跡地図……16
第4図　農免農道整備事業・成島地区関係遺跡地図
国営鳥海南麓地区農地開発事業関係遺跡地図（1）……17
第5図　国営鳥海南麓地区農地開発事業関係遺跡地図（2）
村山北部農業水利事業関係遺跡地図……18
第6図　国道13号線南陽バイパス関係遺跡地図……19
第7図　国道13号線舟形バイパス関係遺跡地図
一般県道平塩・山辺線関係遺跡地図……20
第8図　主要地方道新庄・戸沢線関係遺跡地図
主要地方道尾花沢・関山線関係遺跡地図……21
第9図　東北横断自動車道酒田線関係遺跡……22

第10図　馬見ヶ崎川中小河川改良事業関係遺跡地図
庄内広域水道用水供給事業関係遺跡地図（１）……23
第11図　庄内広域水道用水供給事業関係遺跡地図（２）
埋蔵文化財包蔵地基礎調査・長井地区関係遺跡地図（１）……24
第12図　埋蔵文化財包蔵地基礎調査・長井地区関係遺跡地図（２）……25
第13図　富貴田遺跡概要図……35
第14図　富貴田遺跡全体図……36
第15図　富貴田遺跡土層断面図……37
第16図　富貴田遺跡遺構配置図……38
第17図　富貴田遺跡遺構平面図……39
第18図　富貴田遺跡出土土器実測図……40
第19図　安久戸Ｄ遺跡概要図……46
第20図　安久戸Ｄ遺跡Ｂ区遺構配置図……47
第21図　安久戸Ｄ遺跡ＳＫ３実測図……48
第22図　安久戸Ｄ遺跡ＳＴ４実測図……49
第23図　安久戸Ｄ遺跡出土土器拓影図……50
第24図　安久戸Ｄ遺跡出土石器……52
第25図　大橋遺跡概要図……55
第26図　大橋遺跡Ａ区遺構配置図……56
第27図　大橋遺跡Ｂ・Ｃ区遺構配置図……57
第28図　大橋遺跡Ｃ区遺構配置図……62
第29図　大橋遺跡出土遺物……63
第30図　西沼田遺跡位置図……66
第31図　西沼田遺跡全体図……67
第32図　西沼田遺跡遺物出土状況図……68
第33図　東六角遺跡遺構配置図……70
第34図　東六角遺跡ピット・土杭平面図……70
第35図　東六角遺跡概要図……71
第36図　観音堂遺跡概要図……74
第37図　富貴田遺跡概要図……76
第38図　富貴田遺跡Ｂトレンチ遺構配置図……77
第39図　東高堰遺跡概要図……78

第40図　山の神１号墳と周辺の古墳群位置図……81
第41図　山の神１号墳測量図……83
第42図　山の神１号墳出土土器（１）……85
第43図　山の神１号墳出土土器（２）……87
第44図　山の神１号墳出土土器（３）……88
第45図　南興野遺跡概要図……95
第46図　熊野田遺跡概要図……96
第47図　手蔵田６・７遺跡概要図……98
第48図　手蔵田10・11遺跡概要図…… 100
第49図　早稲田遺跡概要図…… 102
第50図　桜林遺跡概要図…… 104
第51図　西田遺跡概要図…… 106
第52図　生石４遺跡概要図…… 108
第53図　矢馳Ａ遺跡概要図…… 110
第54図　矢馳Ｂ遺跡概要図…… 112
第55図　清水新田遺跡概要図…… 114
第56図　げんだい遺跡概要図…… 116
第57図　志田Ｂ遺跡概要図…… 118
第58図　李の木遺跡概要図…… 120
第59図　原の内Ａ遺跡概要図…… 122
第60図　月の木Ｂ遺跡概要図…… 124
第61図　観音堂遺跡概要図…… 126
第62図　新館遺跡概要図…… 128
第63図　関沢Ｂ遺跡概要図…… 130
第64図　向山遺跡概要図…… 132

図版目次

図版１　農林事業関係遺跡（１）……26
図版２　農林事業関係遺跡（２）……27
図版３　農林事業関係遺跡（３）……28
図版４　農林事業関係遺跡（４）……29
図版５　農林事業関係遺跡（５）・土木事業関係遺跡（１）……30
図版６　土木事業関係遺跡（２）……31
図版７　土木事業関係遺跡（３）……32
図版８　土木事業関係遺跡（４）・埋蔵文化財包蔵地基礎調査・長井地区関係遺跡（１）…33
図版９　埋蔵文化財包蔵地基礎調査・長井地区関係遺跡（２）……34
図版10　富貴田遺跡（１）……41
図版11　富貴田遺跡（２）……42
図版12　富貴田遺跡（３）……43
図版13　富貴田遺跡（４）……44
図版14　富貴田遺跡（５）……45
図版15　安久戸Ｄ遺跡出土土器……51
図版16　安久戸Ｄ遺跡出土石器……52
図版17　安久戸Ｄ遺跡……53
図版18　大橋遺跡近景……54
図版19　大橋遺跡Ａ区東西柱根列検出状態……58
図版20　大橋遺跡Ｂ区東西柱根列検出状態……59
図版21　大橋遺跡遺構検出状況……60
図版22　大橋遺跡ＳＡ10柱根列土層断面……61
図版23　大橋遺跡遺構検出状態……61
図版24　大橋遺跡出土遺物……64
図版25　大橋遺跡ＳＤ57溝状遺構検出状態……65
図版26　西沼田遺跡（１）……68
図版27　西沼田遺跡（２）……69
図版28　東六角遺跡……72
図版29　観音堂遺跡（１）……73

図版30　観音堂遺跡（２）……75
図版31　富貴田遺跡……77
図版32　東高堰遺跡……79
図版33　山の神１号墳（１）……89
図版34　山の神１号墳（２）……90
図版35　山の神１号墳出土土器（１）……91
図版36　山の神１号墳出土土器（２）……92
図版37　山の神１号墳出土土器（３）……93
図版38　南興野遺跡……94
図版39　熊野田遺跡……97
図版40　手蔵田６・７遺跡……99
図版41　手蔵田10・11遺跡…… 101
図版42　早稲田遺跡…… 103
図版43　桜林遺跡…… 105
図版44　西田遺跡…… 107
図版45　生石４遺跡…… 109
図版46　矢馳Ａ遺跡…… 111
図版47　矢馳Ｂ遺跡…… 113
図版48　清水新田遺跡…… 115
図版49　げんだい遺跡…… 117
図版50　志田Ｂ遺跡…… 119
図版51　李の木遺跡…… 121
図版52　原の内Ａ遺跡…… 123
図版53　月の木Ｂ遺跡…… 125
図版54　観音堂遺跡…… 127
図版55　新館遺跡…… 129
図版56　関沢Ｂ遺跡…… 131
図版57　向山遺跡…… 133

Ⅰ　調査の方法と経緯

1　調査の方法

本調査は、昭和62年度以降に実施予定の大規模な各種開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の詳細な分布調査を実施し、各関開発機関との十分な調整を行ないつつ遺跡の保存を図ることを目的とするものである。その調査結果は、開発事業の計画策定における事前協議の基礎資料となる。

調査は、遺跡の位置・内容・規模等を明確にするため、次の３段階に分けて行なった。

（１）A調査（現地確認調査）

開発事業計画並びに実施区域、及びそれらに隣接する遺跡について表面踏査を行ない、遺跡の位置・所在地等と事業範囲との関わりを確認するものである。

（２）B調査（試掘調査）

基本的にはA調査の結果に基づき、遺跡について坪掘りやトレンチ掘りを実施し、その範囲・性格等を明らかにして詳細な資料を得るものである。その記録は、各種開発事業側との協議や調整を行なう際の重要な資料となり、また、緊急発掘調査を実施する場合の経費の積算や調査計画の基礎資料となるものである。

（３）C調査（小規模な発掘調査）

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる範囲が小さかったり、接する状態の場合等について、必要に応じ実施するものである。調査の方法は、一部重機等を用いたりしながら発掘調査の方法に準ずる。

2　調査に至るまで

遺跡詳細分布調査を計画するに際し、県教育委員会では昭和62年度以降の農林・土木事業他の各種事業計画について、関係機関への照会を行なった。その回答により、昭和61年９月９日～11日、『山形県遺跡地図』（昭和53年３月発行・山形県教育委員会編）等を参照しながら、開発事業計画についての聴取を実施した。次ぎにその結果に基づき、昭和62年度の事業実施予定地域を中心に、昭和61年９月から12月まで遺跡詳細分布調査を実施した。また、過年度に分布調査を終了したもので、C調査や施工時に立会調査を行なうこととしたもの、あるいは今年度緊急に立会調査を実施したものについては、Ⅱ章及び表―１・２に記載した。なお、前年度に引き続き、埋蔵文化財包蔵地基礎調査を行ない、今年度は長井地区について実施した。

3　調査の経過

調査は県教育委員会が主体となり、関係市町村教育委員会・各開発機関等の協力を得て、分布調査依頼事業等も含め、昭和61年４月から昭和61年12月まで実施した（表―１・２）。

（１）昭和62年度以降農林・土木事業他関係分布調査

調査期間　昭和61年４月９日～昭和61年12月15日

協力機関　関係市町村教育委員会・関係各開発機関

内　　容　43遺跡についてＡ調査、41遺跡についてＢ調査、３遺跡についてＣ調査をそれぞれ実施した。うち17遺跡が、今年度新規確認である。

（２）立会い調査

調査期間　昭和61年４月２日～昭和61年10月８日

協力機関　関係市町村教育委員会・関係各開発機関

内　　容　諸開発事業で、遺跡の現状変更が軽微な場合に行なう確認調査で、調査の結果によって、立会い調査後工事に入る場合と、工事を中止してＣ調査もしくは緊急発掘調査を実施する場合とに分けられる。

今年度は、６事業８遺跡について実施した。

（３）埋蔵文化財包蔵地基礎調査

調査期間　昭和61年11月11・12日

協力機関　長井市教育委員会

内　　容　昭和53年度に山形県教育委員会では、県内市町村全域にわたって埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の登録、並びに周知の目的で『山形県遺跡地図』を発行した。以来、年月の経過に伴って諸開発事業等による遺跡所在地周辺の環境の変化、あるいは新規に発見された遺跡数の増加等により、その内容について新規遺跡の登載や内容の追加等が、関係各方面から望まれてきている。

以上のことから、山形県教育委員会では昭和59年度から新たに「埋蔵文化財包蔵地基礎調査」として、各市町教育委員会の協力を得ながら遺跡詳細分布調査を実施しているものである。

今年度は、下記地区について実施した。

○長井地区

関係市町村　長井市

調査は、５遺跡についてＡ調査を実施した。うち３遺跡が、今年度新規確認である。

表－1　昭和61年度分布調査遺跡一覧

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会い
1	農村基盤総合整備パイロット事業	庄内地区	新田目城跡	○			
2	県営圃場整備事業	月光川左岸地区	大楯遺跡			○	
	〃	北平田第一地区	南興野遺跡		○		
	〃	平田地区	〃		○		
	〃	〃	早塚遺跡		○		
	〃	〃	熊野田遺跡		○		
	〃	中平田東地区	手蔵田6遺跡		○		
	〃	〃	手蔵田7遺跡		○		
	〃	〃	手蔵田10遺跡		○		
	〃	〃	手蔵田11遺跡		○		
	〃	〃	早稲田遺跡		○		
	〃	〃	桜林遺跡		○		
	〃	〃	西田遺跡		○		
	〃	南平田地区	生石4遺跡	○	○		
	〃	山元地区	〃		○		
	〃	最上川地区	宮曽根楯跡	○			
	〃	〃	南口A遺跡		○		
	〃	〃	南口B遺跡		○		
	〃	〃	払田遺跡		○		
	〃	鶴岡西部地区	矢馳A遺跡		○		
	〃	〃	矢馳B遺跡		○		
	〃	〃	清水新田遺跡		○		
	〃	最上川西部地区	げんだい遺跡		○		
	〃	〃	新田遺跡		○		
	〃	三郷堰地区	西沼田遺跡				○
3	県営かんがい排水事業	最上川中流地区	松原遺跡	○			
	〃	〃	六堰遺跡	○			
4	広域営農団地農道整備事業	村山東部地区	富田遺跡	○			
	〃	〃	正法寺遺跡	○			
	〃	北村山地区	安久戸D遺跡			○	
	〃	〃	志田B遺跡		○		
5	農免農道整備事業	成島地区	経塚山遺跡	○	○		
6	公害防除特別土地改良事業	吉野川流域地区	富貴田遺跡			○	
	〃	〃	観音堂遺跡				○
	〃	〃	東六角遺跡				○
	〃	〃	李の木遺跡	○	○		
7	国営農地開発事業	鳥海南麓地区	金俣A遺跡	○			
	〃	〃	金俣B遺跡	○			
	〃	〃	金俣D遺跡	○			
	〃	〃	金俣E遺跡	○			
	〃	〃	金俣F遺跡	○			
	〃	〃	金俣G遺跡	○			

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会い
7	国営農地開発事業	鳥海南麓地区	金俣H遺跡	○			
	〃	〃	懐ノ内A遺跡	○			
	〃	〃	懐ノ内B遺跡	○			
	〃	〃	懐ノ内C遺跡	○			
	〃	〃	懐ノ内D遺跡	○			
	〃	〃	臂曲D遺跡	○			
	〃	〃	館の内遺跡	○			
	〃	〃	松原遺跡	○			
8	村山北部農業水利事業		原の内A遺跡		○		
	〃		鶴子中原遺跡		○		
	〃		玉野原A遺跡		○		
	〃		玉野原B遺跡		○		
9	国道13号線南陽バイパス		舟入遺跡		○		
	〃		月ノ木A遺跡		○		
	〃		月ノ木B遺跡		○		
	国道13号線米沢北バイパス		遠塚遺跡	○			
	国道13号線舟形バイパス		桶跡	○			
	〃		西ノ前遺跡	○			
	〃		仲ノ原遺跡	○			
	国道113号線歩道工事		富貴田遺跡				○
	国道113号線宮内歩道橋設置工事		東高堰遺跡				○
10	一般県道米沢県南公園自転車道線		山の神遺跡				○
	一般県道大曲・二色根線		観音堂遺跡		○		
	一般県道平塩・山辺線		塚田遺跡	○	○		
	〃		山辺北条里遺跡	○	○		
	〃		新館遺跡	○	○		
11	主要地方道新庄・戸沢線		名高遺跡				○
	主要地方道尾花沢・関山線		当岳遺跡	○			
12	東北横断自動車道仙台・秋河江線建設工事		お花山古墳群				○
	〃		新山A遺跡	○	○		
	〃		関沢B遺跡		○		
	〃		尺ノ上遺跡		○		
	〃		滑川D遺跡		○		
	〃		境谷沢遺跡	○	○		
	〃		向山遺跡		○		
13	馬見ヶ崎川中小河川改良事業		境田B遺跡	○	○		
	〃		西ノ神遺跡	○	○		
14	庄内広域水道用水供給事業		北内遺跡	○			
	〃		下名川遺跡	○			
15	埋蔵文化財包蔵地基礎調査		高蹴遺跡	○			
	〃		登之越遺跡	○			
	〃		谷地中遺跡	○			
	〃		南台遺跡	○			
	〃		館之越遺跡	○			

調査区分 ＼ 期日	昭和61年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	昭和62年 1月～3月
(1) 昭和62年度以降 農林・土木事業他関係	4/9 (A) 4/15-16 (A)	5/16-21 (B) 5/12 - 5/30 (C)	6/5 (A)			9/16 (A) 9/24 (B)	10/9 - 10/31 (A) 10/6 - 10/29 (B) 10/20	11/20 - 11/21 (C)	11/28 (B) 12/1-2 (B) 12/10-11 (B) 12/15 (B)	資料整理 報告書作成
(2) 立会い調査	4/2-4 4/2-4/12		6/12-6/18 6/23		8/21	9/12	10/8			
(3) 埋蔵文化財包蔵地 基礎調査								11/11-12 (A)		

II　調査の概要

I　昭和62年度以降農林・土木事業他関係遺跡地名表

(1) 農村基盤整備総合パイロット事業・庄内地区関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	官衙跡	新田目城跡	酒田市大字本楯字新田目	平安時代 ～ 近世	平地 (9m)	宅地 水田

(2) 県営圃場整備事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	早塚	酒田市大字横代字早塚3 他	平安時代	平地 (7m)	水田
2	集落跡	生石4	酒田市大字生石 字楯野内新田・五枚田	奈良時代	平地 (9m)	水田
3	城館跡	宮曽根楯	余目町宮曽根字家前51・宮ノ前	室町時代	平地 (5.7m)	神社境内 水田 畑地
4	包蔵地	南口A	余目町南口	近世？	平地 (7m)	水田
5	散布地	南口B	余目町南口	平安時代	平地 (8m)	水田
6	散布地	払田	余目町大字払田	平安時代	平地 (9m)	畑地 水田
7	集落跡	新田	最上町大字法田	縄文時代	段丘 (225m)	水田 畑地

(3) 県営かんがい排水事業・最上川中流地区関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	松原	山形市大字松原	平安時代	平地 (132m)	水田 畑地
2	集落跡	六壇	山形市大字松原	鎌倉時代 (?)	平地 (132m)	水田 畑地

(4) 広域営農団地農道整備事業－村山東部地区－関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	宮田	天童市上荻野戸字宮田	縄文時代 (後・晩期)	扇端 (185m)	果樹園
2	散布地	正法寺	天童市上荻野戸字正法寺	縄文時代 (中期)	山麓 (200m)	果樹園

遺跡概要	出土遺物	備考
羽越本線本楯駅の東500mに位置する。東西約600m南北約200mの範囲に、土塁・堀の一部が遺存する。		昭和58・59 No. 2007 年度酒田市教育委員会発掘調査実施

遺跡概要	出土遺物	備考
手蔵田地区北側 約700m、境川と新井田川との合流点にかかる早塚橋の南西側水田に位置する。遺物のまとまっている地点は、未検出である。	赤焼土器	No. 2043 昭和61年度県教委試掘調査実施
大槻新田部落の南東約1km、平田川左岸に位置する。平田川右岸部も遺跡範囲で、昭和61年度緊急発掘調査で丸木舟・道路跡を検出している。	土師器、須恵器	昭和53年「山形 No. 2062 県遺跡地図」位置要訂正 昭和61年度県教委試掘調査実施
宮曽根部落の東端畑地内に位置する。以前に脇差と古銭が出土したと伝えられる。遺跡域は神社境内周辺と考えられるが明確でない。	脇差、古銭が出土したと伝えられる。	No. 1707 昭和61年度県教委分布A調査実施
南口部落の南西 約250mに位置し、自然堤防と考えられる微高地が東西方向に延びる。今回試掘した地点では遺物の検出はない。	柱根	新 規（昭和61年） 昭和61年度県教委試掘調査実施
南口部落の東南方約500mの水田中に位置する。部分的に平安時代の土器片が若干分布している。今回の試掘調査では遺構・遺物の検出はない。	須恵器（採集）	新 規（昭和61年） 昭和61年度県教委試掘調査実施
払田部落の西約500m、微高地上の畑地内に位置する。今回の試掘調査では遺構・遺物の検出はないが、平安～中世期にかけての遺物が散布。	須恵器・赤焼土器・青磁椀片他が採集された。	新 規（昭和61年） 昭和61年度県教委試掘調査実施
陸羽東線大堀駅の北東 約2.5km、白川右岸の河岸段丘上に位置する。今回試掘調査した地点では遺構・遺物は検出されなかった。		No. 952

遺跡概要	出土遺物	備考
奥羽本線蔵王駅の南方約1kmの水田に位置する。南西の山麓部に近接する。		No. 66
奥羽本線蔵王駅の南西 約700m、線路西側を南北にはしる道路沿いの、水田に位置する。		No. 78

遺跡概要	出土遺物	備考
石倉地区の南方 約600mに位置する。現在はぶどう園となっている。今回の調査では遺物は発見されなかった。		No. 263 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
石倉地区の東南東 約500mに位置する。南向きのなだらかな山麓斜面に立地している。今回の調査では遺物は発見されなかった。		No. 262 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正

(5) 農免農道整備事業・成島地区関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	包蔵地	経塚山	米沢市広幡町成島字経塚山	縄文時代 ～ 近世	谷間 (280m)	山林

(6) 国営鳥海南麓地区農地開発事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	金俣A	遊佐町大字吉出字金俣	旧石器時代	山麓 (165m)	水田
2	集落跡	金俣B	遊佐町大字吉出字金俣185	縄文時代 (早・中期)	台地 (160m)	畑地
3	集落跡	金俣D	遊佐町大字吉出字金俣	縄文時代 (中期) 平安~鎌倉時代	台地 (160m)	畑地
4	集落跡	金俣E	遊佐町大字吉出字金俣	縄文時代	山麓 (175m)	畑地 荒地
5	散布地	金俣F	遊佐町大字吉出字金俣179－5	旧石器時代	山麓 (167m)	原野
6	散布地	金俣G	遊佐町大字吉出字金俣	縄文時代	山麓 (158m)	畑地
7	散布地	金俣H	遊佐町大字吉出字金俣	縄文時代	台地 (155m)	畑地
8	散布地	懐ノ内A	遊佐町大字吉出字懐ノ内	縄文時代	台地 (170m)	畑地
9	散布地	懐ノ内B	遊佐町大字吉出字懐ノ内	縄文時代	台地 (170m)	畑地
10	散布地	懐ノ内C	遊佐町大字吉出字懐ノ内	縄文時代	台地 (170m)	畑地
11	散布地	懐ノ内D	遊佐町大字吉出字懐ノ内	縄文時代	台地 (190m)	畑地
12	散布地	臂曲D	遊佐町大字吉出字臂曲	縄文時代	台地 (175m)	畑地
13	集落跡 城館跡	館の内	八幡町下黒川字松ヶ峰8の6	縄文時代 中世	台地 (180m)	畑地
14	集落跡	松原	八幡町下黒川字松ヶ峰30の6	縄文時代 (中・後期)	台地 (183m)	畑地

遺　跡　概　要	出　土　遺　物	備　考
石切山から流れる北沢の右岸にあり、山腹に堀状の遺構が認められるほか、谷間に走向の定まらない無数の溝状遺構が存在する。		新　規（昭和61年） 昭和61年度県教委緊急発掘調査実施

遺　跡　概　要	出　土　遺　物	備　考
金俣地区 東側500m、東西に走る道路の北側に位置する。		No. 2144 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
金俣地区東側 約350m、三俣へ至る道路南側の東西方向へ張り出す台地に立地する。		No. 2145 昭和57年度県教委試掘調査実施
金俣地区東側 約450m、南向きに張り出す台地の緩斜面に遺物の散布がみられる。西側で金俣B遺跡と隣接する。	土師器	No. 2147
金俣地区 東側600m、三俣へ至る道路両側に立地する。道路カッティング面の調査により遺物を採集。	チップ	No. 2148 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
金俣地区東側 約400m、三俣へ至る道路北側に立地する。		No. 2149 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
金俣地区東側 約200m、三俣へ至る道路南側の畑地に遺物が散布する。なお、南側は土取りにより破壊されている。		新　規（昭和61年）
金俣地区から三俣へ至る道路の三叉路西側の畑地に遺物の散布がみられる。	縄文土器	新　規（昭和61年）
林道一ノ滝・遊佐線と金俣地区から東西に延びる道路との十字路北西 約400m、南西側緩斜面に立地する。地権者からの聴取による。		新　規（昭和61年）
林道一ノ滝・遊佐線と金俣地区に至る東西の道路との十字路の北西 約180m、山田川右岸の丘陵斜面に遺物が散布している。	縄文土器・チップ	新　規（昭和61年）
林道一ノ滝・遊佐線と、金俣へ至る東西の道路との十字路北西側の畑地に遺物の散布がみられる。	縄文土器	新　規（昭和61年）
林道一ノ滝・遊佐線沿いの北側、「遊佐にじますセンター」の南側に位置する。遺物は、南北に細長い道路脇の畑地に散布している。	縄文土器	新　規（昭和61年）
藤井新田地区南東 約500m、冒曲公民館前の十字路南西の畑地で遺物の散布がみられる。	縄文土器・フレイク	新　規（昭和61年）
下黒川地区林道不動沢線東側の台地張り出し部に立地する。城館跡としては、幅5m、高さ2－3mの土塁と幅3m・深さ6mの空濠を確認。		No. 2250 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
下黒川地区北東方向、林道不動沢線東側の台地上に立地する。広い範囲で遺物の散布がみとめられる。	縄文土器・石鏃・フレイク・チップ	No. 2251 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正

(7) 村山北部農業水利事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	包蔵地	鵜子中原	尾花沢市鵜子字中原	縄文時代(早期)	段丘(230m)	水田
2	包蔵地	玉野原A	尾花沢市下柳渡戸字玉野原	縄文時代(早期)	段丘(225m)	畑地 水田
3	包蔵地	玉野原B	尾花沢市下柳渡戸字玉野原	縄文時代(早期)	段丘(220m)	畑地 水田

(8) 国道建設工事関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	舟入	高畠町大字深沼字舟入1660 他	平安時代	平地(212m)	畑地
2	散布地	月ノ木A	南陽市字月ノ木前	縄文時代	山麓(227m)	畑地
3	散布地	遠塚	高畠町大字川沼字遠塚	縄文時代 中世	微高地(212m)	畑地
4	城館跡	楯	舟形町舟形字楯坂	室町時代	山頂(170m)	畑地 山林
5	散布地	西ノ前	舟形町舟形字西ノ前	縄文時代(中期)	段丘(72m)	水田 畑地 荒地
6	散布地	仲ノ原	舟形町舟形字仲ノ原	縄文時代	段丘(99m)	畑地 水田

(9) 一般県道改良工事関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	塚田	山辺町大字大寺字塚田	平安時代	平地(110m)	水田
2	条里	山辺北条里	山辺町大字大寺	奈良時代 平安時代	平地(110m)	水田 畑地

(10) 主要地方道整備事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	名高	戸沢村大字名高字名高962	縄文時代(中期)	段丘(40m)	宅地 畑地
2	集落跡	当岳	村山市大字湯沢字当岳352の8・10	縄文時代 平安時代	微高地(112m)	畑地

遺跡概要	出土遺物	備考
丹生川左岸の段丘上に立地し、原の内A遺跡に隣接する。今回の調査地区は遺跡の縁辺部にあたり、土器片1点の出土にとどまった。	縄文土器	新規（昭和57年） 昭和61年度県教委試掘調査実施
丹生川左岸の段丘上に立地し、鶴子中原遺跡の北方約400mに位置する。今回の調査地区は水田化の際の撹乱が著しく、保存状況は良くない。	フレイク	新規（昭和57年） 昭和61年度県教委試掘調査実施
丹生川左岸の段丘上に立地し、玉野原A遺跡に隣接する。今回の調査地区は水田化の際の撹乱が著しく、保存状況は良くない。	フレイク	新規（昭和57年） 昭和61年度県教委試掘調査実施

遺跡概要	出土遺物	備考
国道13号線深沼地区から竹森地区へいたる道路三叉路北東側、吉野川左岸の畑地に位置する。今回の調査では、遺物包含層は未検出である。		新規（昭和57年） 昭和61年度県教委試掘調査実施
国道13号線鳥上坂登り口付近の道路東側斜面に位置する。今回の調査では、遺物のまとまりを呈する地点は未検出である。	フレイク	新規（昭和57年） 昭和61年度県教委試掘調査実施
高畠町川沼公民館の南側 約150m、和田川左岸沿いの東西に広がる微高地に立地する。遺物はこの畑地に散布している。	フレイク・陶器	新規（昭和61年）
現地踏査では城館跡遺構は未確認。現地は、山頂の平坦部となっている。なお、所在地については長沢地区と登録されており、訂正を要する。		No. 926 包蔵地調査カード所在地要訂正
国鉄舟形駅西方300m、舟形中学校北東側の、小国川に舌状に張り出す段丘上に立地する。水田部分は一部基盤整備を実施している。	縄文土器 掻器・フレイク	新規（昭和61年）
舟形町沖の原地区南側、小国川の大きく蛇行する地点の右岸台地上に立地している。段丘の縁辺付近に遺物が散布している。	縄文土器 フレイク	新規（昭和61年）

遺跡概要	出土遺物	備考
県道と町道北堰・船町線三叉路付近の東側に位置する。試掘の結果、遺構・遺物は未検出である。		No. 353 昭和61年度県教委試掘調査実施
熊沢地区の県道東側一帯に位置する。試掘の結果、条里畦畔遺構・遺物は未検出である。		No. 356 昭和61年度県教委試掘調査実施

遺跡概要	出土遺物	備考
県道神田・名高線と新庄・戸沢線との交叉路西側、鮭川右岸の段丘縁辺部に立地する。		No. 1098 昭和61年度県教委立会い調査実施
湯沢地区北側 約800mに位置する。大倉溜池西側を流れる南北堰と、当岳堰との間に位置する丘陵の南側緩斜面一帯に立地する。	縄文土器 フレイク 須恵器	No. 653

(11) 東北横断自動車道酒田線関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	墳墓	お花山古墳群	山形市大字青野字御花山	弥生時代 古墳時代	丘陵	果樹
2	集落跡	新山A	山形市大字新山	縄文時代 (早～中期)	丘陵 (404m)	山林 畑地
3	散布地	滑川D	山形市大字滑川字段ノ越	縄文時代	扇状地 (301m)	畑地 桑畑 荒地
4	散布地	尺ノ上	山形市大字滑川字山岸147 他	縄文時代 古墳時代	扇状地 (295m)	畑地・ 桑畑・水田 宅地
5	散布地	境谷沢	山形市大字釈迦堂字境谷沢	平安時代	扇状地 (274m)	杉林

(12) 馬見ヶ崎川中小河川改良事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	境田B	山形市境田町1524 他	平安時代	自然堤防 (102m)	畑地
2	散布地	西ノ神	山形市落合町字西ノ神	弥生時代	平地 (111m)	畑地 宅地 水田

(13) 庄内広域水道用水供給事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	包蔵地	北内	鶴岡市青竜寺字北内33	平安時代	山麓 (30m)	水田
2	包蔵地	下名川	朝日村下名川字萩谷地27の1	縄文時代 (大木6式)	段丘 (90m)	水田

2 埋蔵文化財包蔵地基礎調査・長井地区関係遺跡地名表

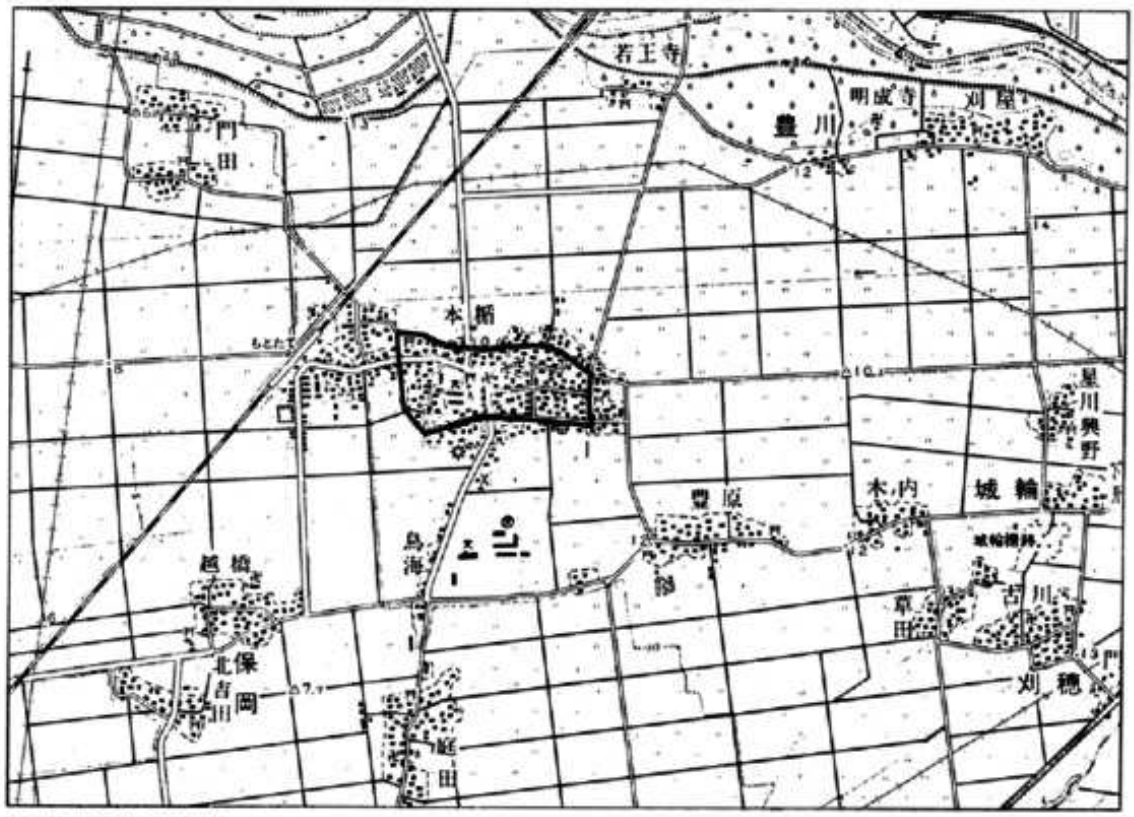
No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	高蔵	長井市寺泉字高蔵4683	縄文時代	段丘 (271m)	畑地 宅地
2	包蔵地	登之越	長井市九野本字登之越	縄文時代 (後期)	沖積平野 (212m)	水田
3	散布地	谷地中	長井市九野本字谷地中	縄文時代 (晩期) 平安時代	沖積平野 (209m)	水田
4	散布地	南台	長井市台町	古墳時代 平安時代	沖積台地 (205m)	畑地 水田 宅地
5	集落跡	館之越	長井市泉	縄文時代 (中期) 鎌倉時代	沖積台地 (208m)	畑地 荒地

遺跡概要	出土遺物	備考
古墳群の立地する小丘陵の南側全面について表土除去中に立会調査を実施した。その結果、古墳1、土坑数基を確認し、緊急調査を実施した。		No. 30 昭和61年度県教委発掘・立会い調査実施
国道286号線南側、滑川右岸の丘陵に立地する。試掘の結果、土器片が確認され、緊急発掘調査が実施された。	縄文土器	新　規（昭和55年） 昭和61年度県教委試掘・発掘調査実施
遺跡の中心は南側（国道286号線寄り）と考えられる。今回、北側を中心に実施した試掘調査では、遺構・遺物は検出されなかった。		新　規（昭和55年） 昭和61年度県教委試掘調査実施
今回は遺跡の北端部について試掘調査を実施した。該地区は、北側の山からの小礫の押出しがみられ、遺構は検出されなかった。	土師器	No. 41 昭和61年度県教委試掘調査実施
遺跡の西側、一段低い地点について試掘調査を実施した。遺構・遺物は検出されず、施工区は遺跡外となる。		新　規（昭和55年） 昭和61年度県教委試掘調査実施

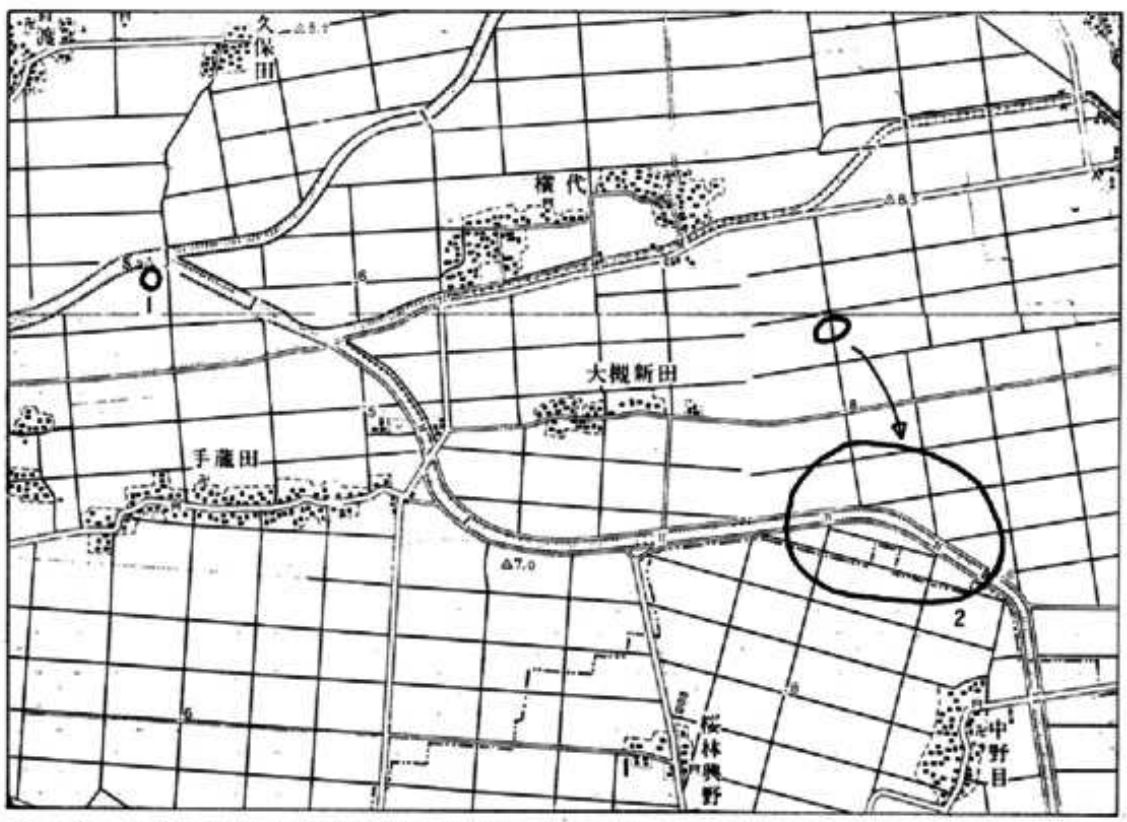
遺跡概要	出土遺物	備考
見崎浄水場の東南東 約380mに位置する。地表に若干の土師器、須恵器が散布し、地表下約1mに厚さ約10cmの遺物包含層が存在する。	土師器・須恵器	No. 134 昭和61年度県教委緊急発掘調査実施
羽前千歳駅の南方 約450mに位置し、かつて畑地で弥生土器片が採取されている。今回は遺物未発見。		No. 9 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正

遺跡概要	出土遺物	備考
市立寅金小学校の北側 約400m、青竜寺川左岸の水田に位置する。		No. 1545 昭和53年『山形県遺跡地図』位置要訂正
役場の南側 約300m、東西にのびる道路の南側に位置するが、地図上の記載位置と所在地の字名との関係については検討を要する。		No. 1879

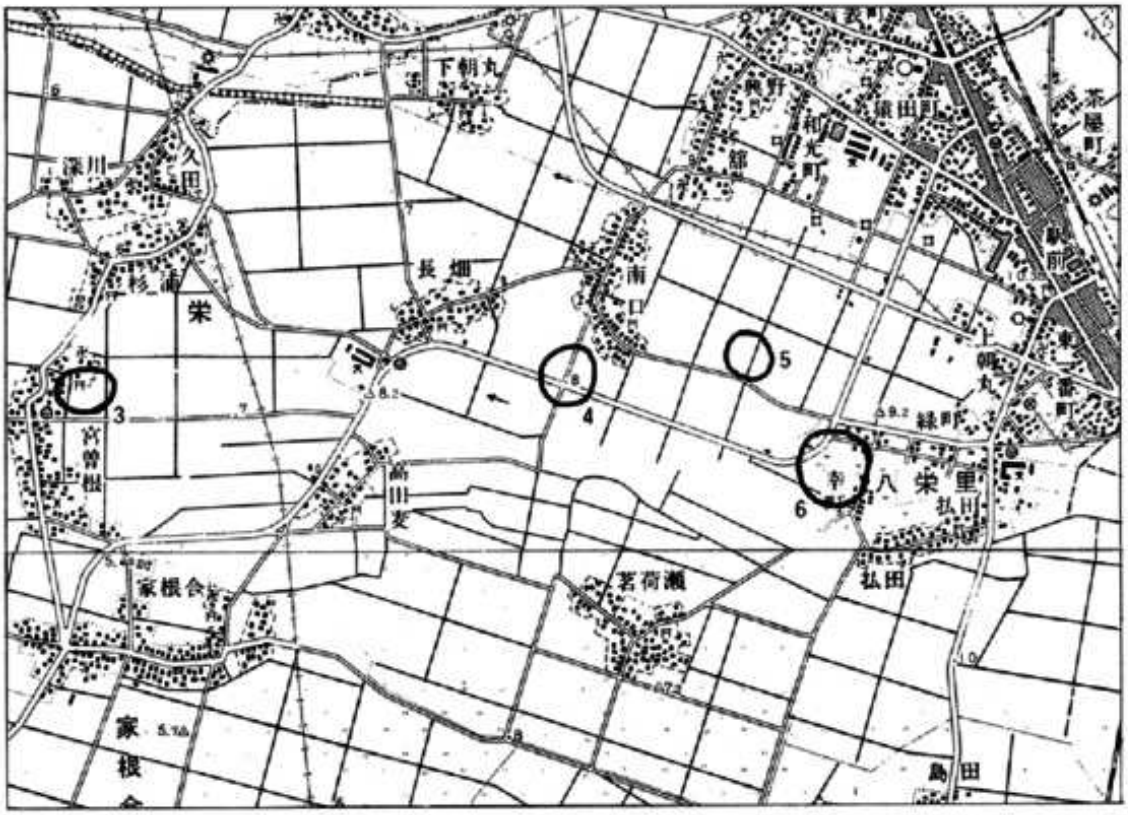
遺跡概要	出土遺物	備考
野川左岸、蛇行部により南側に張り出す地形を呈する。遺物は、広範囲に散布し、とくに上の段丘面に多く散布する。	縄文土器 掻器・フレイク	新　規（昭和61年）
石塚地区北側に位置する。以前のほ場整備事業の際、注口土器1点が発見された。水田下1m余の深さである。		新　規（昭和59年） 『長井市史』掲載
谷地寺地区と川窪地区の間に位置する。昭和45年の基盤整備事業の際、遺物が発見された。		新　規（昭和61年）
長井線西側、台町・大屋・館野地区一帯に広範囲な広がりを呈する。以前に須恵器坏7点が、採集されている。		新　規（昭和61年） 当初の南台A・Bを一括して把握する。
福田川の左岸、水田面と5mの比高差をもつ台地上に立地。発掘調査で縄文時代中期の袋状土坑等が検出されている。		No. 1361 昭和45・46・49年長井市教委調査実施。

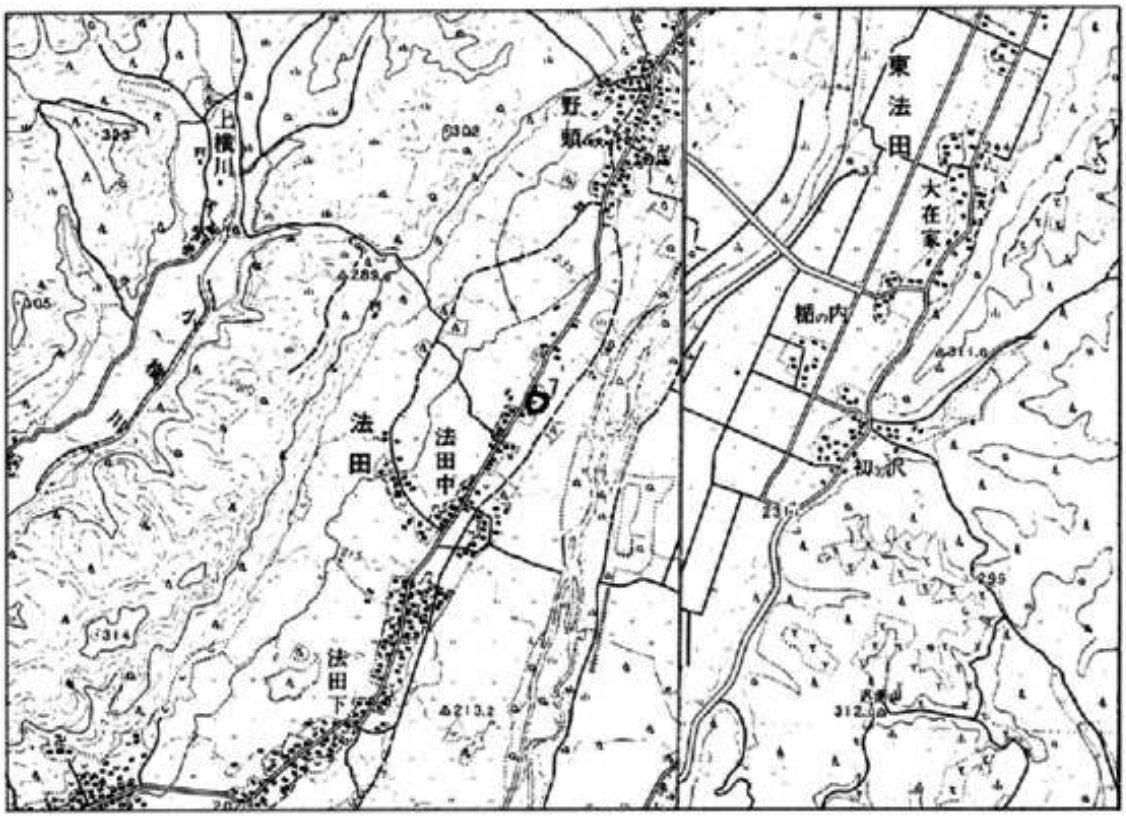


農村基盤総合整備パイロット事業関係遺跡地図（S＝1：25,000）

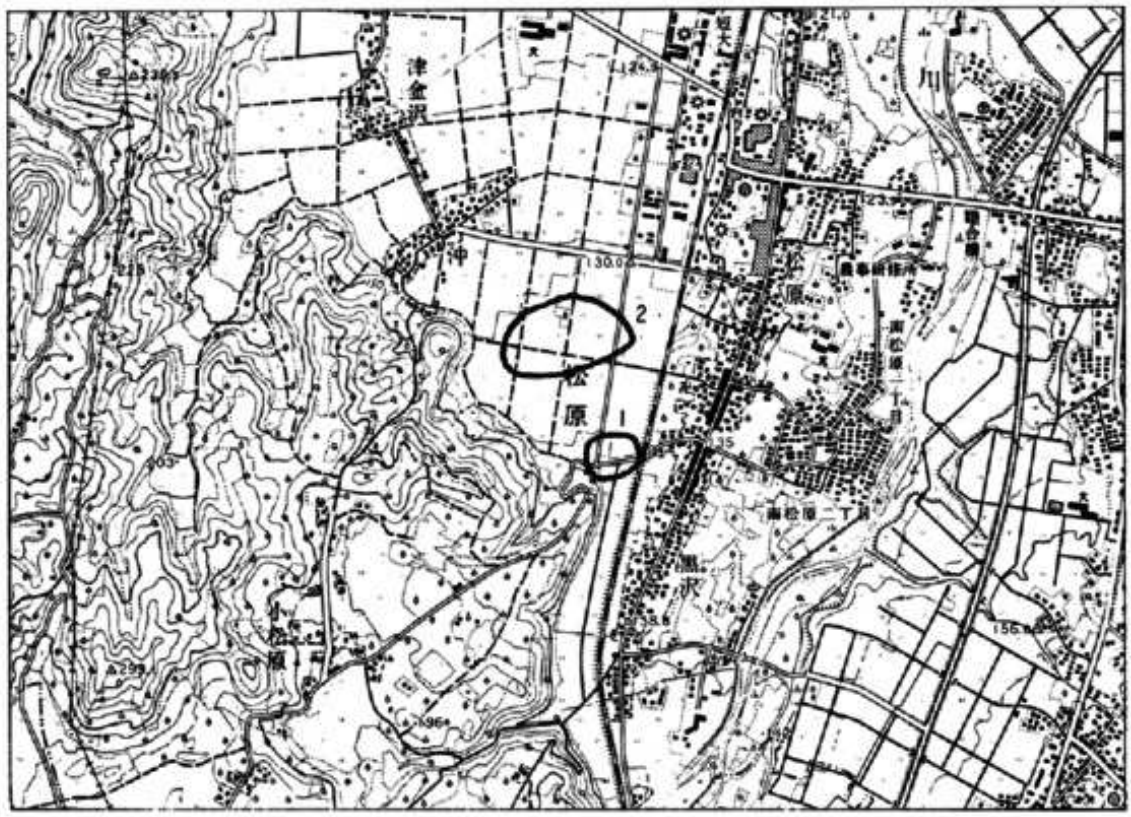


第1図　県営圃場整備事業関係遺跡地図（1）（S＝1：25,000）

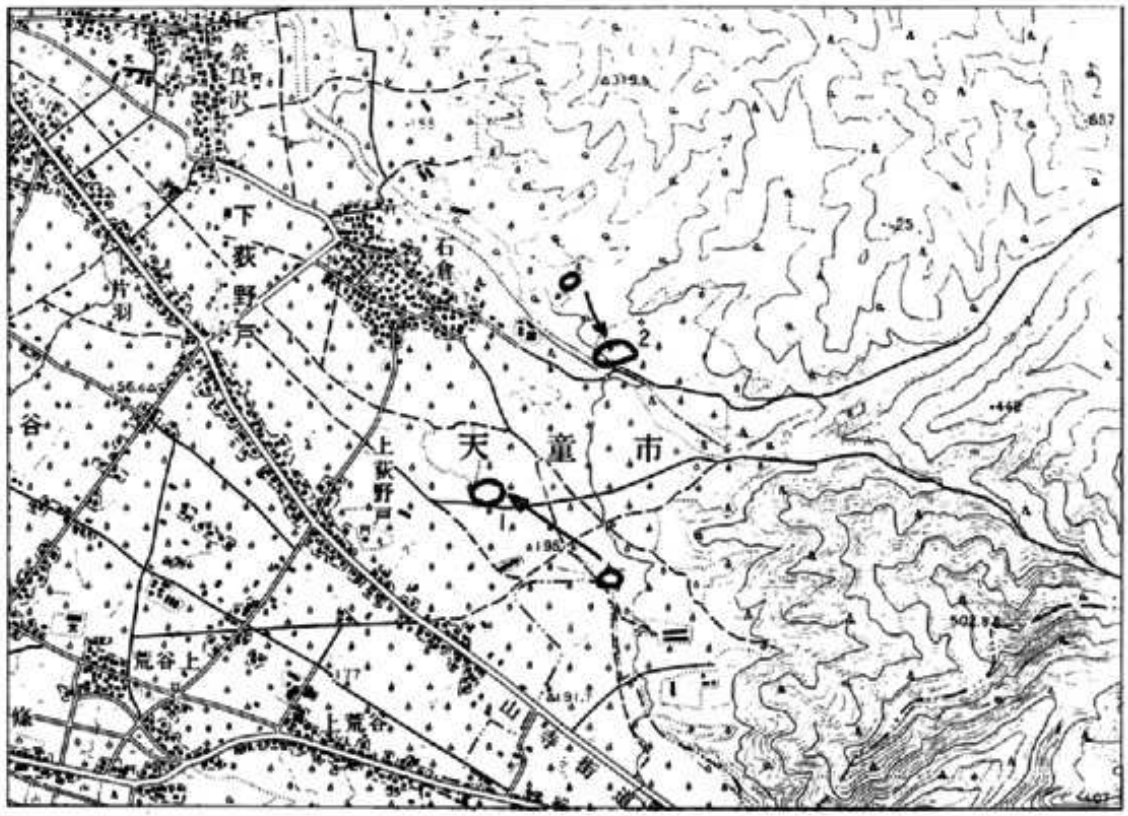




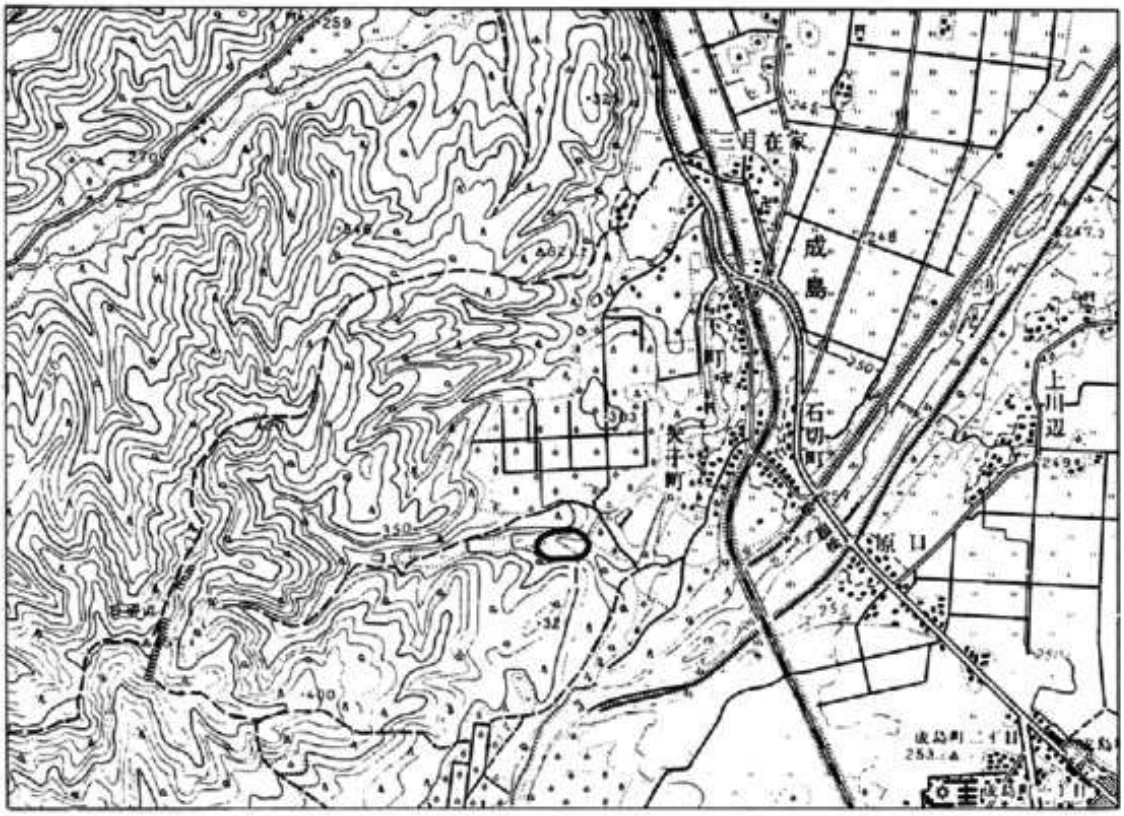
第２図　県営圃場整備事業関係遺跡地図（２）（S＝1：25,000）



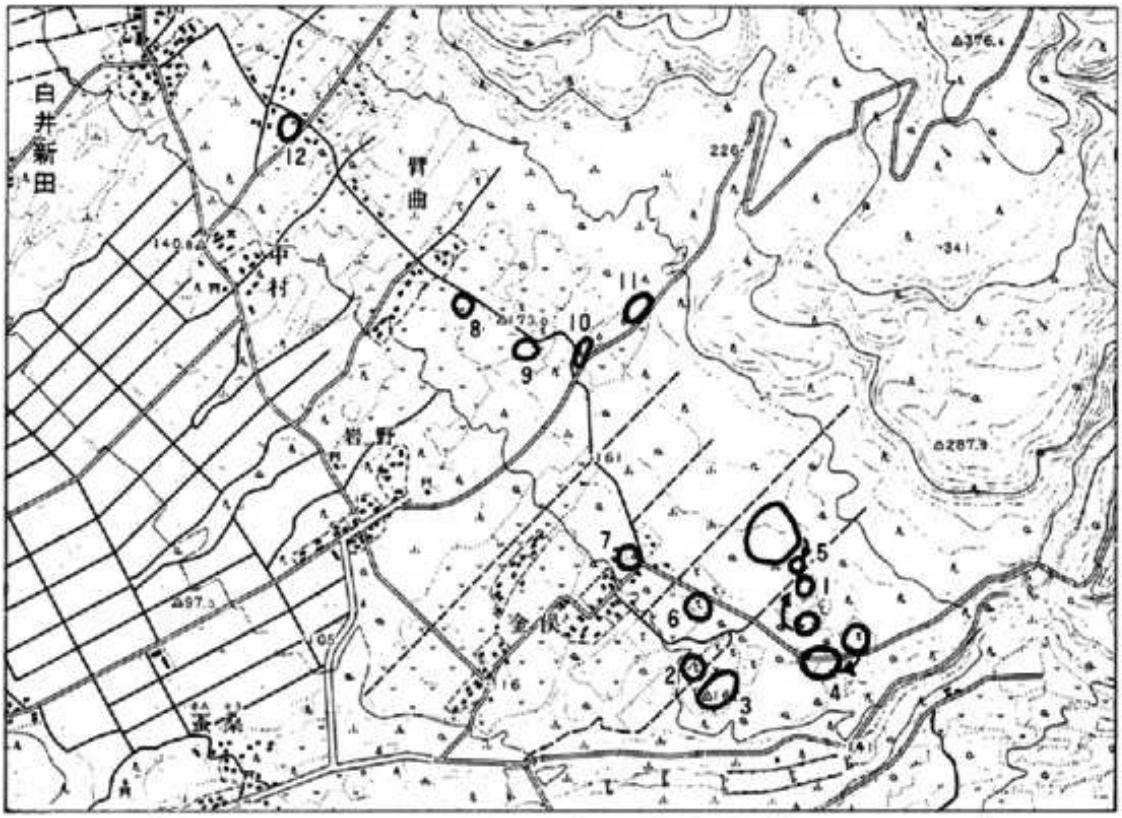
県営かんがい排水事業関係遺跡地図（S＝1：25,000）



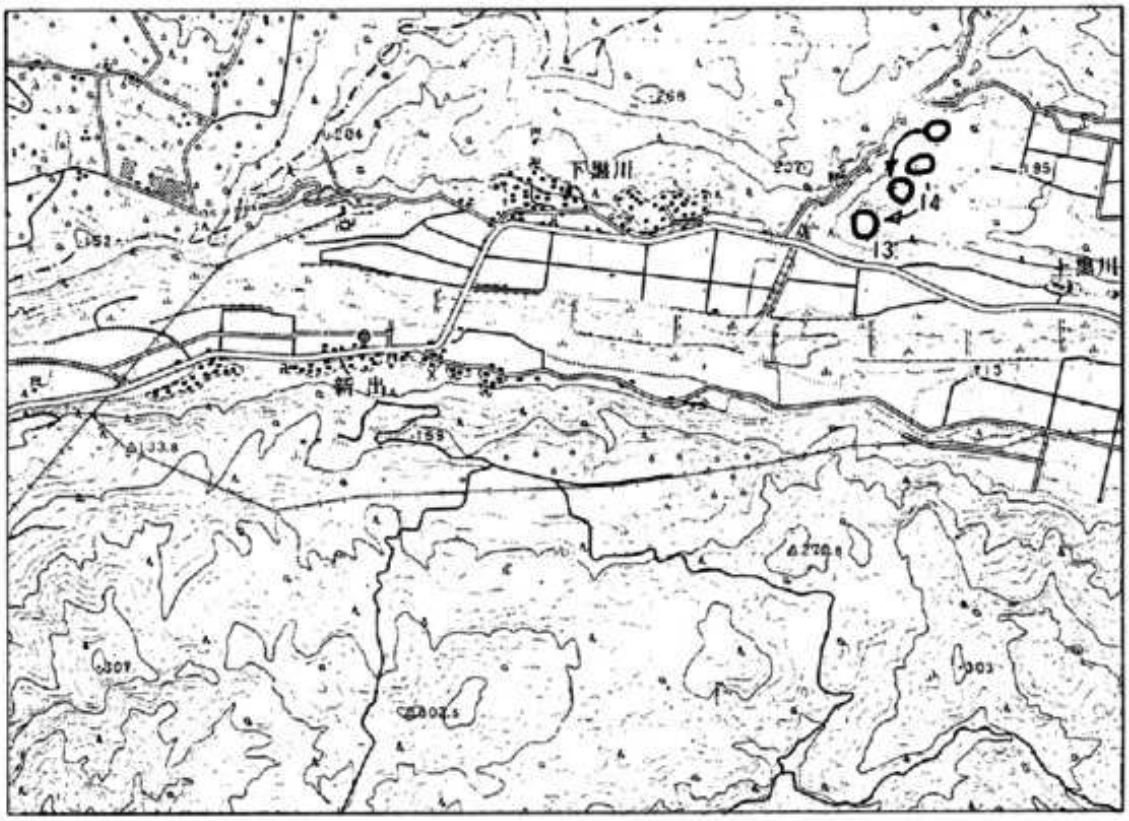
第3図　広域営農団地農道整備事業―村山東部地区―関係遺跡地図（S＝1：25,000）



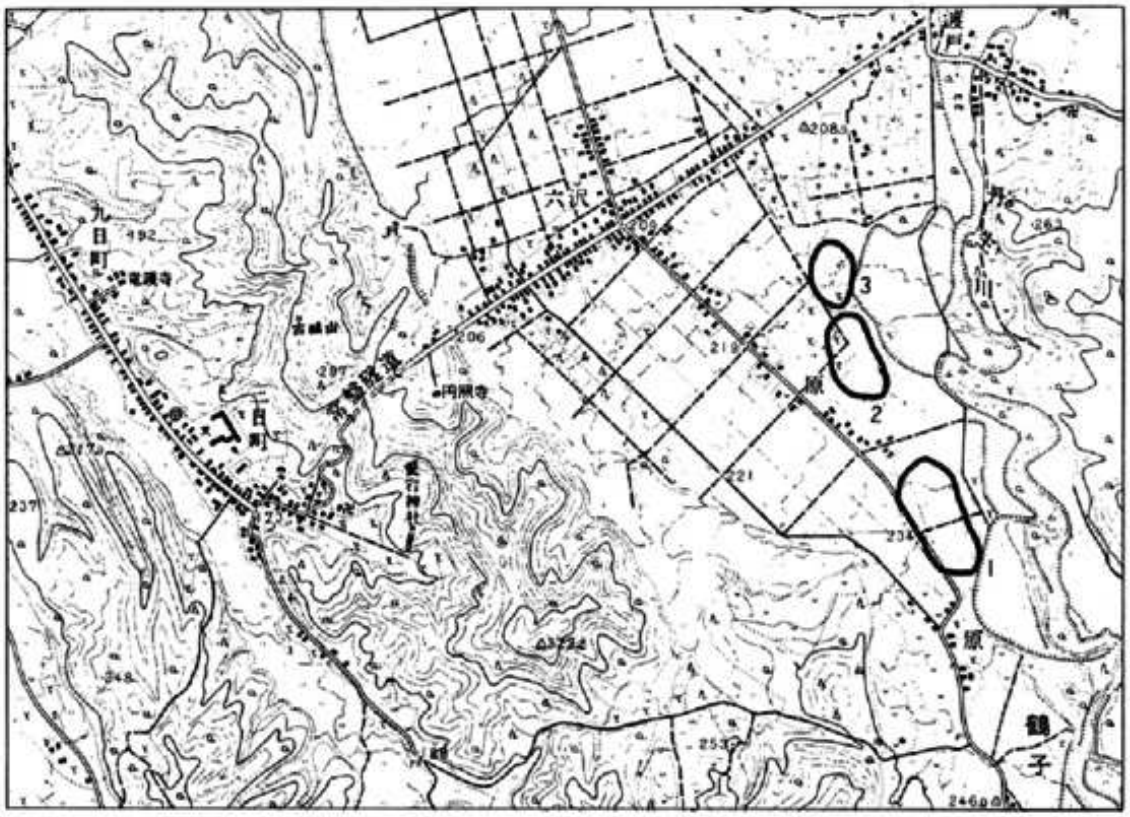
農免農道整備事業・成島地区関係遺跡地図（S＝1：25,000）



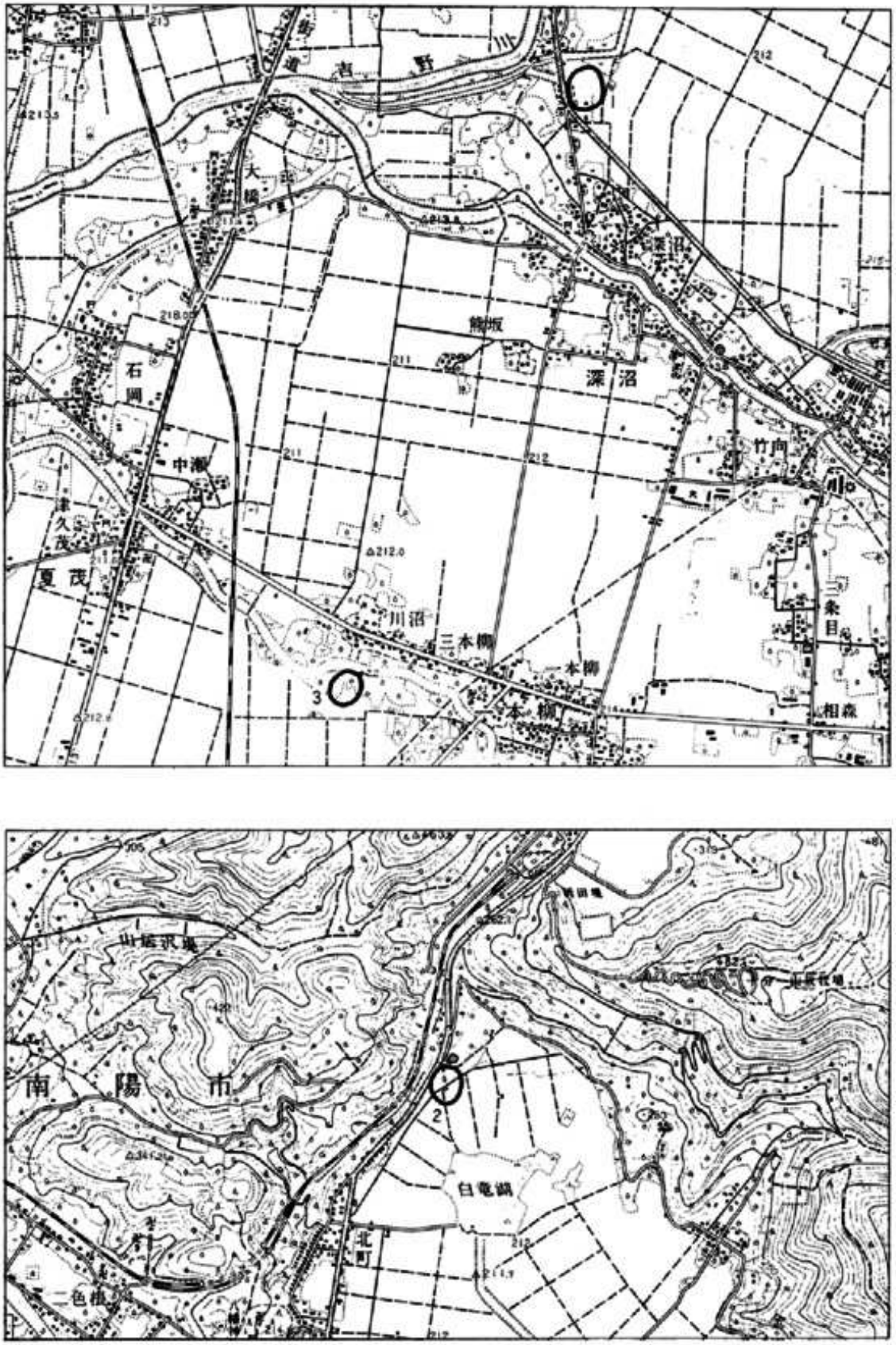
第4図　国営鳥海南麓地区農地開発事業関係遺跡地図（1）（S＝1：25,000）



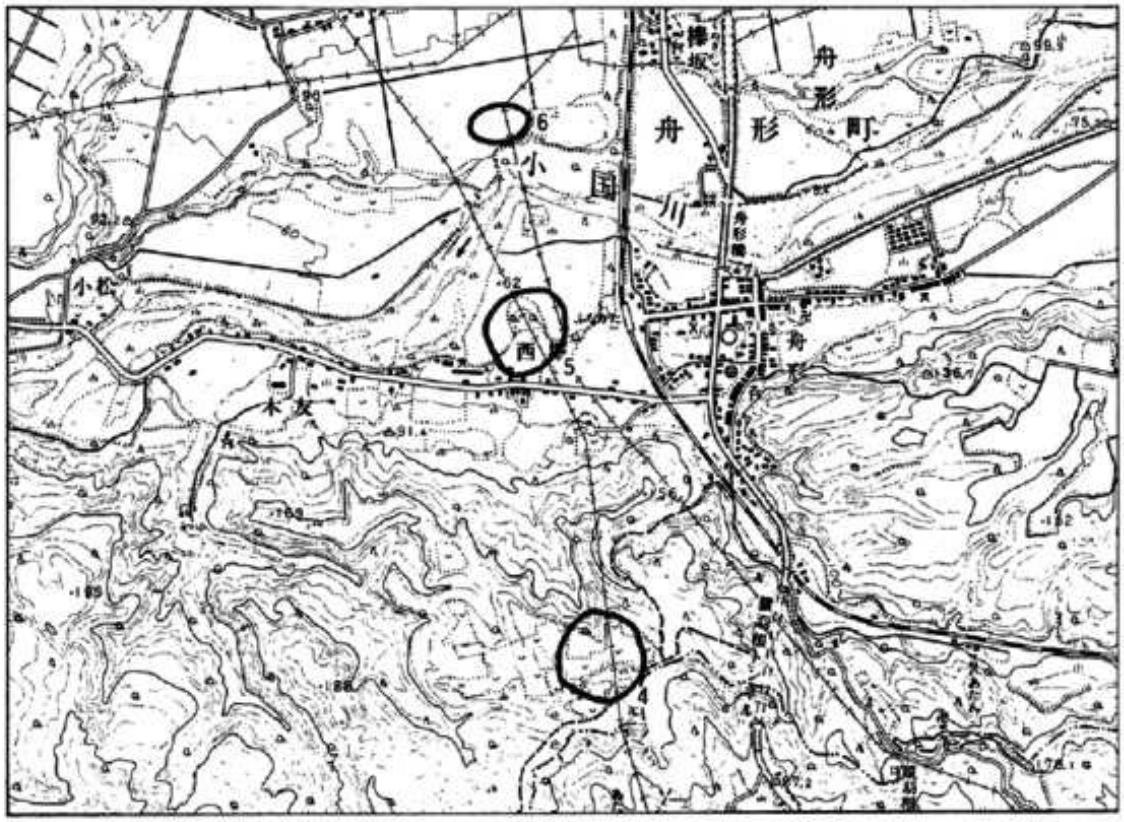
国営鳥海南麓地区農地開発事業関係遺跡地図（２）（S＝１：25,000）



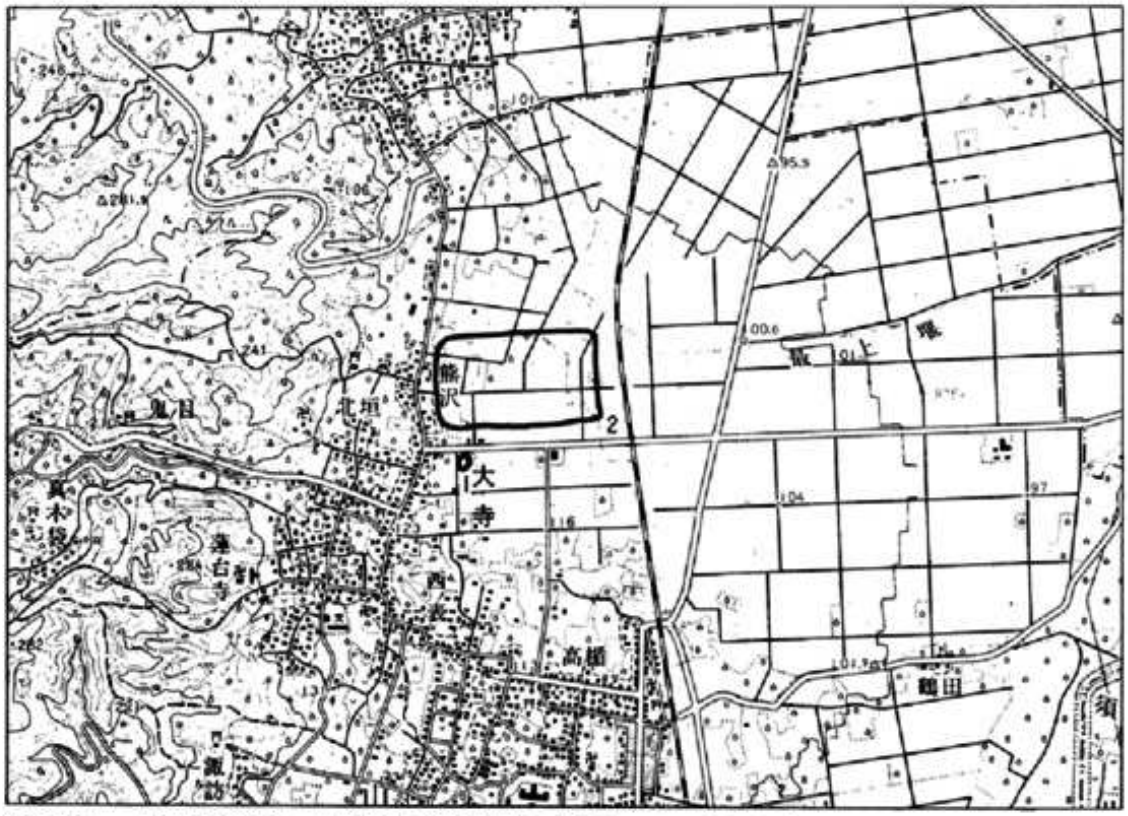
第５図　村山北部農業水利事業関係遺跡地図（S＝１：25,000）



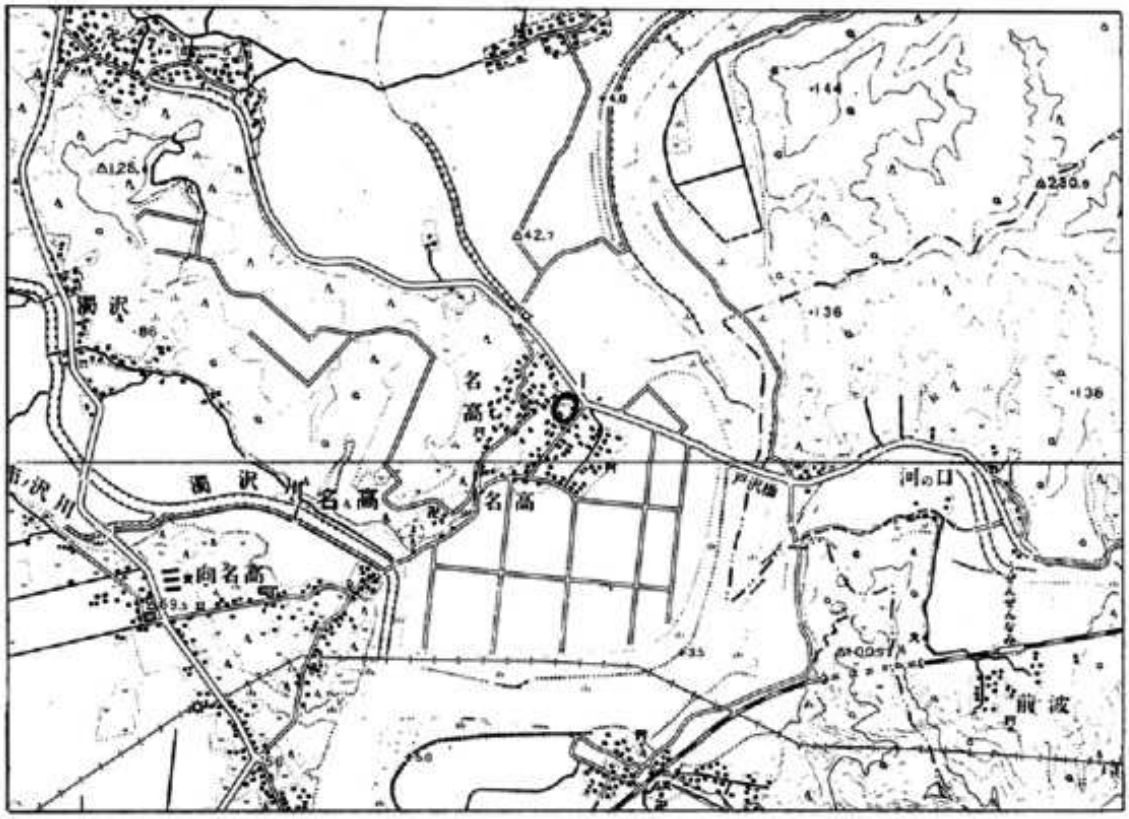
第６図　国道13号線南陽バイパス関係遺跡地図（Ｓ＝１：25,000）



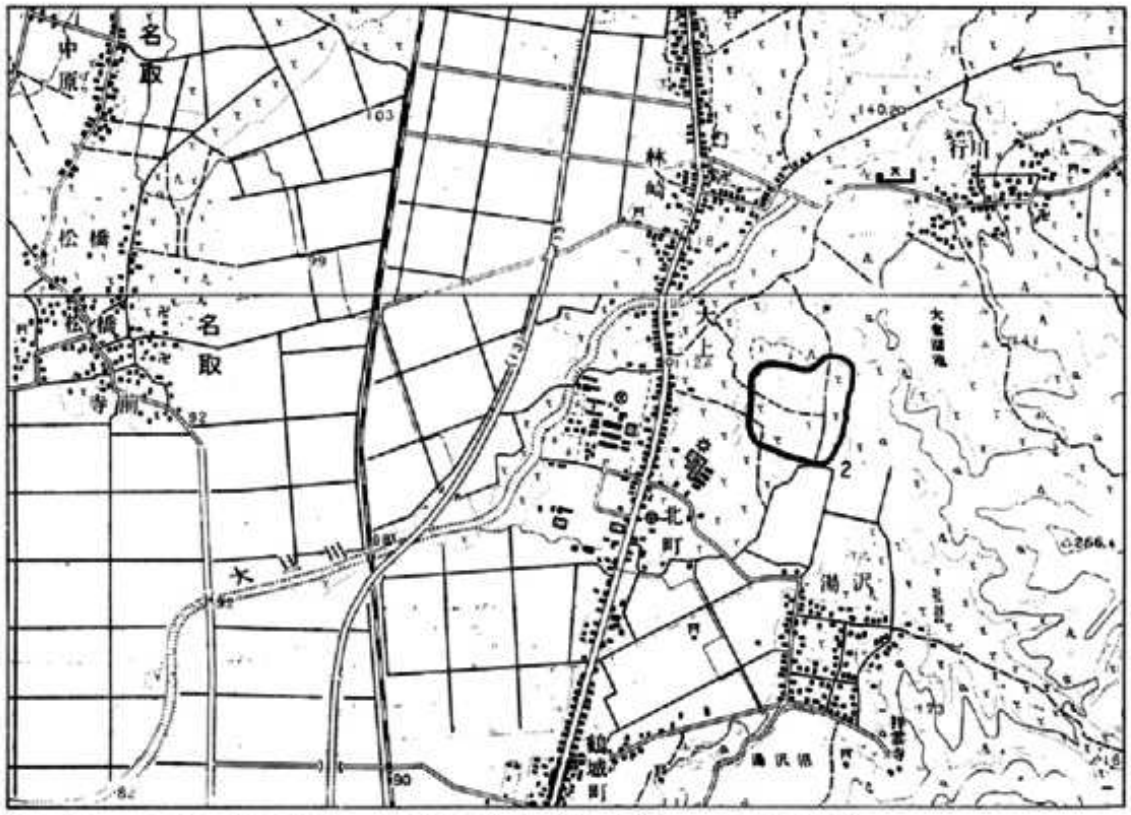
国道13号線舟形バイパス関係遺跡地図（S＝1：25,000）



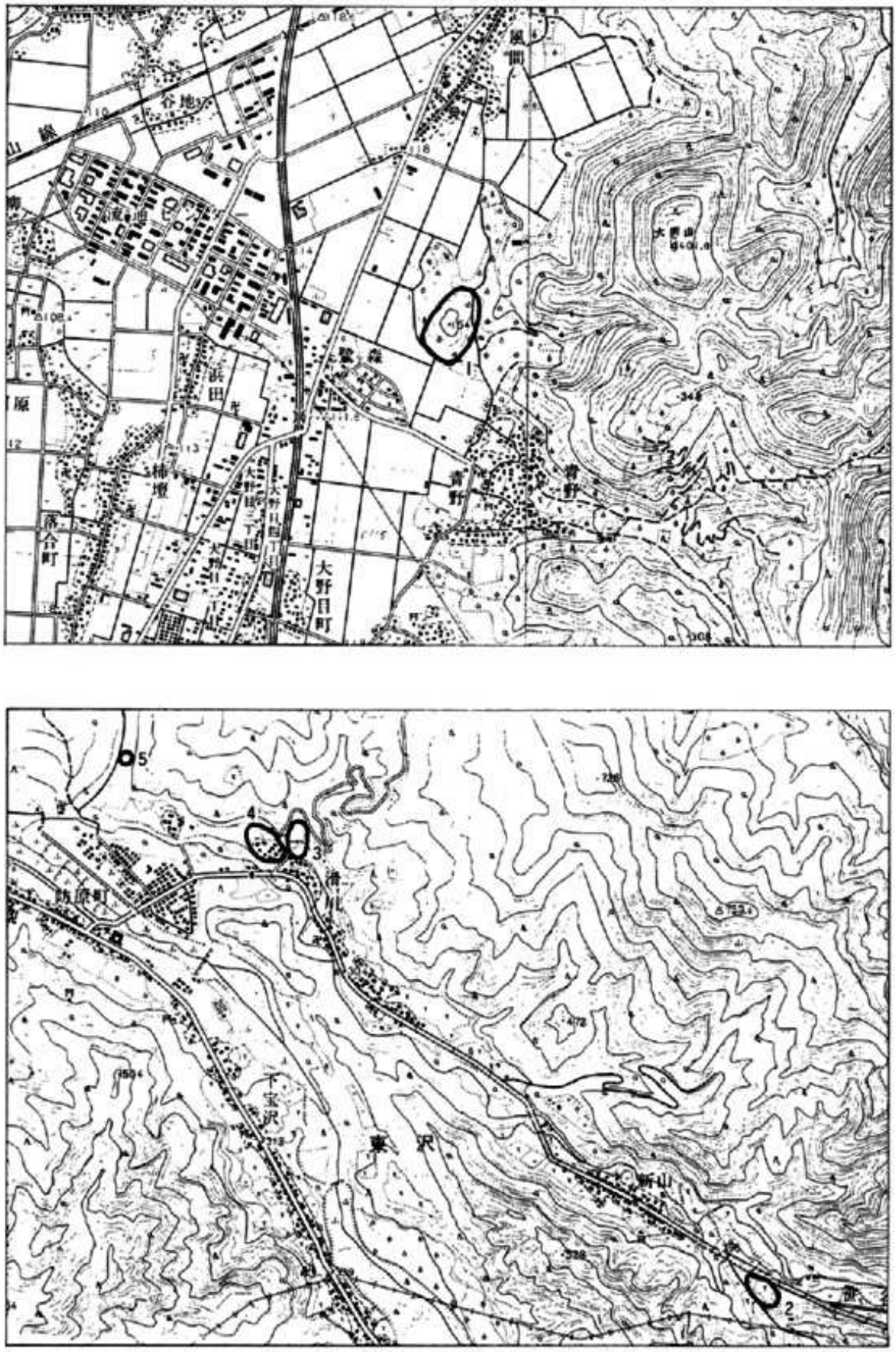
第7図　一般県道平塩・山辺線関係遺跡地図（S＝1：25,000）



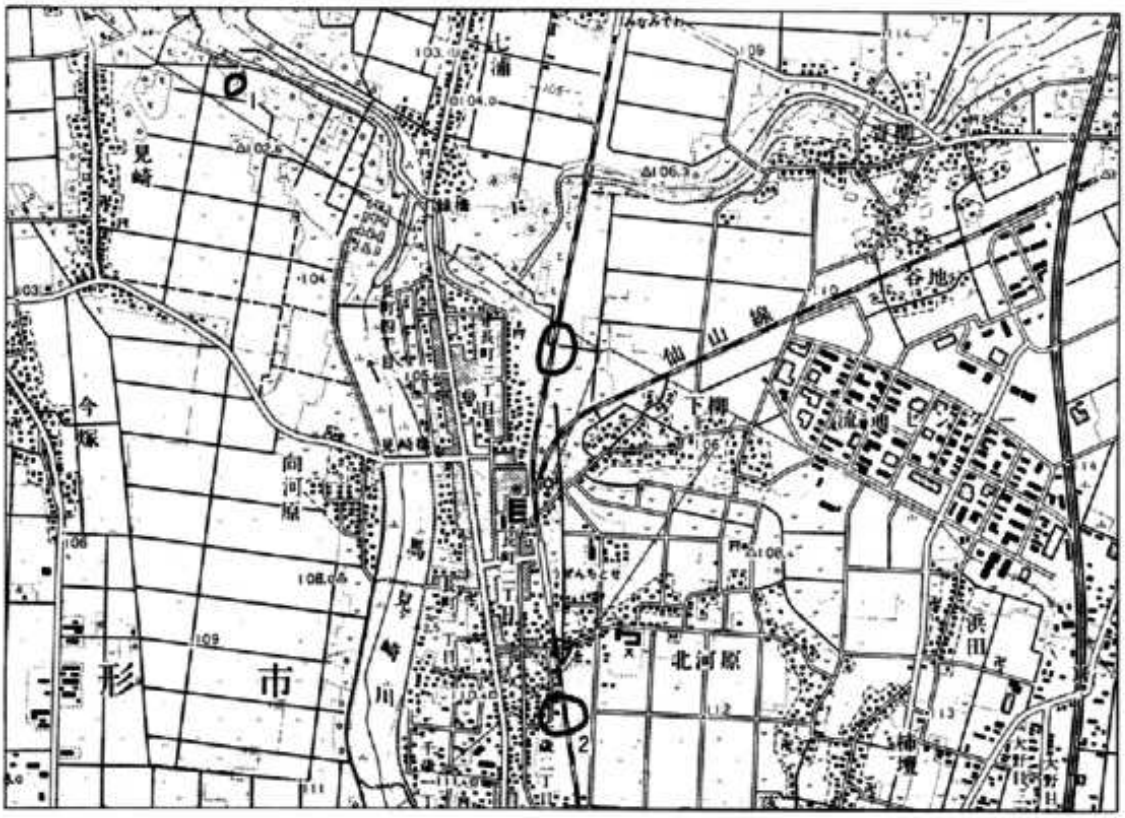
主要地方道新庄・戸沢線関係遺跡地図（S＝1：25,000）



第8図　主要地方道尾花沢・関山線関係遺跡地図（S＝1：25,000）

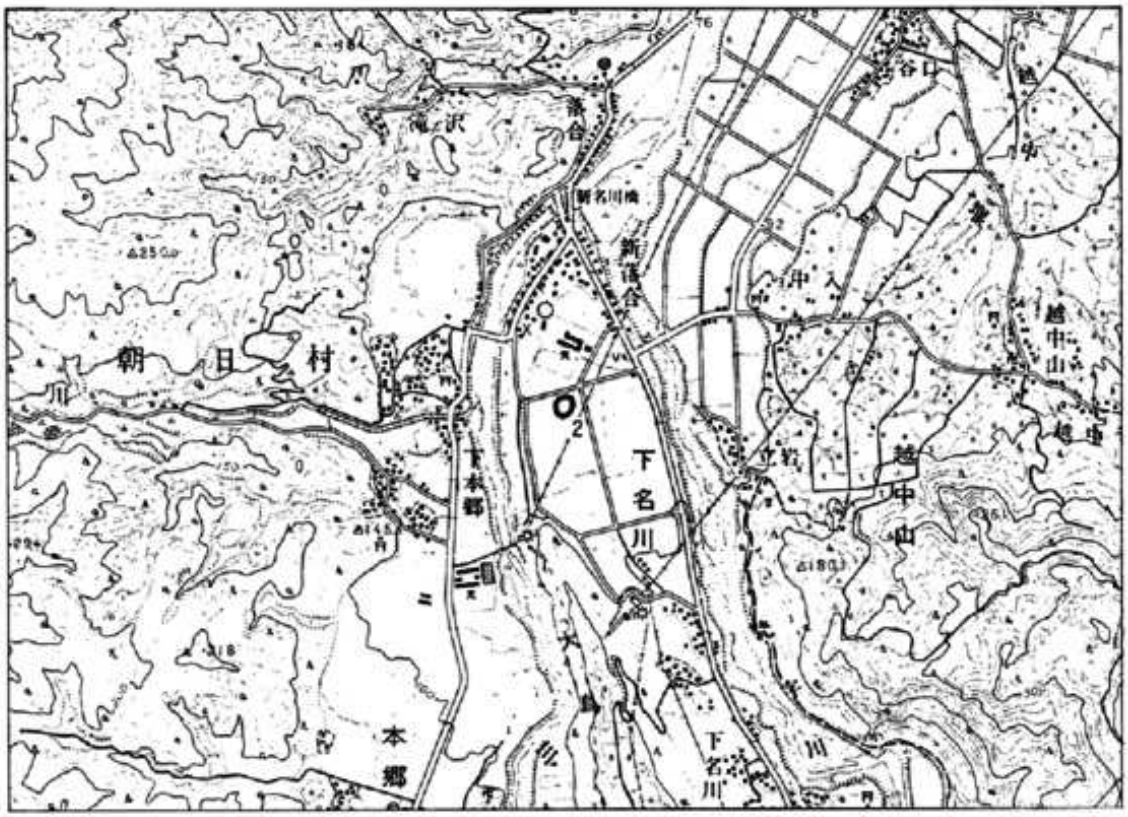


第9図　東北横断自動車道仙台・寒河江線建設工事関係遺跡地図（S＝1：25,000）

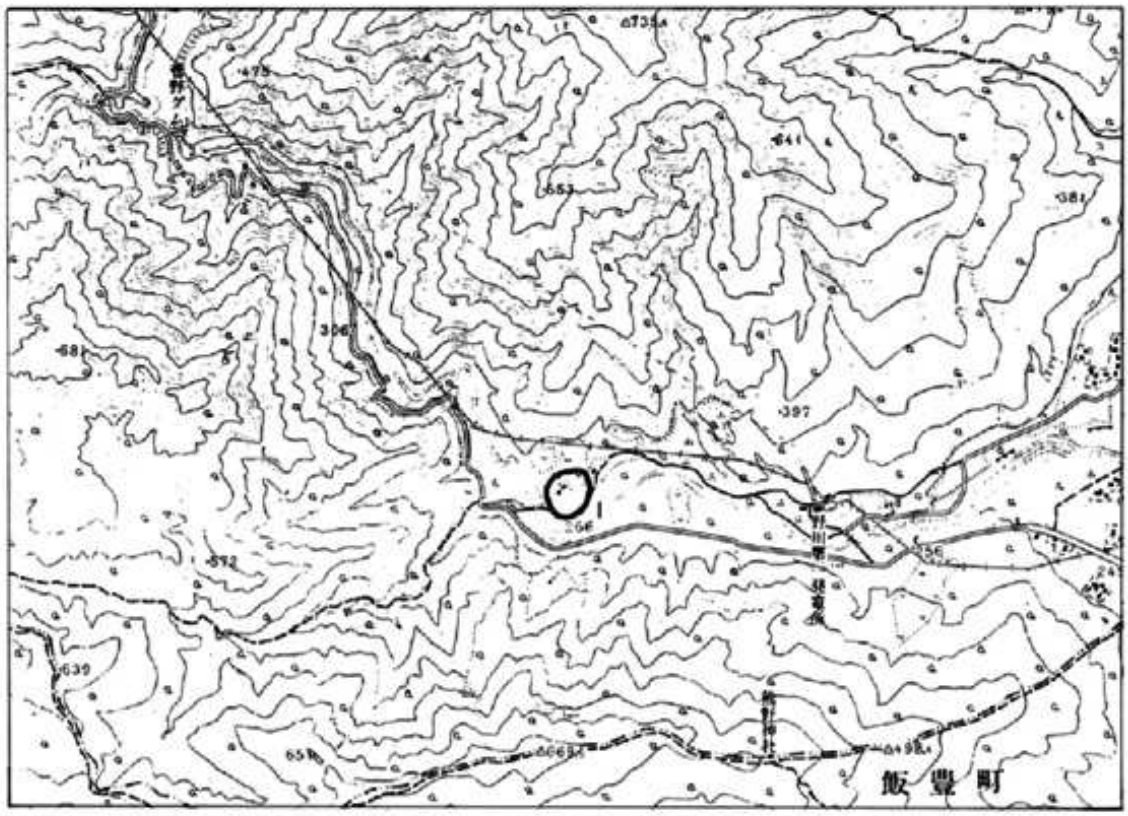


馬見ヶ崎川中小河川改良事業関係遺跡地図（S＝1：25,000）

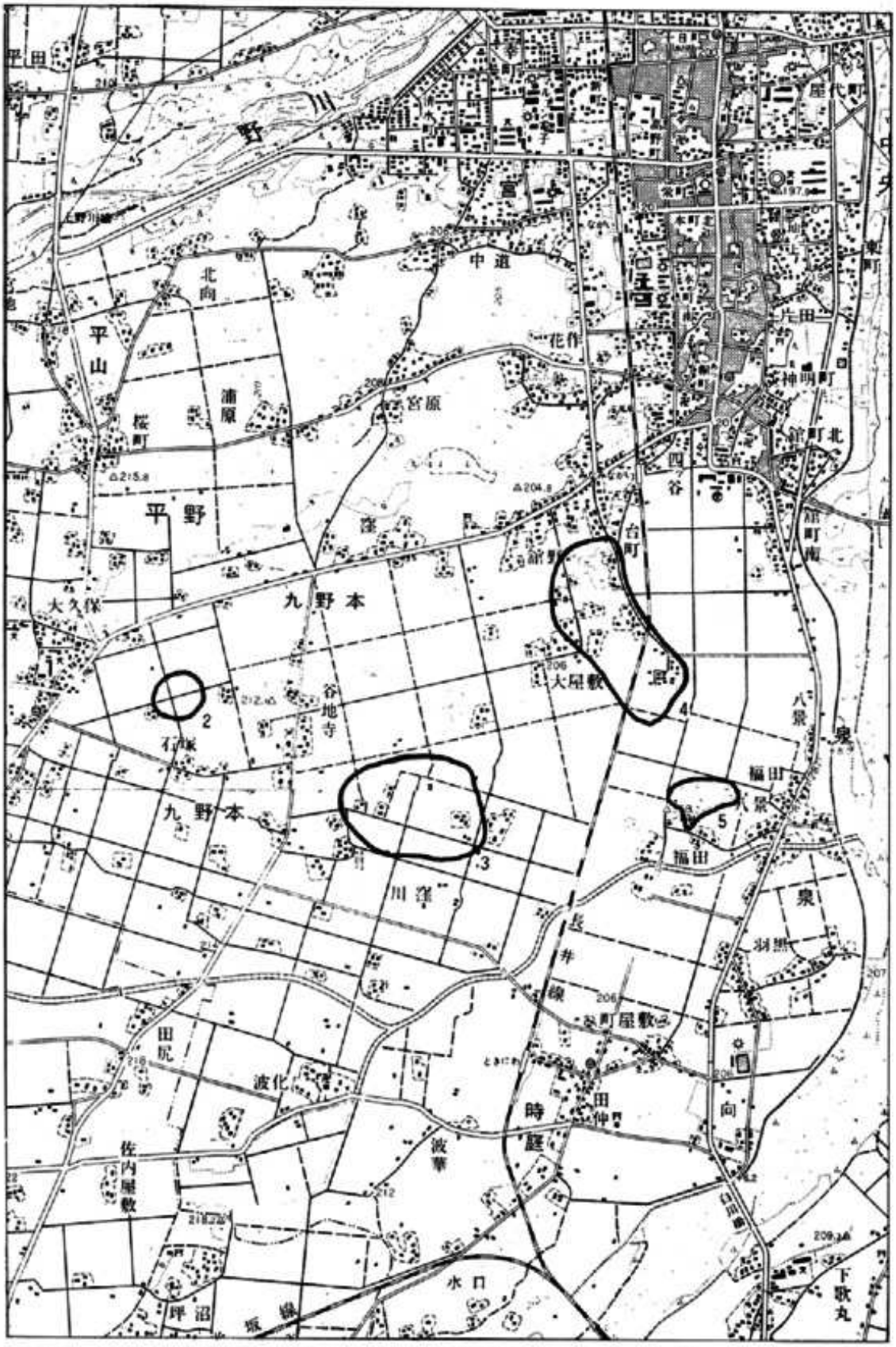
第10図　庄内広域水道用水供給事業関係遺跡地図（1）（S＝1：25,000）



庄内広域水道用水供給事業関係遺跡地図（２）（S＝１：25,000）



第11図　埋蔵文化財包蔵地基礎調査・長井地区関係遺跡地図（１）（S＝１：25,000）



第12図　埋蔵文化財包蔵地基礎調査・長井地区関係遺跡地図（2）（S＝1：25,000）

新田目城跡近景（北から）

早塚遺跡近景（北東から）

生石４遺跡近景（西から）

南口Ａ遺跡近景（南から）

南口Ｂ遺跡近景（南から）

払田遺跡近景（北から）

新田遺跡近景（北から）

松原遺跡近景（北から）

図版１　農林事業関係遺跡（１）

六壇遺跡近景（北から）

宮田遺跡近景（南から）

経塚山遺跡近景（北から）

金俣Ｅ遺跡近景（南から）

金俣Ｅ遺跡近景（西から）

金俣Ｅ遺跡採集遺物

金俣Ｇ遺跡近景（北から）

金俣Ｇ遺跡採集遺物

図版２　農林事業関係遺跡（２）

金俣H遺跡近景（北東から）

金俣H遺跡採集遺物

懐ノ内A遺跡近景（北から）

懐ノ内B遺跡近景（東から）

懐ノ内B遺跡採集遺物

懐ノ内C遺跡近景（北から）

懐ノ内C遺跡採集遺物

懐ノ内D遺跡近景（北から）

図版3　農林事業関係遺跡（3）

懐ノ内D遺跡採集遺物

臂曲D遺跡近景（北西から）

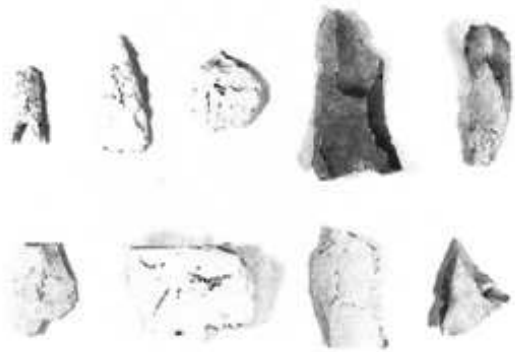
臂曲D遺跡採集遺物

館の内遺跡遠景（西から）

館の内遺跡空濠跡

松原遺跡近景（西から）

松原遺跡採集遺物（土器）



松原遺跡採集遺物（石器）

図版4　農林事業関係遺跡（4）

鶴子中原遺跡近景（北から）

玉野原A遺跡近景（南から）

玉野原B遺跡近景（南から）

舟入遺跡近景（北から）

月ノ木A遺跡近景（東から）

遠塚遺跡近景（東から）

遠塚遺跡採集遺物

櫃跡遠景（北から）

図版5　農林事業関係遺跡（5）・土木事業関係遺跡（1）

西ノ前遺跡遠景（北から）

西ノ前遺跡近景（北から）

西ノ前遺跡採集遺物

仲ノ原遺跡遠景（南西から）

仲ノ原遺跡近景（北西から）

仲ノ原遺跡採集遺物

塚田遺跡近景（北から）

山辺北条里遺跡近景（南から）

図版６　土木事業関係遺跡（２）

当岳遺跡近景（南から）

当岳遺跡採集遺物（1）

当岳遺跡採集遺物（2）

名高遺跡近景（東から）

お花山古墳群近景（西から）

新山A遺跡近景（北から）

滑川D遺跡近景（北東から）

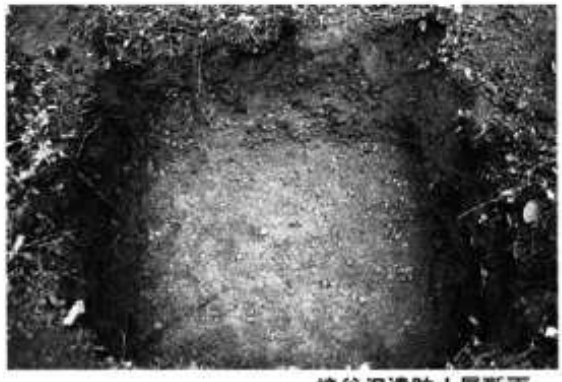
滑川D遺跡土層断面

図版7　土木事業関係遺跡（3）

尺の上遺跡近景（南から）

尺の上遺跡土層断面

境谷沢遺跡近景（西から）



境谷沢遺跡土層断面

境田Ｂ遺跡近景（南西から）

北内遺跡近景（南から）

下名川遺跡近景（南から）

高蹴遺跡遠景（南西から）

図版８　土木事業関係遺跡（４）・埋蔵文化財包蔵地基礎調査・長井地区関係遺跡（１）

高瀬遺跡採集遺物

登之越遺跡近景（南から）

登之越遺跡出土遺物（長井市教育委員会保管）

谷地中遺跡近景（東から）

谷地中遺跡出土遺物（長井市教育委員会保管）

南台遺跡近景（東から）

南台遺跡出土遺物（長井市教育委員会保管）

館之越遺跡近景（北から）

図版 9　埋蔵文化財包蔵地基礎調査・長井地区関係遺跡（２）

3　C調査実施遺跡

（1）公害防除特別土地改良事業・吉野川流域地区関係遺跡

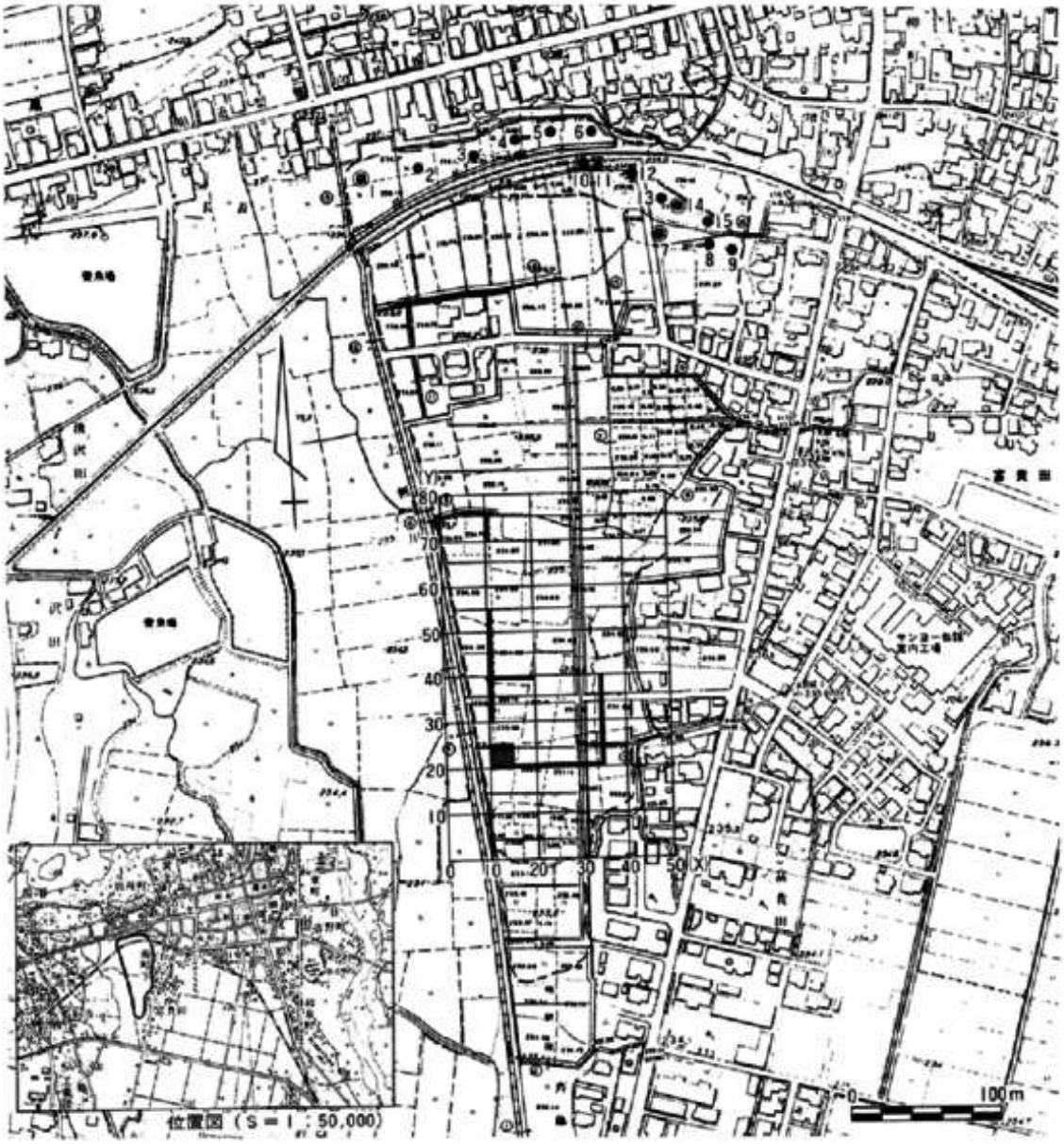
a　富貴田（とみきだ）遺跡（新　規　昭和60年）

所　在　地　山形県南陽市大字宮内字富貴田二・富貴田三・大壇一・大壇二・大壇三

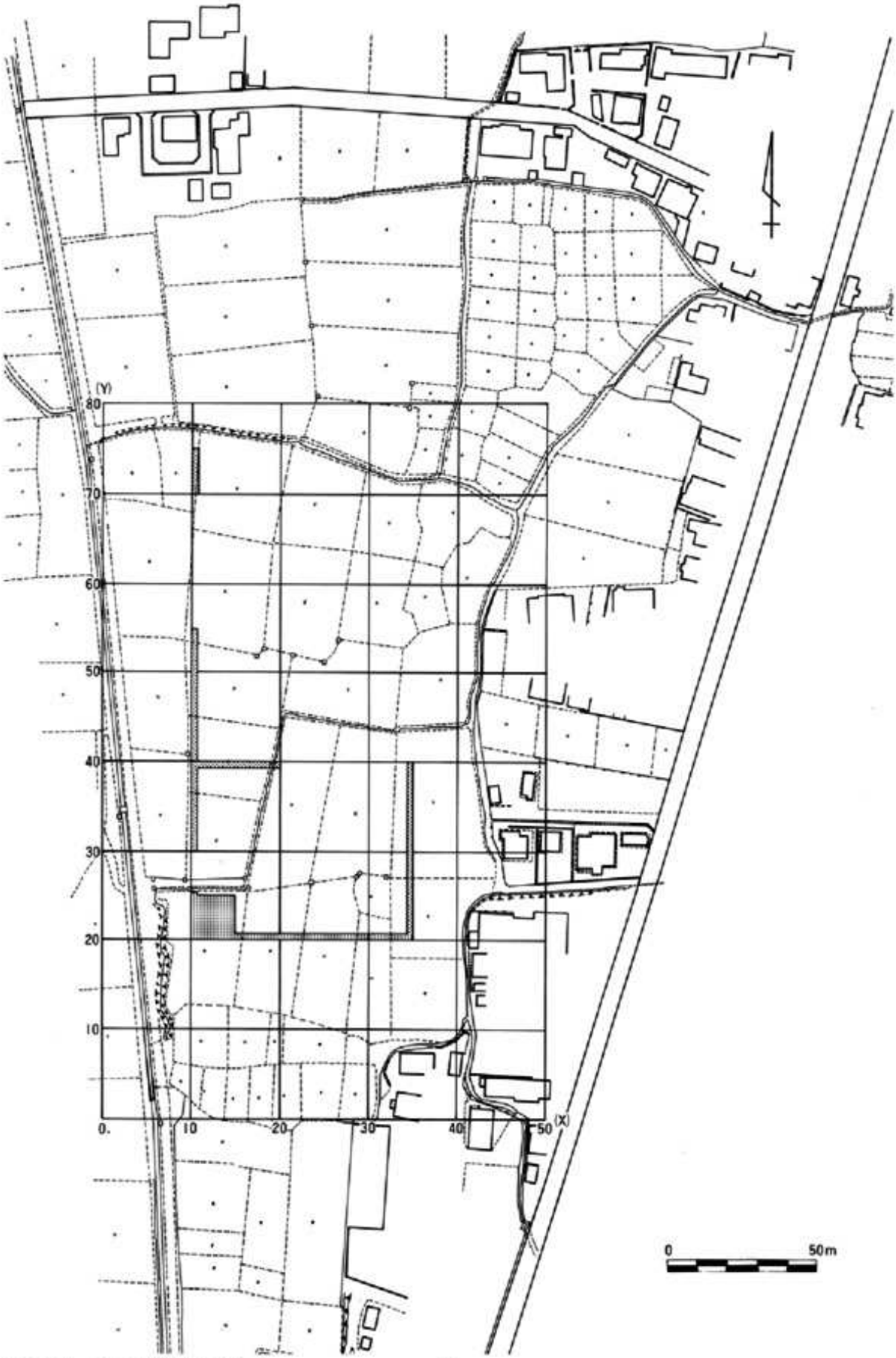
調　査　員　名和達朗

調査期日　C調査　昭和61年5月12日～30日（延べ12日）

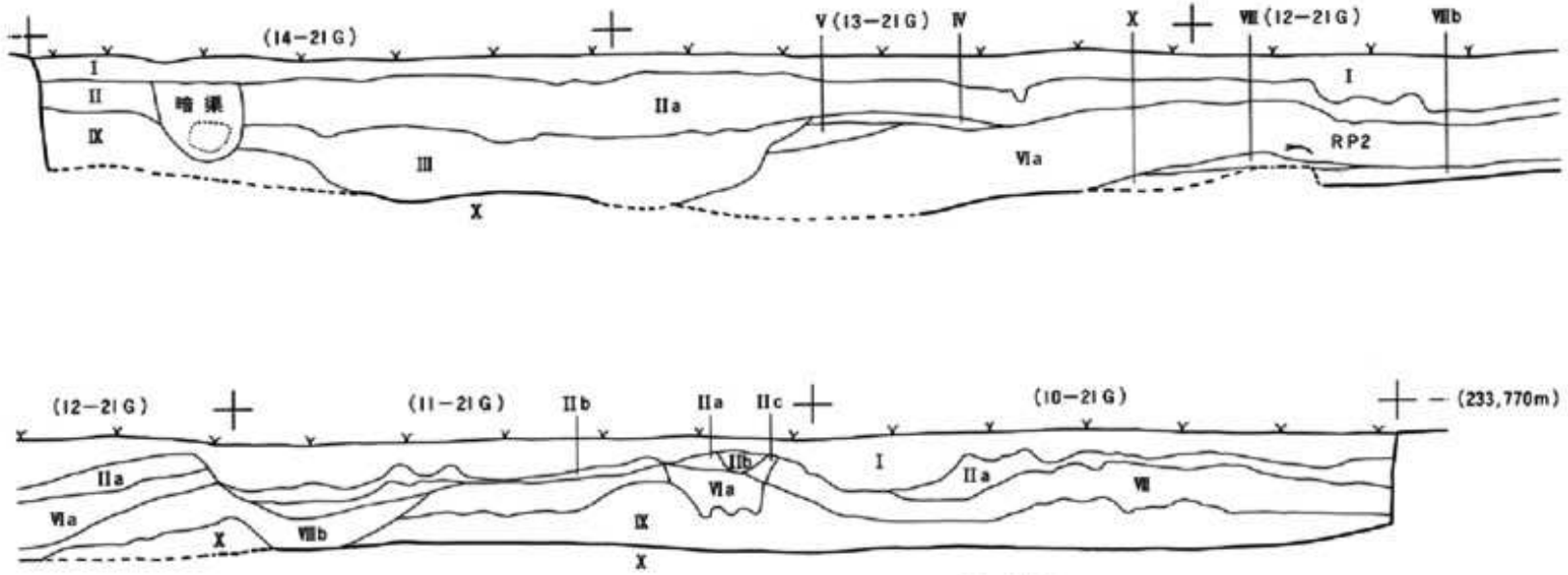
遺跡の概要　本遺跡は、国鉄長井線宮内駅西方約400mの水田にあり、国道113号線北側主要地方道山形・南陽線沿いの住宅地西側に広がる沖積平野に立地する。標高は、約 234mを測る。遺跡は、昭和60年度に南陽市教育委員会が実施した分布調査により確認されたもので、新規である。



第13図　富貴田遺跡概要図



第14図　富貴田遺跡全体図

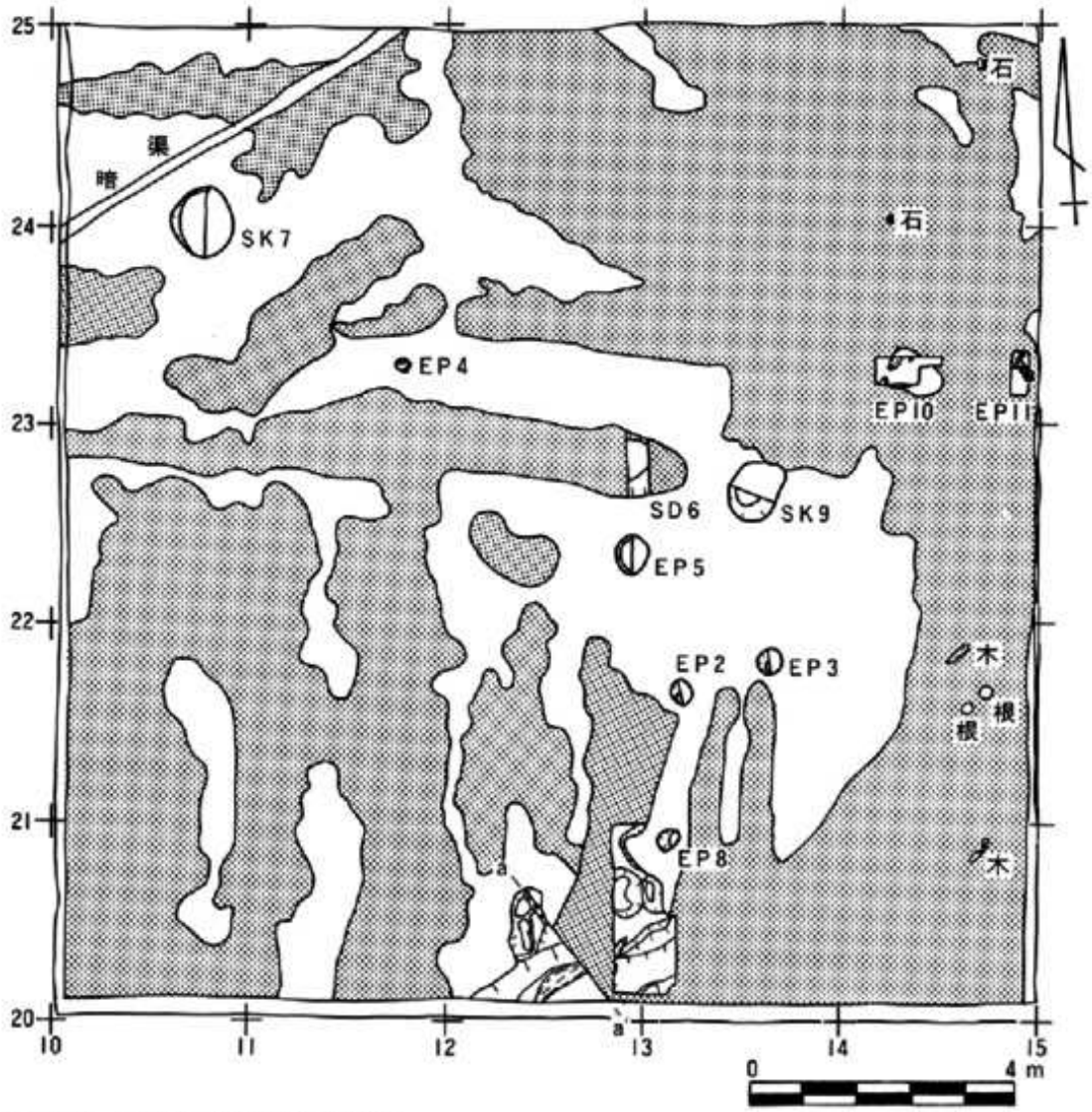


I　層：耕作土
II a層：黒褐色粘土（均一、水田床土）
II b層：　〃　（褐色・黒褐色粘土混じり）
II c層：　〃　（Ⅷ層よりも明るい色調）
III　層：暗褐色粘土（泥炭）
IV　層：暗灰色粘土（均一）
V　層：砂質粘土
VI a層：黒色粘土（下部に土器を含む）
VI b層：赤褐色シルト（下部に灰白色シルトを含む）
Ⅶ　層：黒色粘土（青灰色を帯びている）
Ⅷa層：暗褐色粘土（泥炭）
Ⅷb層：　〃　（下部に砂を含む）
IX　層：青灰色粘土（部分的に砂を含む）
X　層：粗　砂（小石を含む）

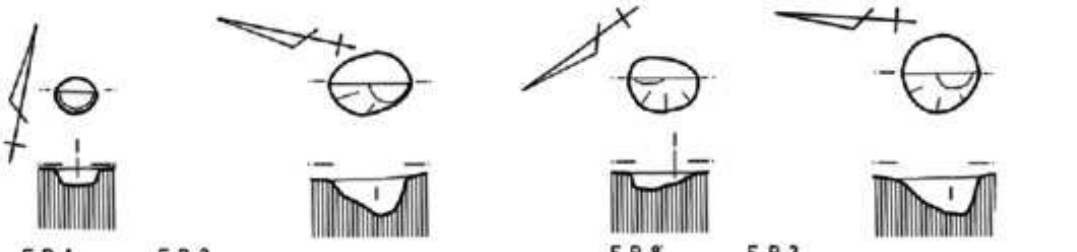
第15図　富貴田遺跡土層断面図

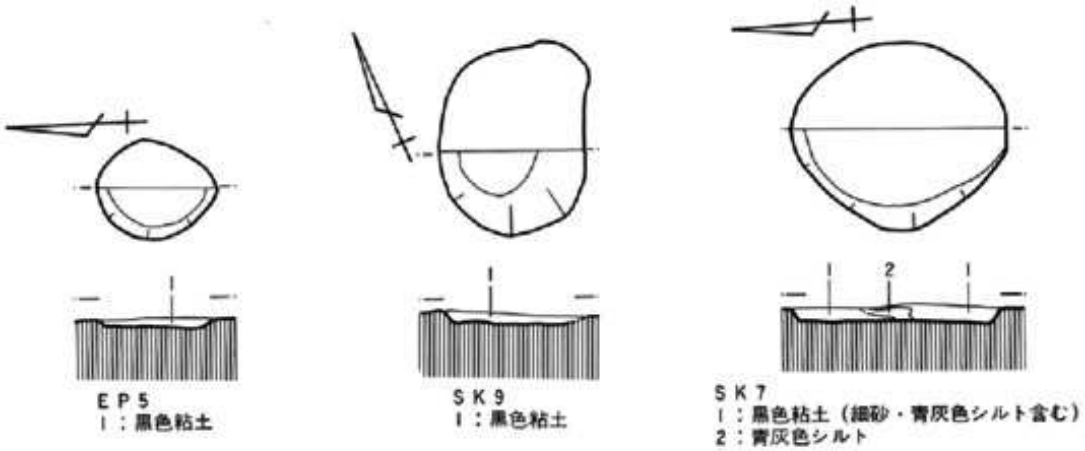
ここに昭和61年度公害防除特別土地改良事業・吉野川流域地区が実施されることになりその前年度に県教育委員会が、事業区域内について試掘調査を行なった結果、東西約 300 m・南北約600mの約9,200m^{2}の面積が遺跡として考えられた。但し、遺物のまとまりは、事業区南側に限定して確認された。その調査結果に基づいて、関係機関との協議を行ない今回のC調査を実施するはこびとなったものである。

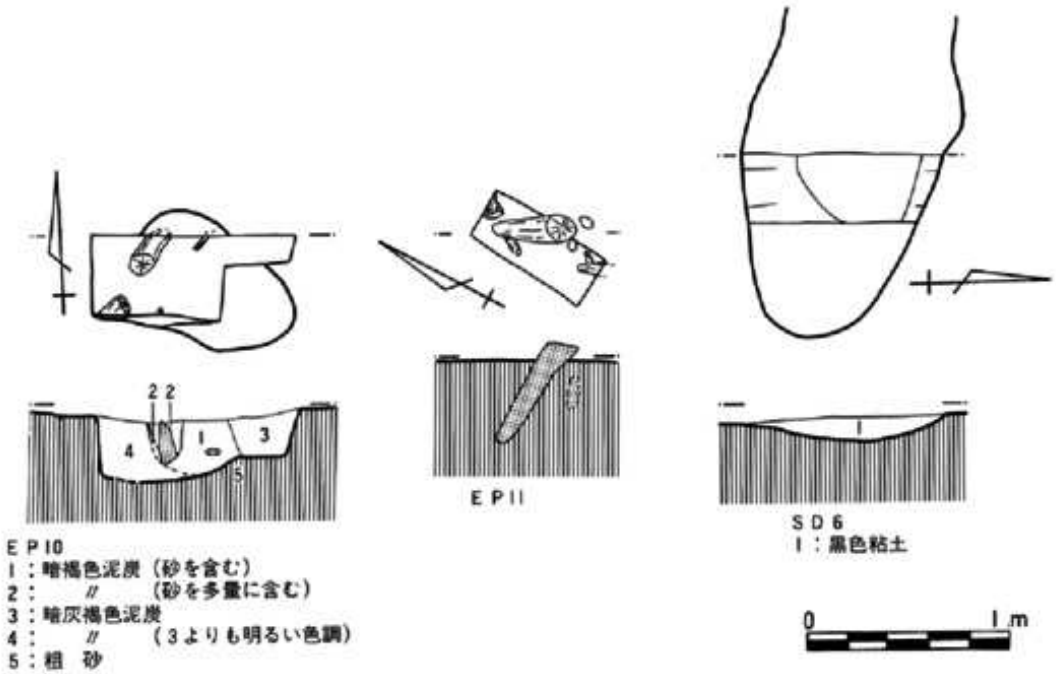
調査は、線路南北側は坪掘り、遺物のまとまって出土した事業区南側は、3×3mを単位とするグリッドに合わせ、重機によるトレンチ調査を行ない、昨年度の試掘地区付近である10～14—21～25Gの範囲について拡張を行ない精査区とした。坪掘り区は、TP1から木片・クルミ、TP7・14から土器片が少量出土したのみで、遺物のまとまりを呈する地区は、確認できなかった。



第16図　富貴田遺跡遺構配置図







第17図　富貴田遺跡遺構平面図

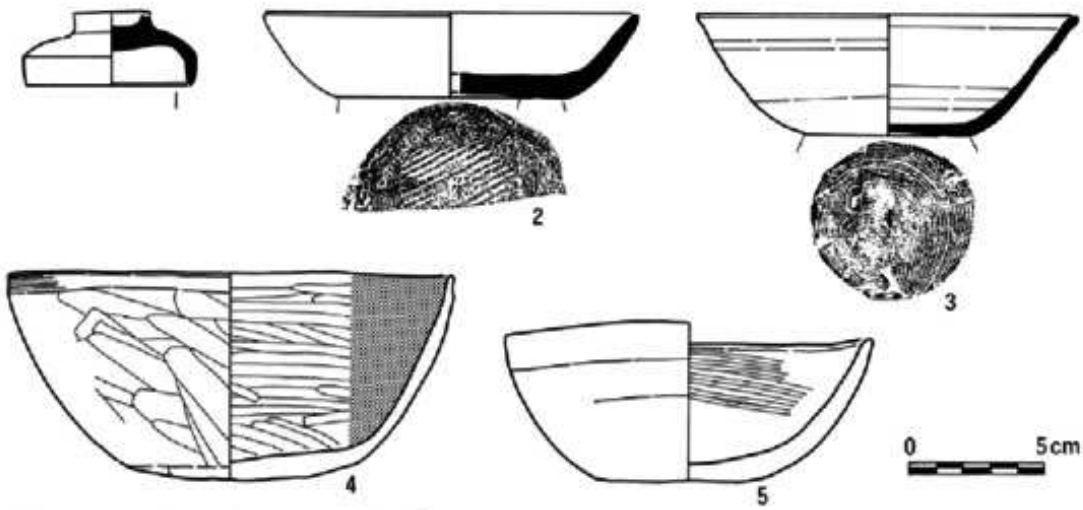
遺構は、Ⅸ層上面においてピット５基・土坑２基・溝状遺構１基・柱根？２本が検出された（第16・17図　表－３　図版11・12)。精査区では、不整形な土色変化が確認されたがＳＤ６も含め、地山面の凹凸に起因することが推定される。ＥＰ10・11は、掘り方等は未確認である。覆土では、ＳＫ７・９から土器小片が出土した。

表－３　富貴田遺跡ピット・土坑・溝状遺構観察表

（単位：cm）

番　号	地　区　名	平面形	規　模（長径×短径）	深　さ	壁の掘込状態	底面の状態	備　考
ＥＰ２	13 — 22	楕円形	42 × 32	19	北側緩やか	凹　凸	
ＥＰ３	13 — 22	円　形	40 × 39	19	北側緩やか	凹　凸	
ＥＰ４	11 — 24	円　形	20 × 19	9	ほぼ垂直	平　坦	
ＥＰ５	13 — 23	楕円形	61 × 51	5	緩やか	平　坦	
ＳＤ６	10—13—23		102（幅）	12	緩やか	皿　状	溝状遺構
ＳＫ７	10 — 25	楕円形	109 × 95	6	ほぼ垂直	平　坦	
ＥＰ８	13 — 21	楕円形	36 × 28	9	南側緩やか	凹　凸	
ＳＫ９	13 — 23	楕円形	86 × 74	5	緩やか	凹　凸	
ＥＰ10	14 — 24	？	8 ～ 9（直径）	20（長さ）	？（堆積層境界）	？	柱根？
ＥＰ11	14 — 24	？	6 ～ 15（直径）	61（長さ）	？	？	柱根？

遺物は、整理箱で約７箱である。土師器・須恵器・磁器・木製品・種子に分けられる。（第18図　表－４　図版13・14）出土数では土師器坏が多く、ＲＰ１を除き大半が12・13—21Ｇに集中している。杯では、底面に墨書（判読不明）をもつもの（図版14）もみとめられる。時期は、土師器（第15図４・５）・須恵器（同１～３）の特徴から奈良時代（国分寺下層式併行）・平安時代と考えられる。



表－４　富貴田遺跡出土土器観察表

挿図番号	図版番号	種別	器種	出土位置	法量（mm）			調整		備考
					口径	底径	器高	外面	内面	
18—1	13	須恵器	甕	12—21	（62）		(27)	天井部ヘラケズリ		つまみ径（29mm） つまみ高（7mm）
18—2	13	〃	坏	13—21	(140)	(84)	31	底部外周ヘラケズリ		底部静止糸切り離し
18—3	13	〃	〃	14—24	144	62	44	無調整	無調整	RP1 底部回転糸切り離し
18—4	13	土師器	〃	12—21	(167)	88	77	口縁横ナデ・体部ヘラミガキ 底部ヘラケズリ	ヘラミガキ 黒色処理	
18—5	13	〃	〃	12—21	138	55	55	体部ナデ 底部ヘラケズリ→ナデ	ハケ目	RP2 体部に輪積痕残る

※　表中の（　）内の数値は、推定計測値を示す。

第18図　富貴田遺跡出土土器実測図

調査区全景

遺跡近景（北西から）

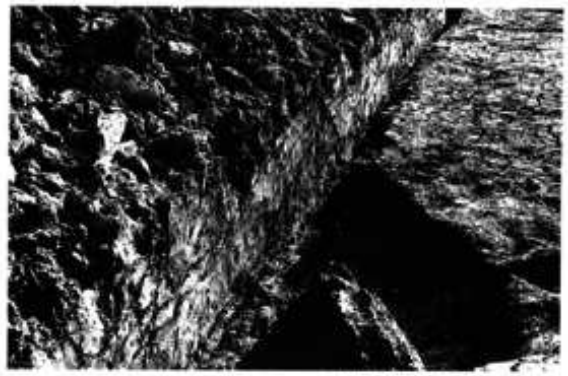
調査状況（1）

調査状況（2）

調査状況（3）

図版10　富貴田遺跡（1）

土層断面（西から）



土層断面（東から）

12－21G土層断面

遺構検出状況（1）

遺構検出状況（2）

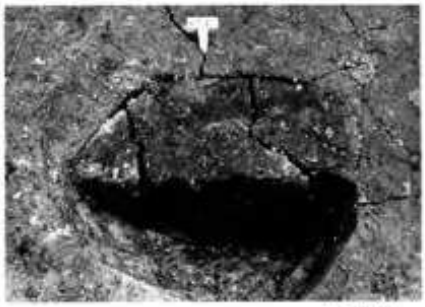
遺構検出状況（3）

土器出土状況（1）

土器出土状況（2）

図版11　富貴田遺跡（2）

EP 2



EP 3

EP 4

EP 5

EP 6

SK 7

EP 8

SK 9

EP 10

EP 11

図版12　富貴田遺跡（3）

須恵器　蓋

須恵器　坏

須恵器　坏

同　底面

須恵器　坏

同　底面

土師器　坏

土師器　坏

図版13　富貴田遺跡（4）

土師器　坏（墨書）

同　内面

土師器　甕

土師器　甕

土師器　甕（1/4.5）

土師器　甕（1/4.5）

木製品（1/4.5）

種子（1/2）

図版14　富貴田遺跡（5）

（2）広域営農団地農道整備事業―北村山地区―関係遺跡

a　安久戸（あくど）D遺跡（遺跡番号2336）

所在地　山形県尾花沢市大字丹生字源田山森岡山

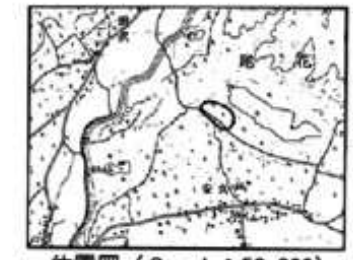
調査員　佐藤庄一　黒坂雅人

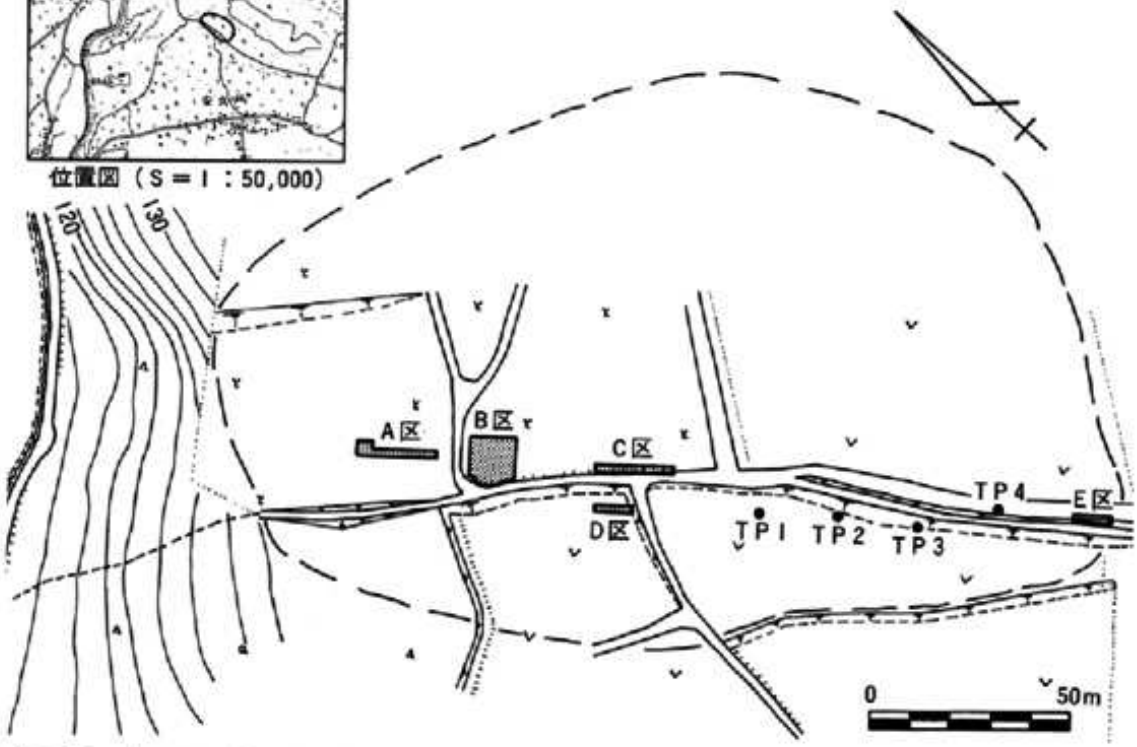
調査期日　C調査　昭和61年5月12日～23日（昭和59年度B調査実施）

遺跡の概要　本遺跡は、尾花沢市街地の北方約4㎞に位置し、丹生川右岸の東西に延びる丘陵の南西斜面に立地する。標高は124～127m、地目は畑地及び桑園である。

本遺跡は、山形県教育委員会が広域営農団地農道整備事業・北村山地区に係る遺跡として、昭和59年度に遺跡詳細分布調査Bを実施し、遺跡のほぼ中央部分から遺物の出土が認められた。この資料をもとに、事業主体の村山平野土地改良事務所と協議の結果、昭和61年度に、施工に先立ち遺跡詳細分布調査Cを実施することになった。

調査は5月12日から23日まで、延べ10日間実施した。事業地区内東西30m、南北 190mの範囲内に、東西20m×南北2m（A区・C区）、東西12m×南北10m（B区）、東西10m×南北2m（D区・E区）の各調査区を第19図のように設定し、更に4か所で1m×2mの試掘を行なった。盛土及び旧表土は重機で剝ぎとりII層以下は手掘りで調査を進め、調査面積は最終的に271 m²となった。





第19図　安久戸D遺跡概要図

基本層序　遺跡の基本的な層序は、下記に示すとおりである。

Ⅰa層：暗褐色シルト（現在の表土であり開畑時の盛土である。黄褐色粘土を魂状に混入する。現道北側には70～100cmの厚さで存在するが南側には見られない）

Ⅰb層：暗褐色シルト（旧表土である）

Ⅱa層：黒褐色粘土質シルト（現道北側、C区及びE区に不安定に存在する。パミスを含み粘質である）

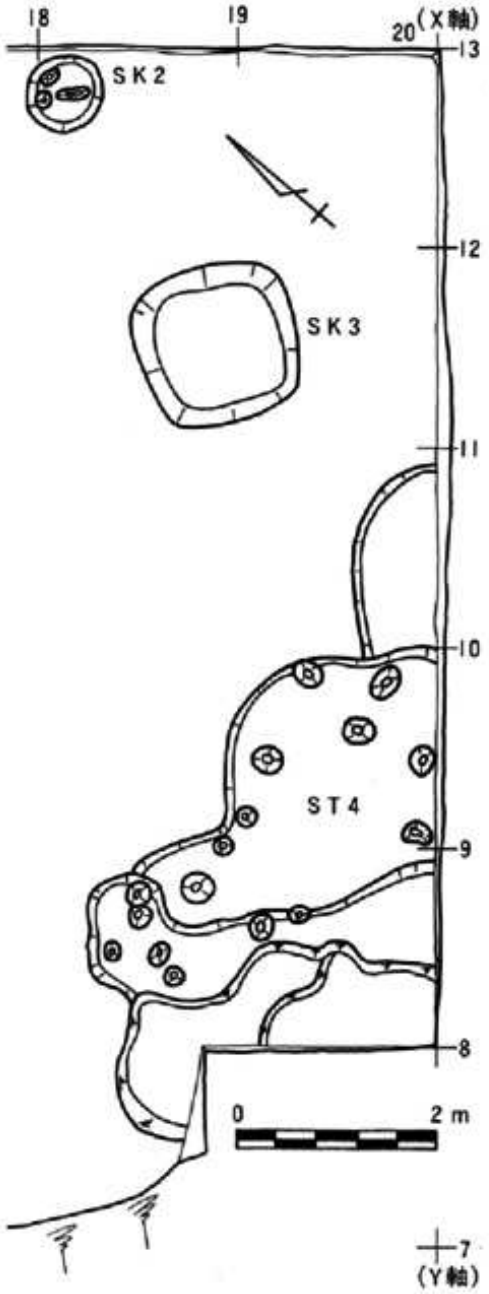
Ⅱb層：黒色シルト（いわゆるクロボク土であり、パミスを含む。縄文時代の遺物包含層である）

Ⅲ層：暗黄褐色細砂質シルト（パミスを多量に含み、しまりなくもろい。Ⅳ層との漸移層）

Ⅳ層：黄褐色粘土（硬くしまっている）

検出遺構　Ⅲ層上面で面精査を実施した結果、検出された遺構は下記のとおりである。

ＳＴ４竪穴住居跡（第22図）Ｂ区東南端で確認された。グリッド壁際のため全体の規模は不明であるが、確認部分の床面積は8.5m²、最底３回の建て替え、あるいは重複がみられ、順次南の方が新しい。平面プランは不整形であり南端部分は削平されている。壁面の立ち上がりは急であるが、床面までの深さは５cm前後と浅い。床面から16基のピットが確認された。覆土及び床面から時期の把握できる遺物は検出されなかった。



第20図　安久戸Ｄ遺跡Ｂ区遺構配置図

ＳＫ３土壙（第21図）Ｂ区東側で検出された。東西・南北とも 1.6mの隅丸方形の平面プランを持ち、確認面からの深さ70cmをはかる。覆土６層より縄文時代晩期のものとみられる土器片（第23図30）、石匙（第24図１）が出土している。

ＳＸ１性格不明遺構　Ａ区西端で確認された。東西3.2m、南北2.1mの長方形プランとして確認されたが、東壁を除いて壁の立ち上がりが不明瞭である。覆土内より撚糸文を施文した土器片（第23図１）及びフレーク、硅化木などが出土している。

その他、B区北側よりＳＫ２、E区西端より風倒木によると思われるロームマウンドが検出された。

出土遺物　遺物はA区ＳＸ１、B区南半IIb層及びＳＫ２～３、ＳＴ４より出土し、その他の精査区からは出土しなかった。

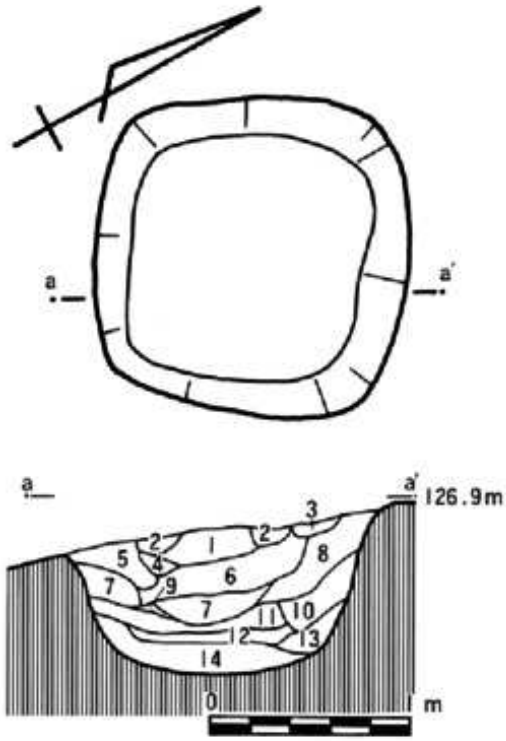
縄文土器（第23図・図版15）　土器片は整理箱にして約１箱分出土した。ほとんどがB区IIb層中よりの出土である。いずれも小破片であり、復元・実測可能なものはなかった。

a類：（１・２）　縄文時代早期の土器を一括した。１はＳＸ１覆土内より出土した。１段Ｒℓ原体を用いた撚糸文を縦位に施文する。器厚５㎜、焼成は良好である。２は表面にＬＲ単節の原体を横位に回転施文し、裏面に条痕を有する。器厚７㎜、焼成は良好である。B区IIb層出土。

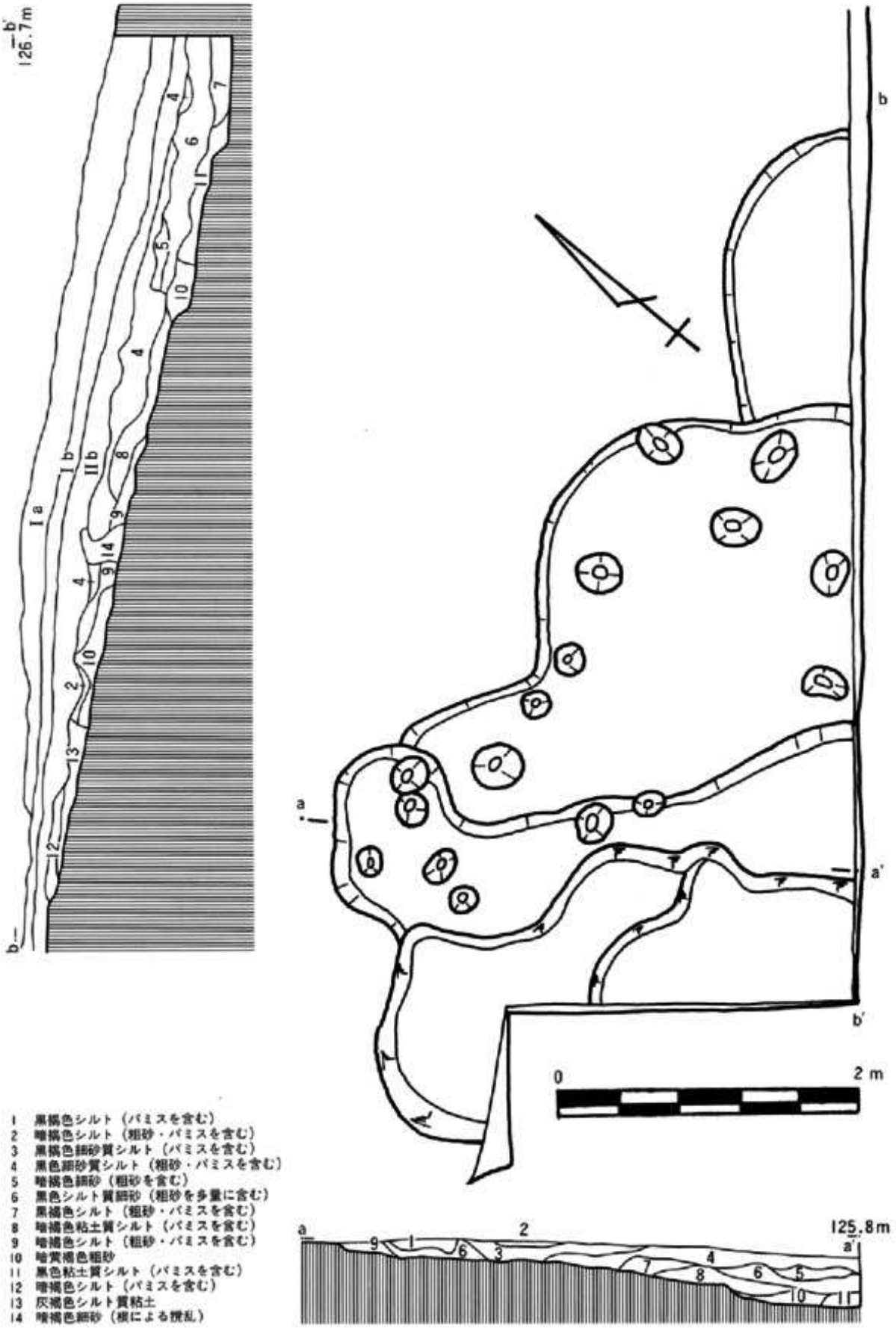
b類：（３～26）　胎土に植物繊維を含む土器片を一括した。施文原体はいずれもＲＬ単節であるが、０段多条（３～15）、一本の原体を縦位・横位に回転して羽状縄文としたもの（14・15）などのバリエーションがある。16～26は胎土、施文原体などから同一個体と考えられるが、口縁部は小波状を呈し、底部は丸底になると推測される。器厚は６～７㎜前後であり、器面調整はあまり良くないものが多い。焼成は16～26を除いては比較的良好である。いずれも縄文時代早期末から前期初頭のものと思われる。

c類（27～30）その他の時期の土器片を一括した。隆線と磨消により文様を構成するもの（27・28）、単節斜縄文の地文に竹管による沈線を描出するもの（29）、直前段多条ＲＬの地文の底部を磨消したもの（30）がある。27・28は大木10式、29は後期、30は晩期の土器片である。

石器（第24図・図版16）B区IIb層より石鏃未成品（２）、篦状石器未成品（４）、ＳＫ３より石匙（１）の３点が出土し、他に表採資料の無茎石鏃（３）がある。

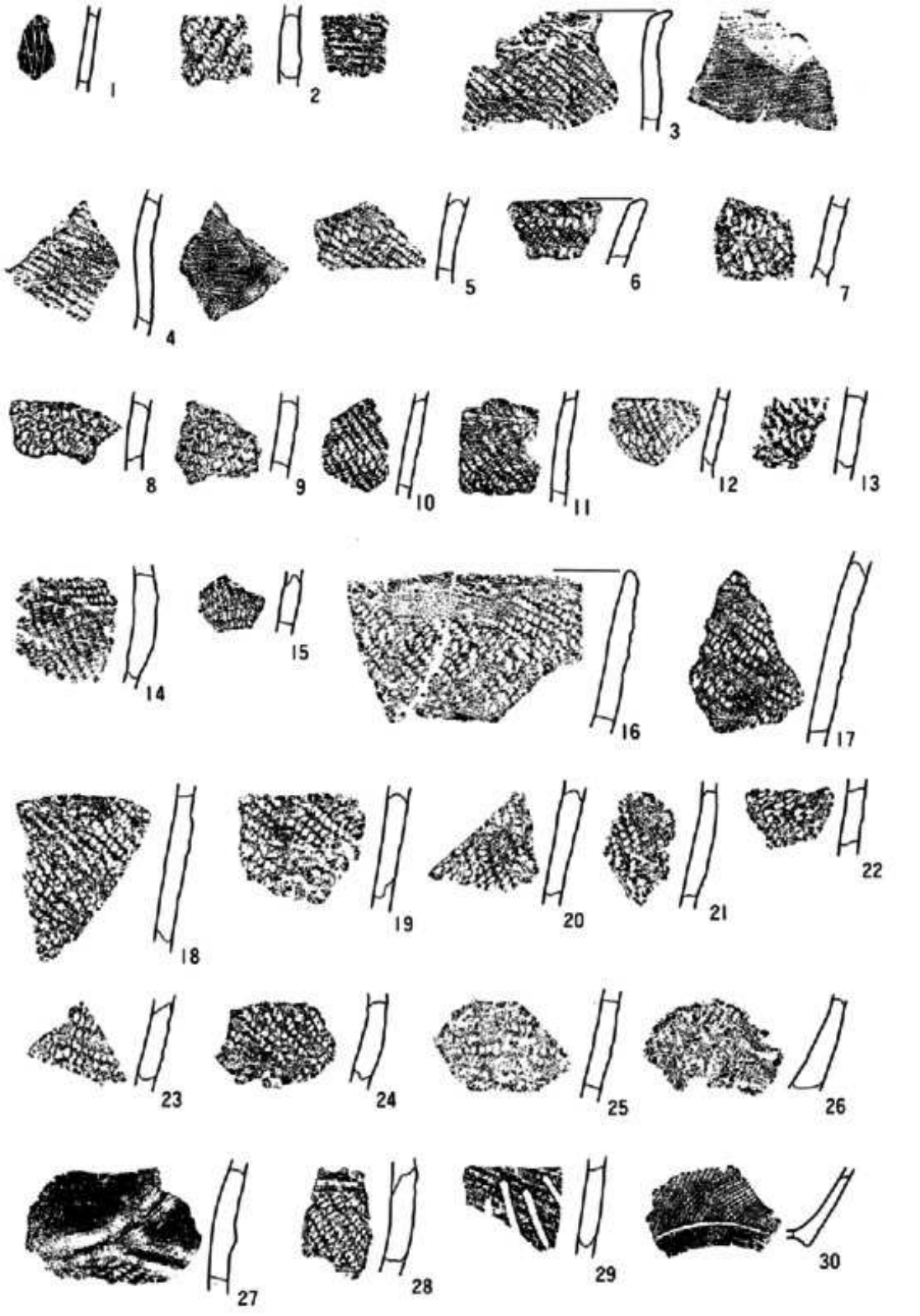


第21図　安久戸D遺跡ＳＫ３実測図

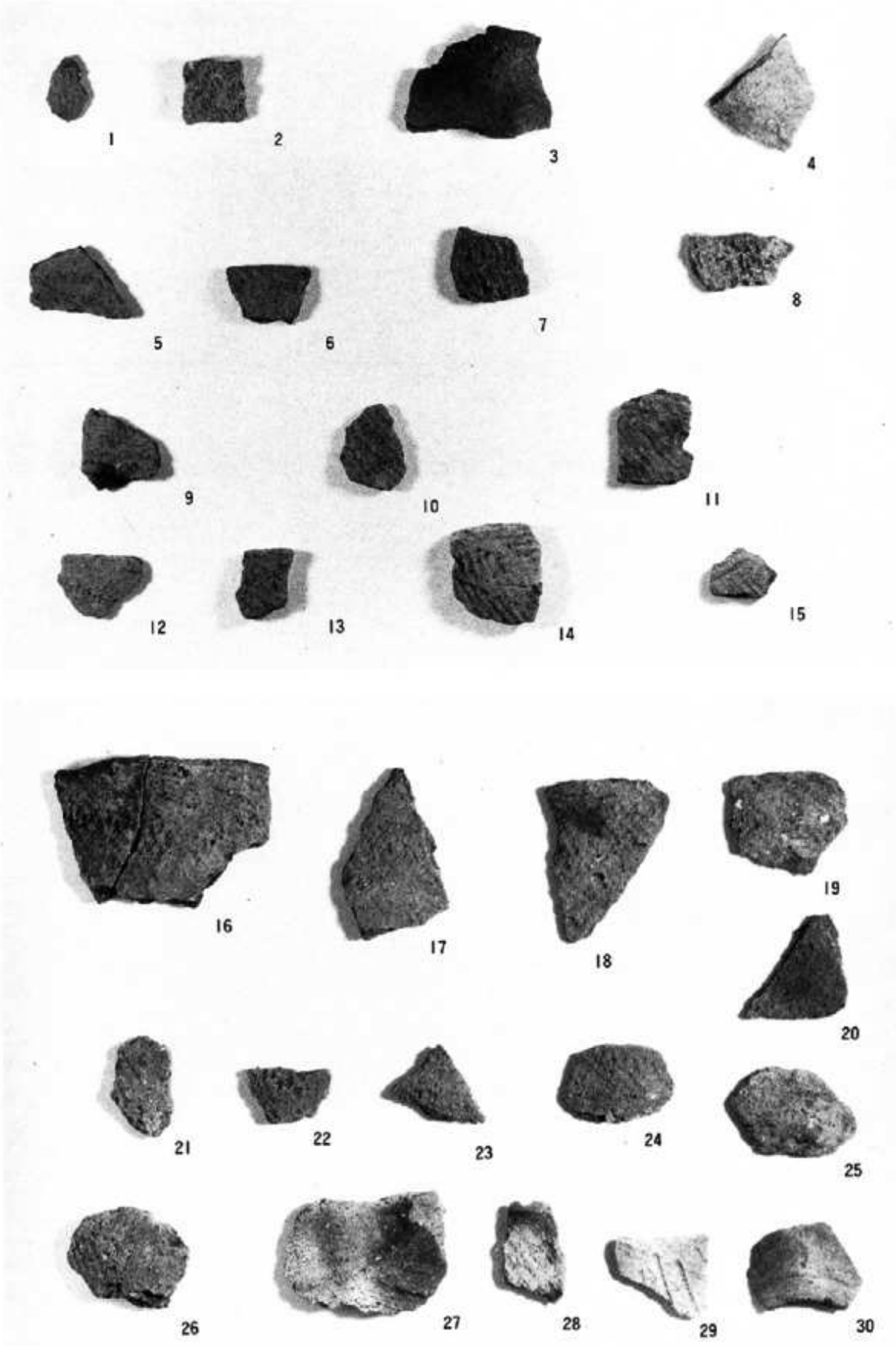


1 黒褐色シルト（パミスを含む）
2 暗褐色シルト（粗砂・パミスを含む）
3 黒褐色細砂質シルト（パミスを含む）
4 黒色細砂質シルト（粗砂・パミスを含む）
5 暗褐色細砂（粗砂を含む）
6 黒色シルト質細砂（粗砂を多量に含む）
7 黒褐色シルト（粗砂・パミスを含む）
8 暗褐色粘土質シルト（パミスを含む）
9 暗褐色シルト（粗砂・パミスを含む）
10 暗黄褐色粗砂
11 黒色粘土質シルト（パミスを含む）
12 暗褐色シルト（パミスを含む）
13 灰褐色シルト質粘土
14 暗褐色細砂（根による撹乱）

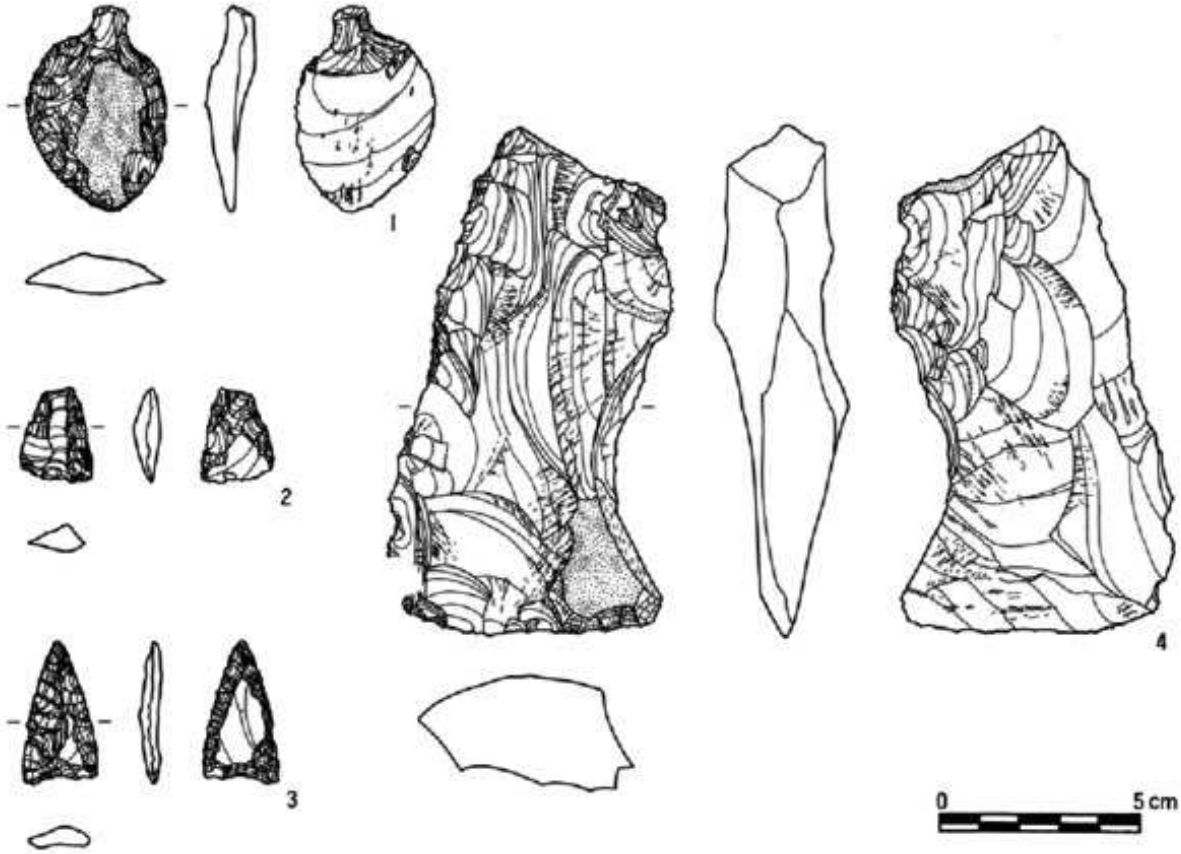
第22図　安久戸D遺跡ＳＴ４実測図



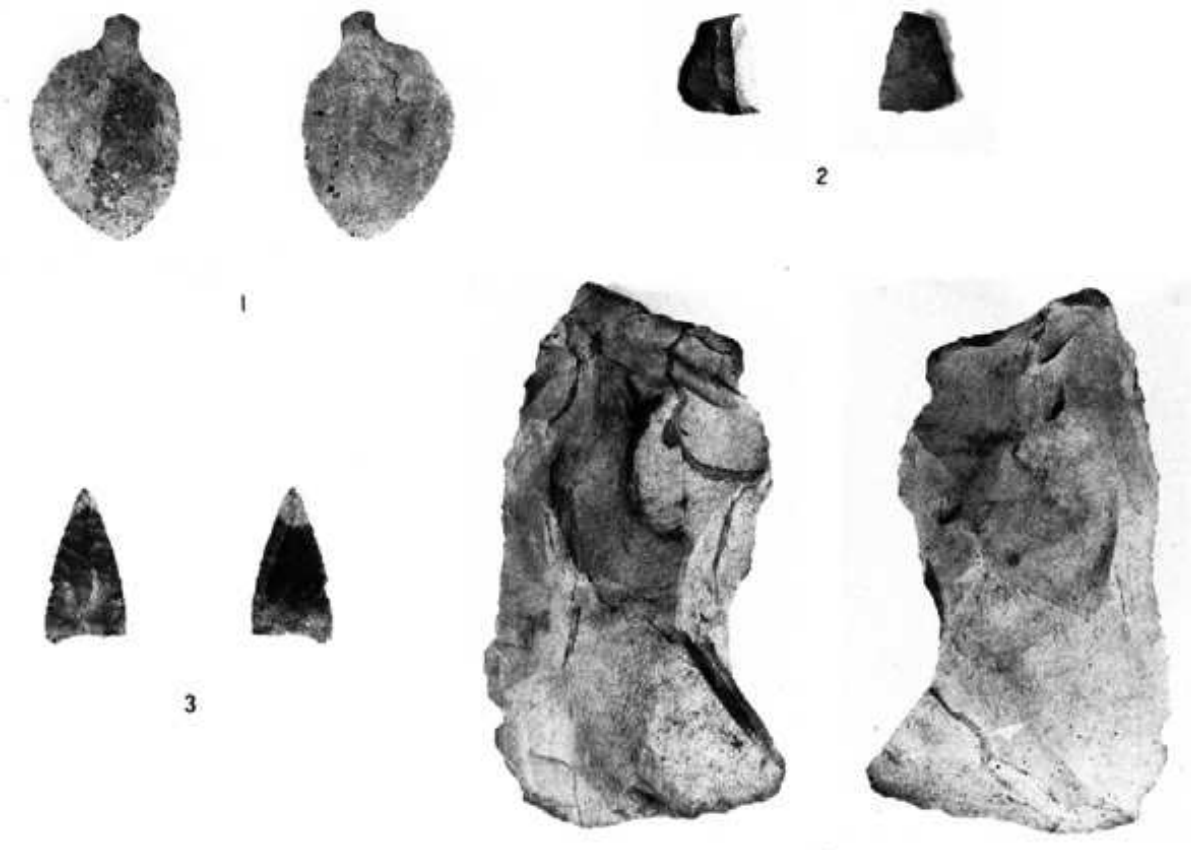
第23図　安久戸D遺跡土器拓影図



図版15　安久戸D遺跡出土土器（S＝1/3）



第24図　安久戸D遺跡出土石器



図版16　安久戸D遺跡出土石器（S＝1/2）

遺跡近景

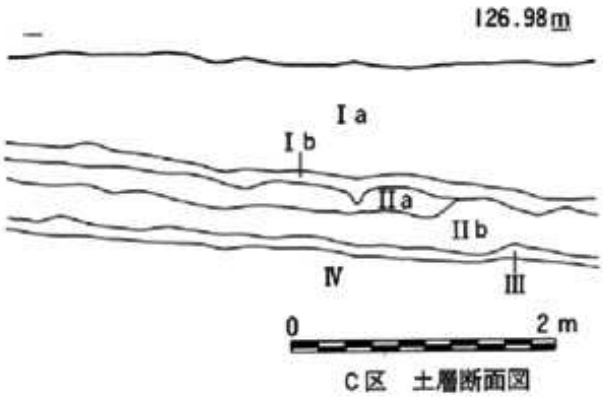
調査状況

A区　SXI

B区　SK3

B区　ST4

E区　ロームマウンド



C区　土層断面図

C区　土層断面

図版17　安久戸D遺跡

（3）県営灌漑排水事業・月光川地区関係遺跡

a　大楯遺跡（遺跡番号2177）

所在地　山形県飽海郡遊佐町大字小原田字楯の内・塚・大槻他

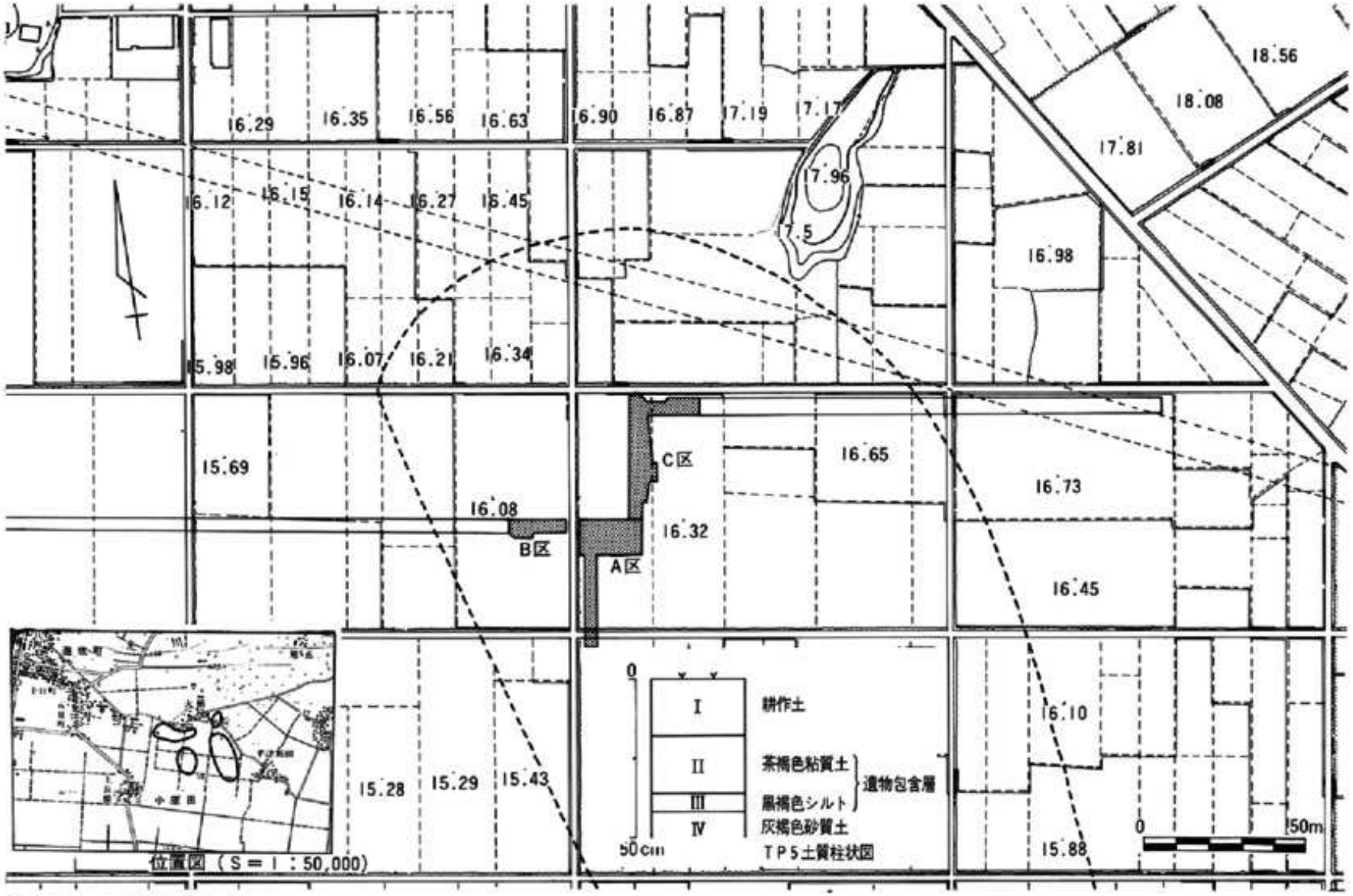
調査員　野尻侃　伊藤邦弘

調査期間　c調査　昭和61年10月27日～11月21日

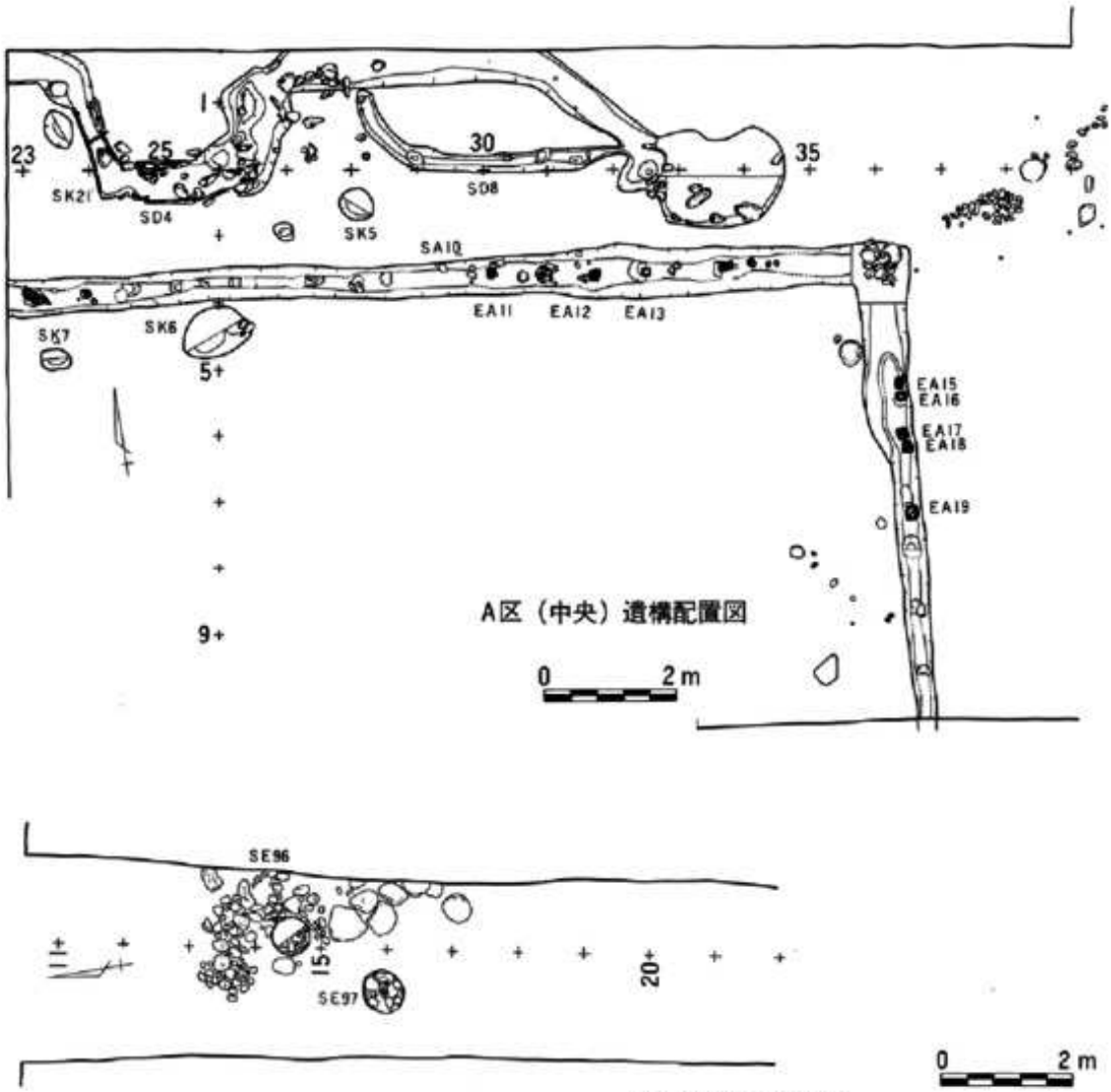
遺跡の概要　本遺跡は、国鉄羽越本線遊佐駅の東南東約 1.5kmに位置し、月光川左岸の氾濫源とそれから３ｍ前後の比高差をもつ段丘上に立地し、標高は12～20ｍをはかる。

本遺跡については過去に数度の分布調査が実施されている。昭和60年度の遺跡詳細分布調査では、それまで東西850ｍ、南北700ｍの範囲で区画された地域が遺跡台帳記載となっていたが、範囲内には４ヵ所に遺構・遺物の集中区域が確認されたが、区画を示す遺構が検出されなかったことから総合して大楯遺跡とし、４ヵ所の区域はその所在する地区名で呼称することとした（註）。以上の結果から県庄内支庁経済部最上川右岸土地改良事務所では、62年度実施予定の県営ほ場整備事業（月光川地区）に伴う大楯遺跡堂田地区の分布調査を県教育委員会へ依頼した。また事業実施の前年度には、県営灌漑排水事業も実施する計画であった。このことを受けた県教育委員会では、従来の分布調査で堂田地区を更に綿密に遺跡の内容を調査することと、灌漑排水事業が実施される幅６ｍ、長さ230ｍをＣ調査対象

図版18　大楯遺跡近景



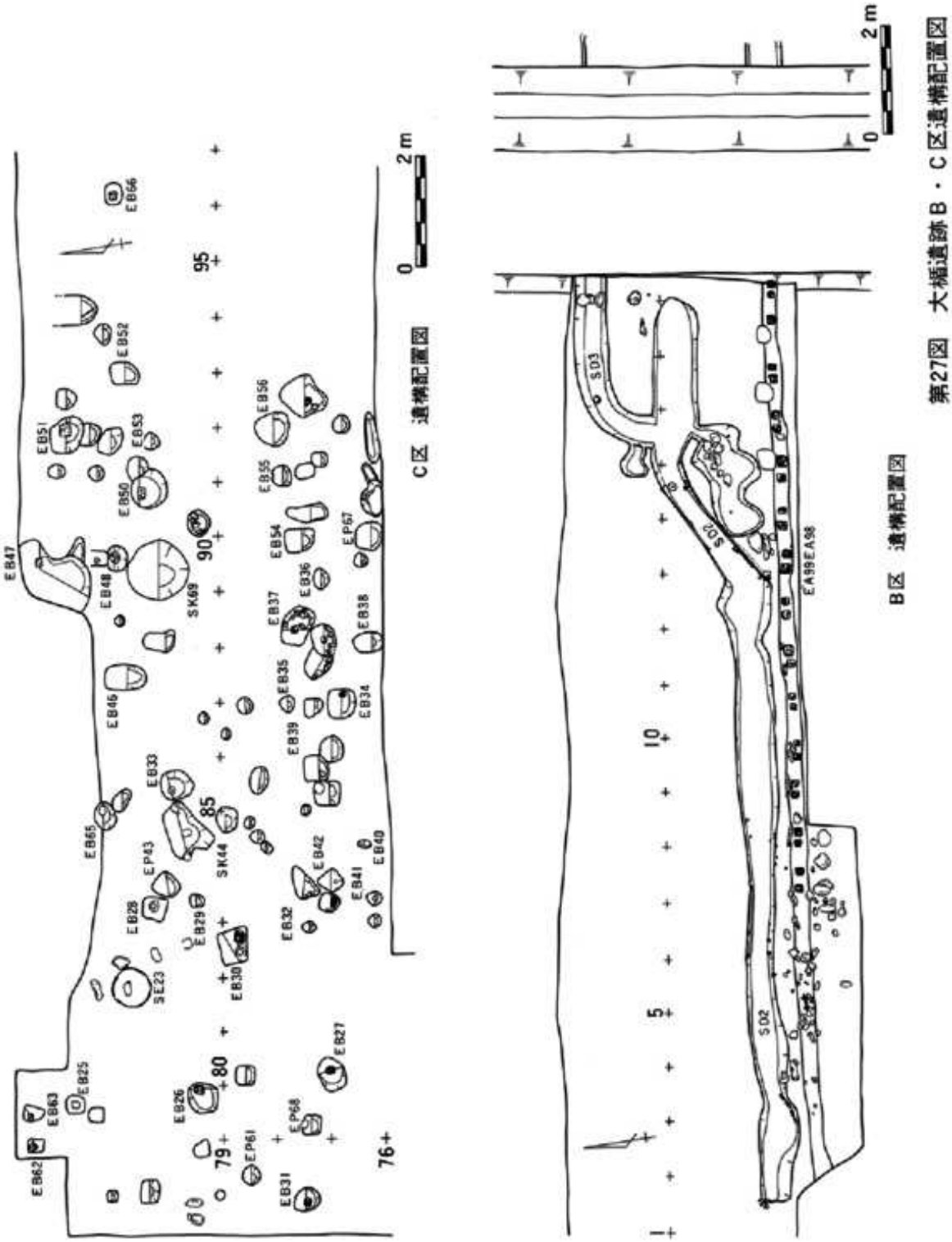
第25図　大楯遺跡概要図



第26図　大楯遺跡A区遺構配置図

として実施することで合意した。調査は昭和62年度事業実施区域を対象に１ｍ四方のテストピット（ＴＰ試掘穴）を任意に設置し、遺跡内容を調査した。灌漑排水事業については、63年度ほ場整備予定地区まで設置する計画であるため、調査は排水計画幅を重機で表土を除去し、遺構・遺物の検出作業を行なった。また、試掘したＴＰにより本遺跡の基本層序を確認し、地表下18～35cmに茶褐粘質土の遺物包含層の存在や、同35cm下には遺構の掘り込みが始まる灰褐色砂質土層が認められた。遺物包含層からの出土遺物は、須恵器・中世陶器（珠洲焼系）・青磁・中世陶磁器・砥石・木片等である。重機で粗掘したトレンチは、面整理後遺構・遺物の精査、出土遺物の地点を記録した。

検出遺構　トレンチ調査では、計画排水路の東方に進むにつれ検出遺構が多くなり、３地区に分け各地区を拡張精査した。Ａ区と呼称した地区は（第26図、図版19）、東西17ｍ、南北11ｍの範囲内に水路跡と考えられる溝状遺構と、方形に区画されると考えられる幅30

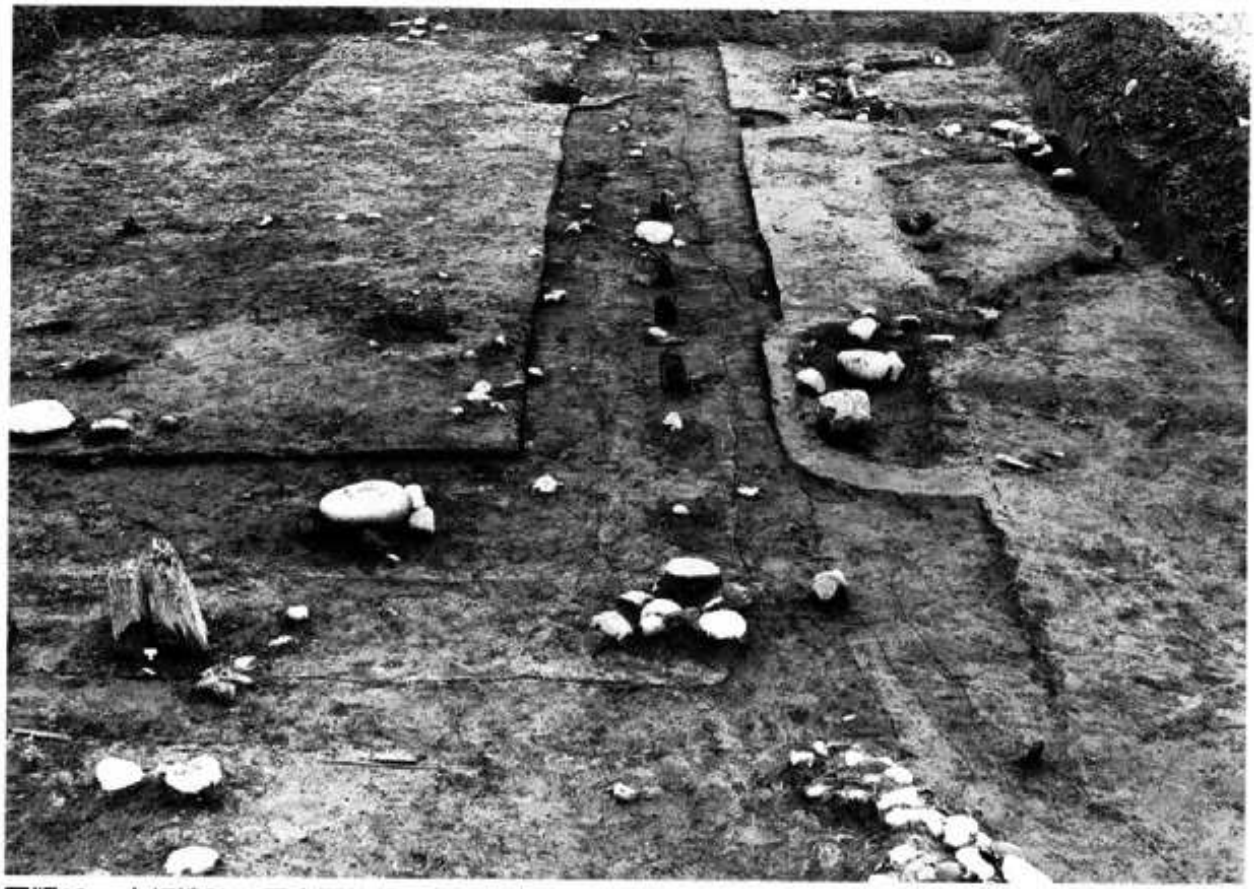


第27図　大橋遺跡B・C区遺構配置図

～80cmの布掘りに一辺18cm角の柱根が二本対に、又は1本で直線上に立ち並んでいた。これら柱根は、40～80cm間隔に棚木状に検出された。布掘りは、検出面から深さ35～45cmにU字形に掘り込まれ、底面に柱根を置き、周囲から土砂を水平に埋め込んでいる。検出さ

れた柱根列は、A区の北側計画排水路設置掘削線にやや平行して検出、東西13.7mの部分で南方へ直角に曲がる。コーナーでは、拳大の自然石や人頭大の自然石を集合させてはいたが、中央部には礎石となる石がないことや布掘りの覆土上面に重なっていることで、本柱列との相乗関係はないものと考えられる。しかし、コーナーに意図的に積み重ねられていることは、柱根列と何らかのつながりがあるものと思われる。またこの布掘りの外側には、S字状の溝状遺構が1～1.5m程離れて検出された。幅35～70cm、深さ15～25cmを測る。曲がる部分には幅15cm、厚さ1.5cm、長さ50～150cmの板材を壁面に設置し、外側は径3～5cmの丸杭を打ちこみ板材を留めている。断面形は船底状となり、覆土中より中世陶器摺鉢、甕、かわらけ、青磁等の陶磁器片などや、箸状木製品・漆器片が検出された。流水を思わせる溝状遺構である。A区北東隅には、径38cm、高さ25cmの曲物（SX9）が置かれ、溝状遺構の先端部に設置された溜り場と考えられる。布掘り部分にかこまれた内部には、柱根や柱穴が検出されているが建物跡としてのまとまりは確認出来なかった。狭い範囲のため組み合わせることが出来なかった。しかし、囲まれる範囲のなかには建物跡の存在を十分にうかがうことが出来る。

B区（第27図）はA区の西側、農道を挟んだ長さ17.3m、幅4.5m約85m²の範囲である。ここではA区で確認された布掘り跡がB区まで続き、A区で検出された布掘り内の柱根と



図版19　大橋遺跡A区東西柱根列検出状態

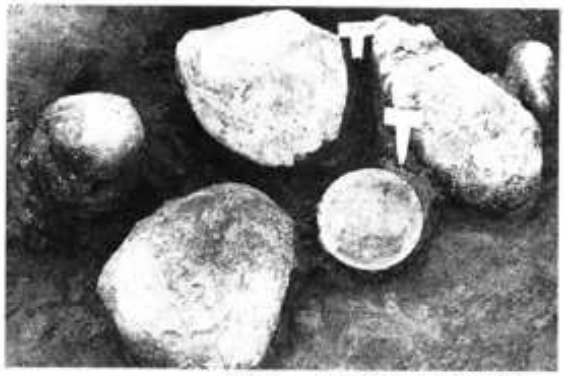
同様に明瞭に約16m30cmの長さで検出された。A区では検出された柱根は、1本となっている部分や、2本が対となる部分があり、統一された様相はみられなかったが、B区では、一辺12～18cm角の柱が6～12cm離れ、2本が一組となって14対が立ち並んでいる。そのうちEA98・99とした柱に接して、幅19cm、厚さ6cmの板材が二枚直線状に並んでいる。おそらく外壁板材にしたものと考えられる。対になる柱根の間隔は、30～50cmの間をおき、一定した間隔ではなかった。またこれら柱根や板材は、検出面以上が炭状となっており、地中に埋っている上部も表面は炭化していた。おそらく火災を受けたものと考えられる。この布掘りの北側でも、A区と同様溝状遺構が検出されているが、A区側の溝状遺構はS字状に屈曲し、西側の溝は直線状になっている。また屈曲する部分には板材がおさえられている。B区では柱根等の柱穴は検出されなかった。出土遺物は、A区と同様中世陶器・陶磁器片が出土した。

C区は（第27・28図）、A区の計画排水路が直角に曲がる北側の部分である。ここでは、土拡、溝状遺構、多数の柱穴が検出され、柱穴の中には柱根が残存するものもある。土拡は、東西430cm以上、南北470cmの方形を呈する形状を示し、壁面はゆるやかに立ち上がる。深さは35～40cm、覆土は有機物が充満し、中からは箸状木製品、木端（コバ）片、木材片が多量に出土している。溝状遺構は一辺11m、幅50～60cm、深さ30～50cmにLの字状にめぐり、西側には建物跡を考えさせる柱穴が存在している。またそれと重複して礎石をもつ柱跡が検出している。

図版20　大橋遺跡B区東西柱根列検出状況

調査風景

井戸跡検出状況



RP4　かわらけ皿出土状況

SA10RP10四耳壺出土状況

SA10EA5柱根

SA10EA11柱根

SA10EA14柱根

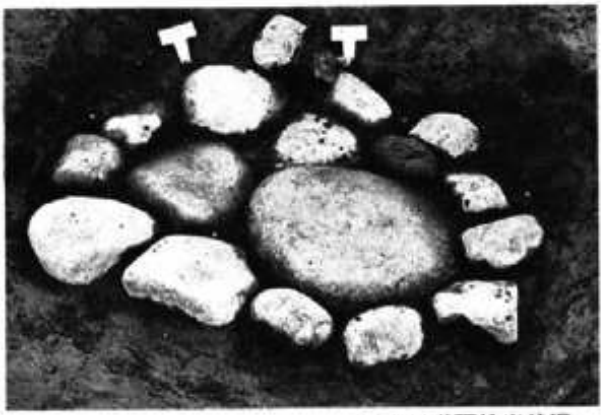
SA10EA50柱根

図版21　大橋遺跡遺構検出状況

図版22　大橋遺跡ＳＡ10柱列土層断面

ＥＢ48柱根

ＥＢ51柱根

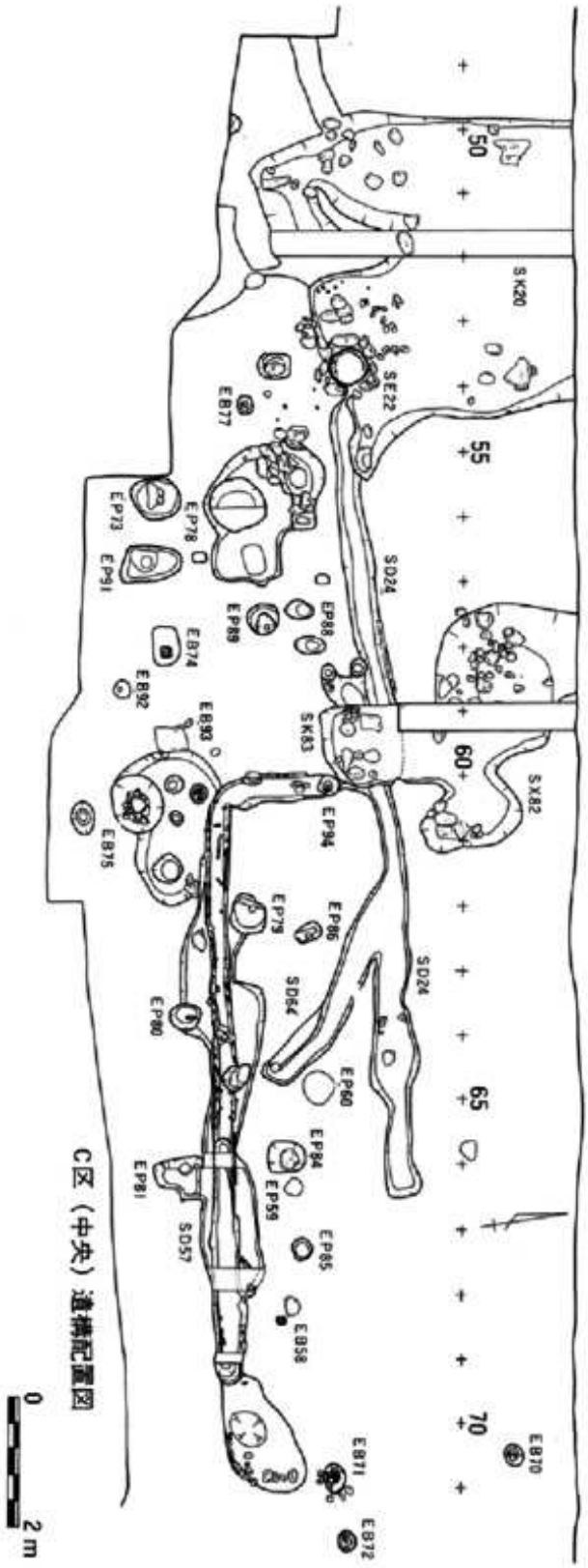


ＥＢ75礎石検出状況

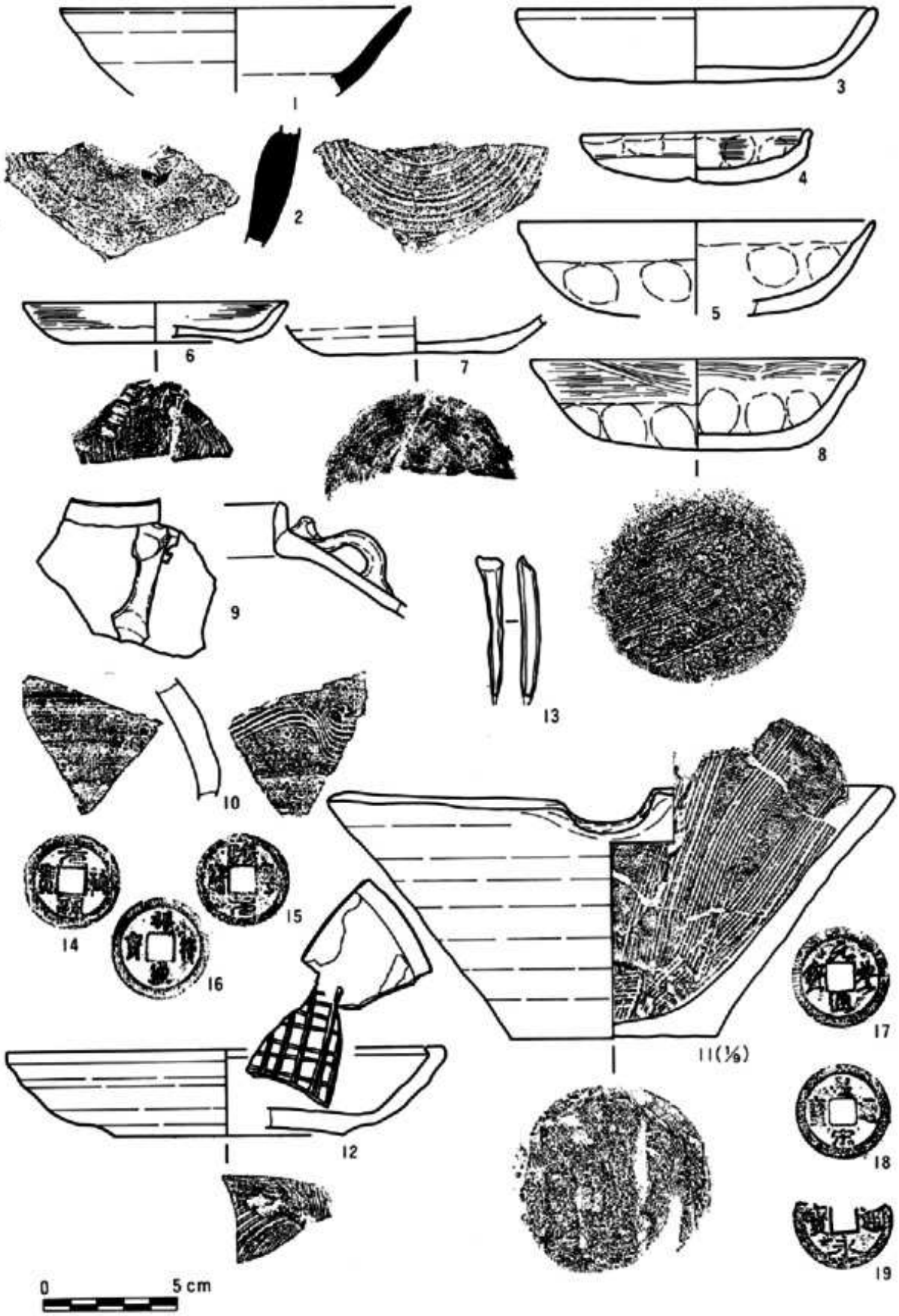
ＳＥ96井戸跡検出状況

図版23　大橋遺跡遺構検出状況

第28図　大浦遺跡C区遺構配置図



出土遺物　今回の調査で検出された遺物は、整理箱にして17箱を数える。また整理箱に収納されない遺物は、柱根31本、曲物5である。その他の遺物としては、古銭、釘、鉄製飾り金具片である。土器片の種別では須恵器、中世陶器、かわらけである。第29図には、調査で出土した遺物のなかで測図復元できる土器や、その他の遺物を図化したものであり、本遺跡の性格や時期を示す一部の遺物を提載した。1・2は須恵器である。1は坏形土器で法量の小さい小形の土器である。器面には明瞭にロクロ痕が残る。2は同横瓶の閉塞部分である。3～8は、いわゆる土師質土器である。径 8.5～10cmの口径をもつ6・4は灯心油痕が付着していることから、灯明皿の心押えに使用されたものと考えられる。他の3・5・8は、かわらけと呼ばれる皿形土器である。9～12は中世陶器である。9は瓷器系の四耳壺片である。11は越前焼の摺鉢である。8条単位に卸し目を底部から押し引いている。12は美濃瀬戸系の卸し皿である。器高3cm、口径16.5cmで、内面底部に一辺5%の方形の卸し目を施している。13は鉄製の釘である。一辺6%の方形をしたいわゆる船釘である。14～19は古銭で、明銭が多い。その他で図化出来なかったものは図版24（20～27）に示した。20は、内面に陰刻された線彫りの栄代耀州窯と考えられる盌形青磁である。21～23・26・27は砥石片、24はすずり、25は鉄鏃片である。鍛冶場跡の存在がうかがわれる。



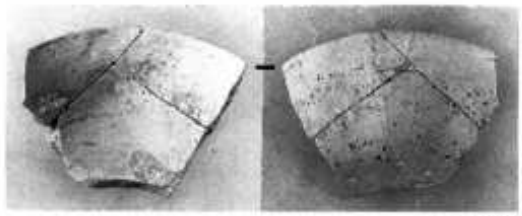
第29図　大橋遺跡出土遺物

1 (⅓)

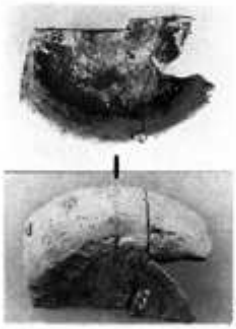
2 (⅓)

3 (1/2.6)

4 (⅓)



5 (⅓)

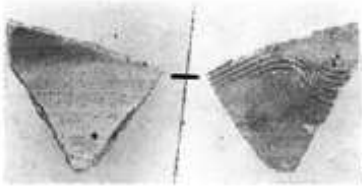


6 (⅓)

7 (⅓)

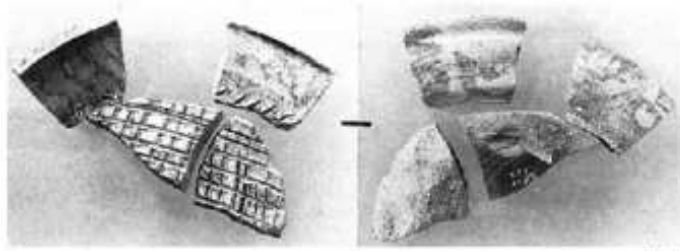
8 (⅓)

9 (⅓)



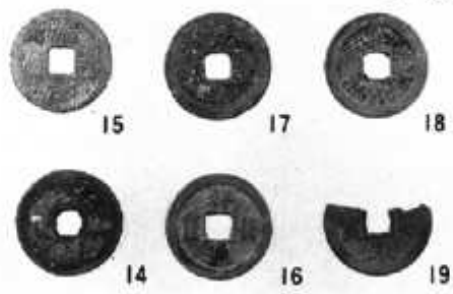
10 (⅓)

11 (⅙)



12 (⅓)

13 (½)



15 17 18

14 16 19

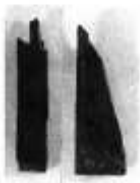
古銭 (½)

20 (⅓)

21 (1/4.5)

22 (1/4.5)

23 (1/4.5)



24 (1/4.5)

25 (½)

26 (1/4.5)

27 (1/4.5)

図版24　大橋遺跡出土遺物

図版25　大楯遺跡ＳＤ57溝状遺構検出状態

まとめ　本遺跡は昭和48年に実施された庄内広域営農団地農道整備事業に係る分布調査で東西約850m、南北700mの広範囲にわたる遺跡として明らかにされ、地区名が大楯とあることから館衙跡として性格付けられたものである。しかし昭和59・60年の２ヵ年の分布調査では、土塁や堀といった館に関係する遺構は発見されなかった。今回の調査は昭和62年度に計画されている圃場整備事業と、それに先行計画の排水路設置区域の分布Ｂ及びＣ調査である。調査の結果40m以上東西に立ち並ぶ柵木列と、これに平行した溝状遺構が検出されたことにより、館跡的な性格をもつ遺跡として位置付けられる。またこの柵木列以外にも数多くの柱穴、柱根、土拡等も検出されていることは、館跡をとりかこむように集落が存在していたと考えられる。出土遺物では、平安時代から鎌倉時代にかけての土器片が出土し、中でも中世陶器のなかには珠洲焼系、越前焼系、瓷器系、美濃瀬戸系、中国産青磁、国内産陶磁器が出土したことは、本遺跡の館主が他地域と活発な文化・産業の交流があったことを考えさせられる。本遺跡は安部親任の「筆濃餘理（ふでのあまり）」に記述された遊佐殿の居館也としたことや、文治５年（1189）の頼朝の泰衡（やすひら）征伐で投降し本領を安堵された川北冠者忠衡（ただひら）が居館した地域とも推定され、遊佐荘の存在も問題を提示している。いずれにしろ本遺跡の時期は、中世鎌倉時代12～13世紀代に位置付けされる。

4　立会い調査実施遺跡

（1）県営圃場整備事業・三郷堰地区関係遺跡

a　西沼田遺跡（遺跡番号344）

所在地　山形県天童市大字矢野目字西沼田

調査員　佐藤庄一・名和達朗・太田　優・黒坂雅人

調査期日　昭和61年4月2日～昭和61年4月12日

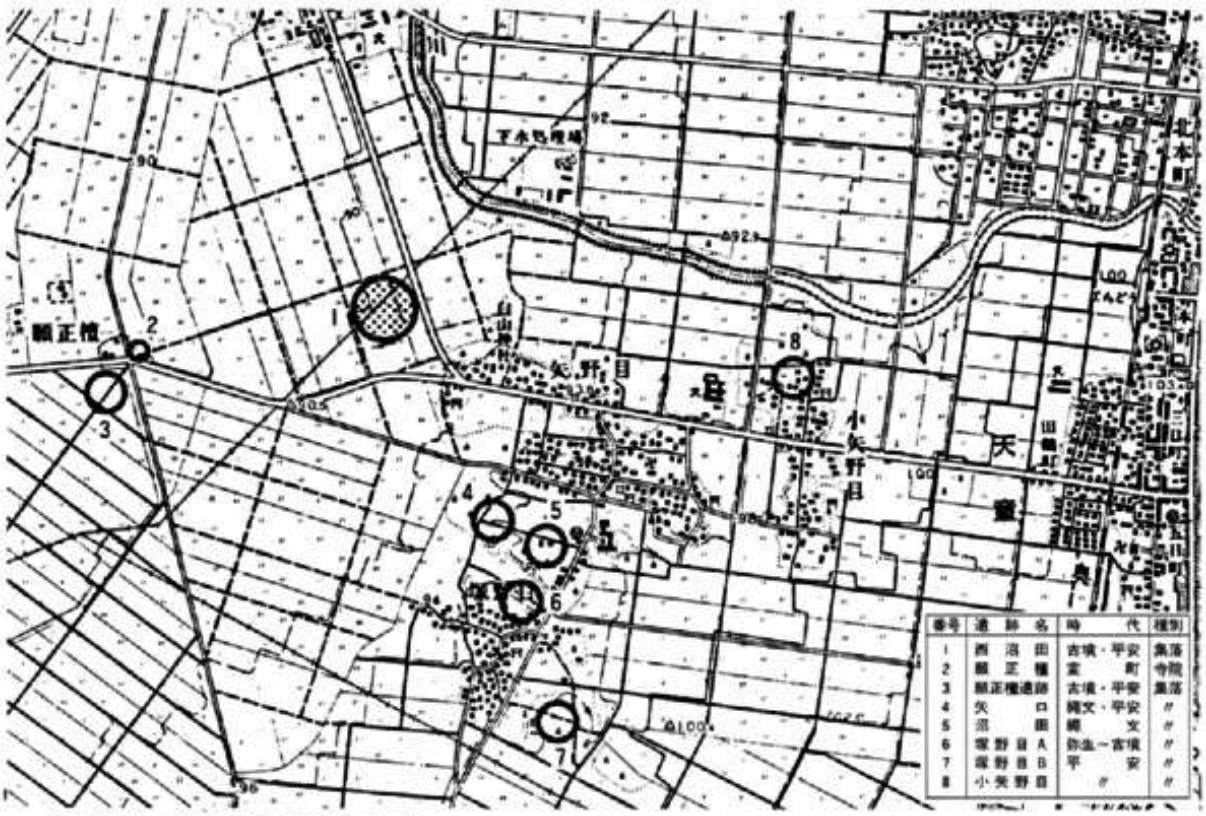
遺跡の概要　本遺跡は、矢野目地区から蔵増地区へいたる県道の西側水田地帯に位置し、倉津川左岸に広がる沖積地に立地する。標高は約90mを測る。

本遺跡は、県営圃場整備事業・三郷堰地区に伴い、A調査を昭和59年9月18日、B調査を昭和59年10月1日・2日に実施した。A・B調査内容に基づき関係機関との事前協議の結果、昭和60年4月16日～同年10月19日まで（延 118日間）緊急発掘調査を実施し、古墳時代の柱打ち込み式の建物跡群や、木製遺物を含む内容豊富な遺物群等を検出した。

今回の調査は、遺跡範囲内に昭和61年度排水路敷設事業が施工されることになり、関係機関と協議の結果、立会い調査を実施することになった。

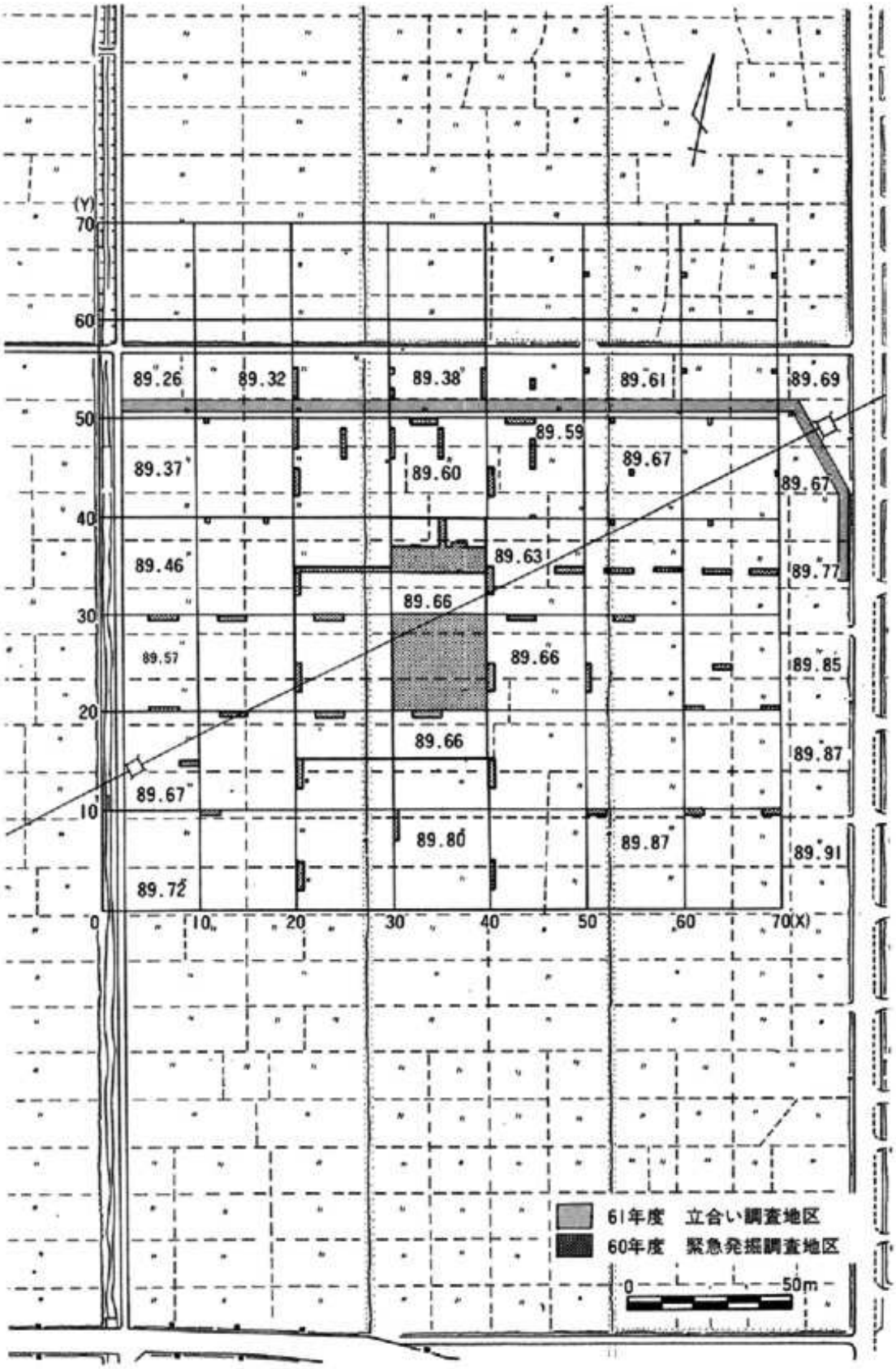
立会い調査を実施したところ、事業区域内より、土玉・土師器・木製品等が出土した。このため調査は、事業に先行しながら順次、面整理、精査、記録をおこなった。

調査の結果、遺物が多数出土したが、明確な遺構は未検出である。

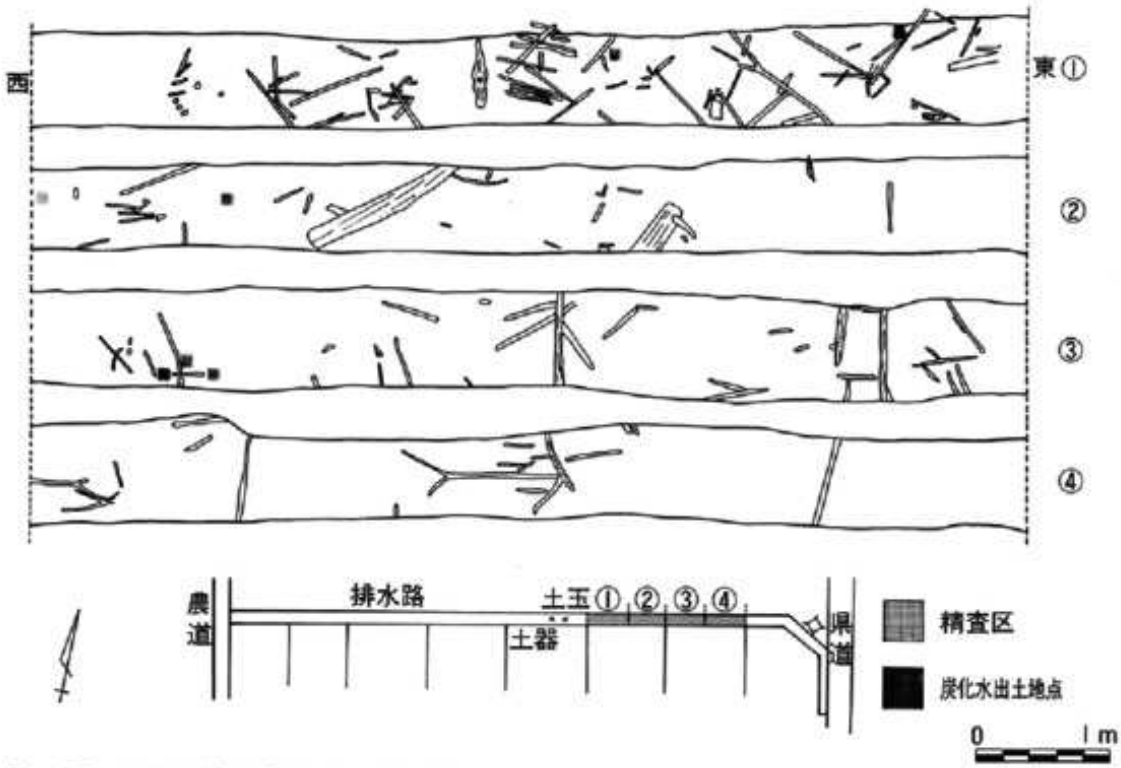


番号	遺跡名	時代	種別
1	西沼田	古墳・平安	集落
2	願正幢	室町	寺院
3	願正幢遺跡	古墳・平安	集落
4	矢口	縄文・平安	〃
5	沼田A	縄文	〃
6	塚野目A	弥生～古墳	〃
7	塚野目B	平安	〃
8	小矢野目	〃	〃

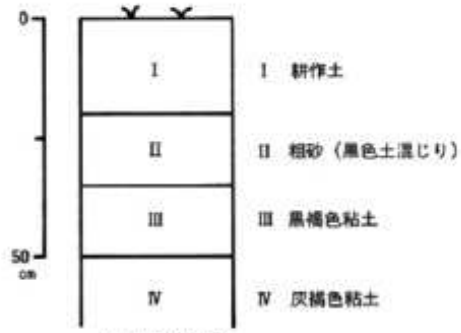
第30図　西沼田遺跡位置図（S＝1：25,000）



第31図　西沼田遺跡全体図



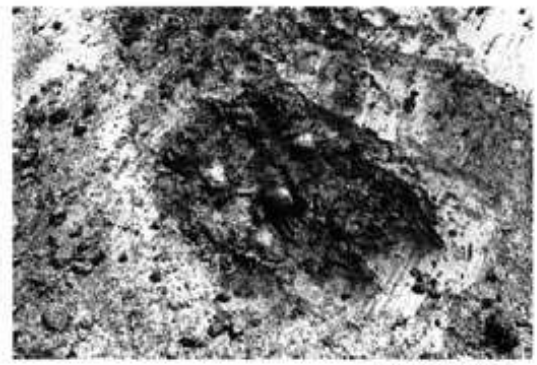
第32図　西沼田遺跡遺物出土状況図



土層柱状図

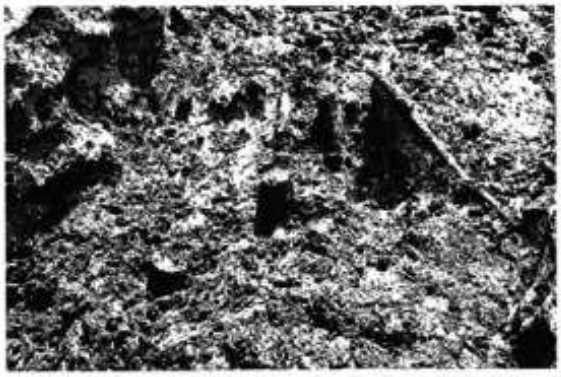
遺跡近景（東より）

土器出土状況



土玉出土状況

図版26　西沼田遺跡（Ⅰ）



柱出土状況

木材群出土状況

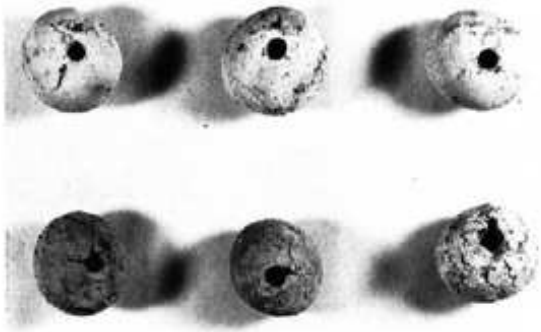
木製品出土状況

木製品出土状況

木製品出土状況

木製品

土師器



土玉

図版27　西沼田遺跡（２）

（2）公害防除特別土地改良事業・吉野川流域地区関係遺跡

a　東六角（ひがしろっかく）遺跡（新　規　昭和60年）

所　在　地　山形県南陽市大字三間通字東六角・六角西・西蕨田
大字郡山字北的・一早・的場・舟橋

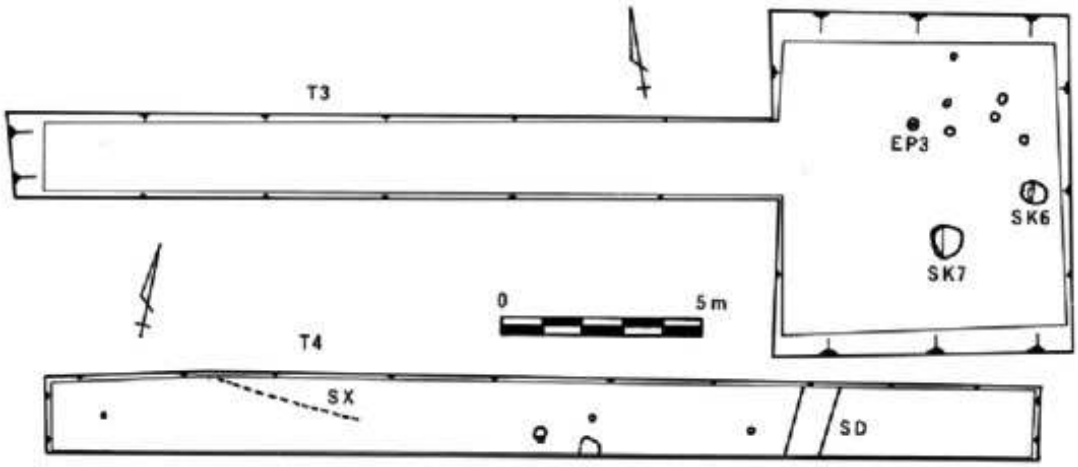
調　査　員　佐々木洋治　名和達朗

調査期日　立会い調査　昭和61年６月16日・23日

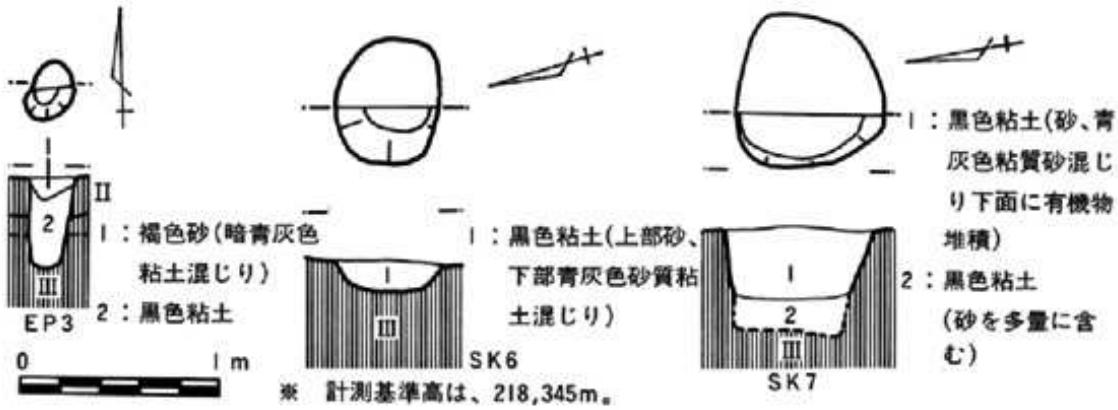
遺跡の概要　遺跡は、国鉄奥羽本線赤湯駅東方約 500ｍの沖積地に立地する。標高は、約218ｍを測る。範囲は、東西約120ｍ・南北約330ｍ、面積約23,000㎡が考えられる。

ここに、昭和61年度公害防除特別土地改良事業・吉野川流域地区が実施されることになり、昨年度の県教委の試掘調査を経て、今年度立会い調査を行なったものである。

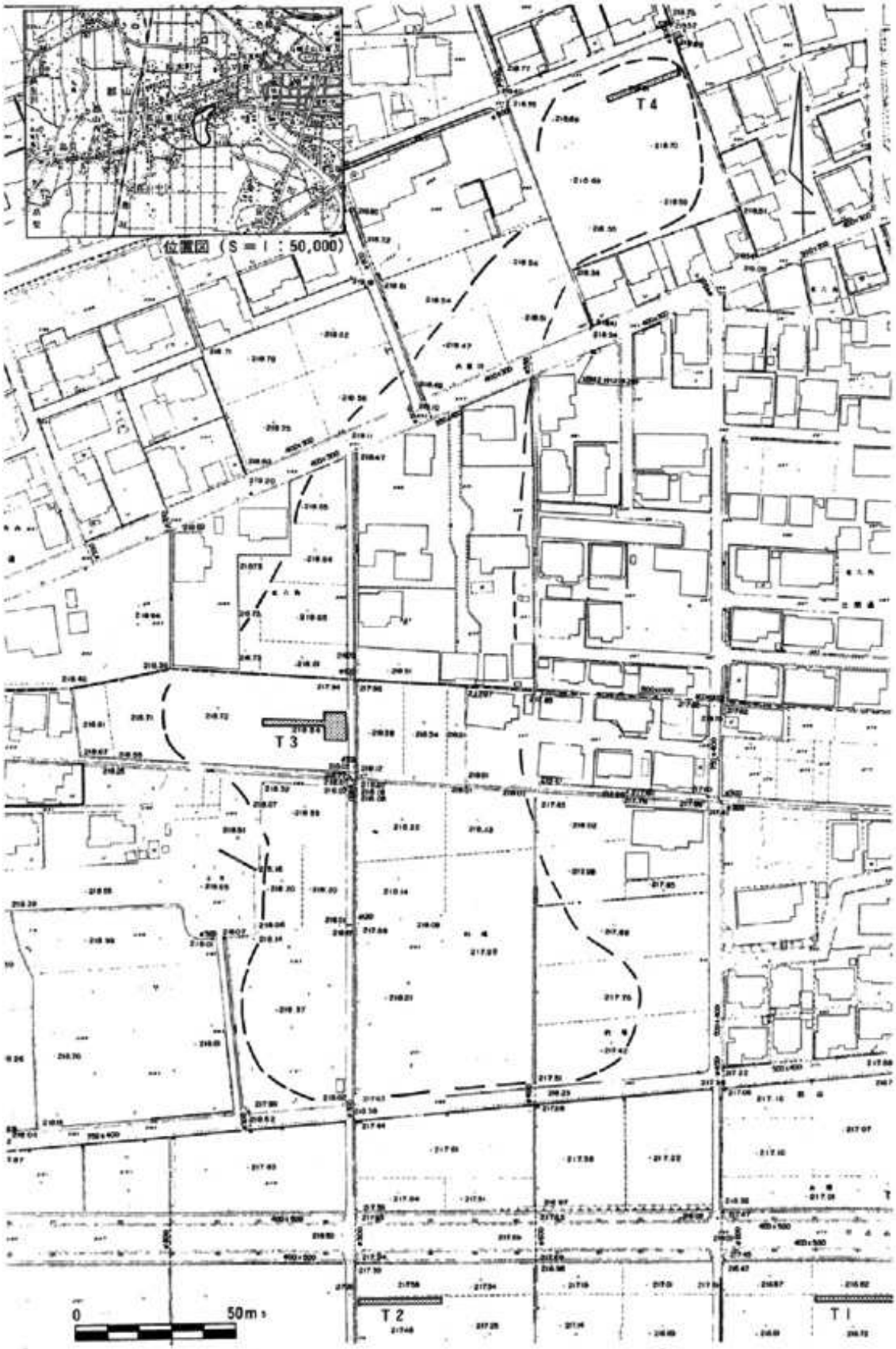
調査は、重機によるトレンチを４本入れ、Ｔ３・Ｔ４Ⅲ層上面からピット・土壙・性格不明遺構等が検出された。遺物は、両者から土師器小片が出土しているが、いずれも少数である。時期は、平安時代頃と推定される。



第33図　東六角遺跡遺構配置図



第34図　東六角遺跡ピット・土坑平面図



第35図　東六角遺跡概要図

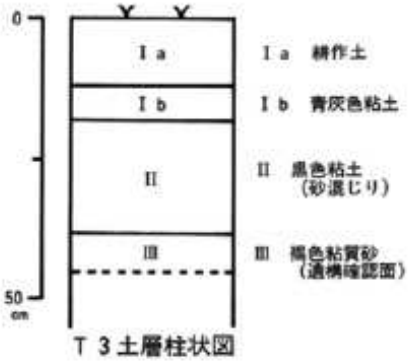
表－5　東六角遺跡ピット・土壙観察表

（単位：cm）

番号	地区名	平面形	規模（長径×短径）	深さ	壁の掘込状態	底面の状態	備考
EP3	T 3	楕円形	32 × 26	46	垂直	ほぼ平坦	
SK6	T 3	楕円形	62 × 50	15	緩やか	ほぼ平坦	
SK7	T 3	楕円形	80 × 76	(52)	垂直	ほぼ平坦	床面は推定

T３全景

T４全景



T３土層柱状図

T４調査状況

EP３

SK６

SK７

出土土器

図版28　東六角遺跡

b　観音堂遺跡（新　規　昭和60年）

所　在　地　山形県南陽市大字蒲生田字観音堂・番匠面・上番匠面
字寺ノ浦・関口前・高畑

調　査　員　名和達朗

調査期日　立会い調査　昭和61年６月18日

遺跡の概要　本遺跡は、蒲生田地区東側の吉野川右岸自然堤防上に立地する。標高は、約228ｍを測り、国鉄長井線と県道赤湯・宮内線の東西に広がる範囲で、面積は東西約150ｍ・南北約700ｍ、約6,350㎡が推定される。地目は、水田・畑地である。遺跡の確認は南陽市教育委員会の分布調査によるもので、新規である。

ここに、昭和61年度公害防除特別土地改良事業・吉野川流域地区が実施されることになり県教委では、その前年度に事業区域内について試掘調査を行なった。その内容に基づき関係機関との協議の結果、施工前に立会い調査を実施することになったものである。

調査は、重機によるトレンチを８本入れて遺構・遺物の確認を進め、Ｔ１～３からピット・土坑・溝跡（柱根？）、Ｔ１～４・６Ⅱ・Ⅲ層から遺物が出土した。時期は、平安時代と推定される。記録については、確認付近が盛土工事となるため検出プラン段階での写真撮影を行なった。

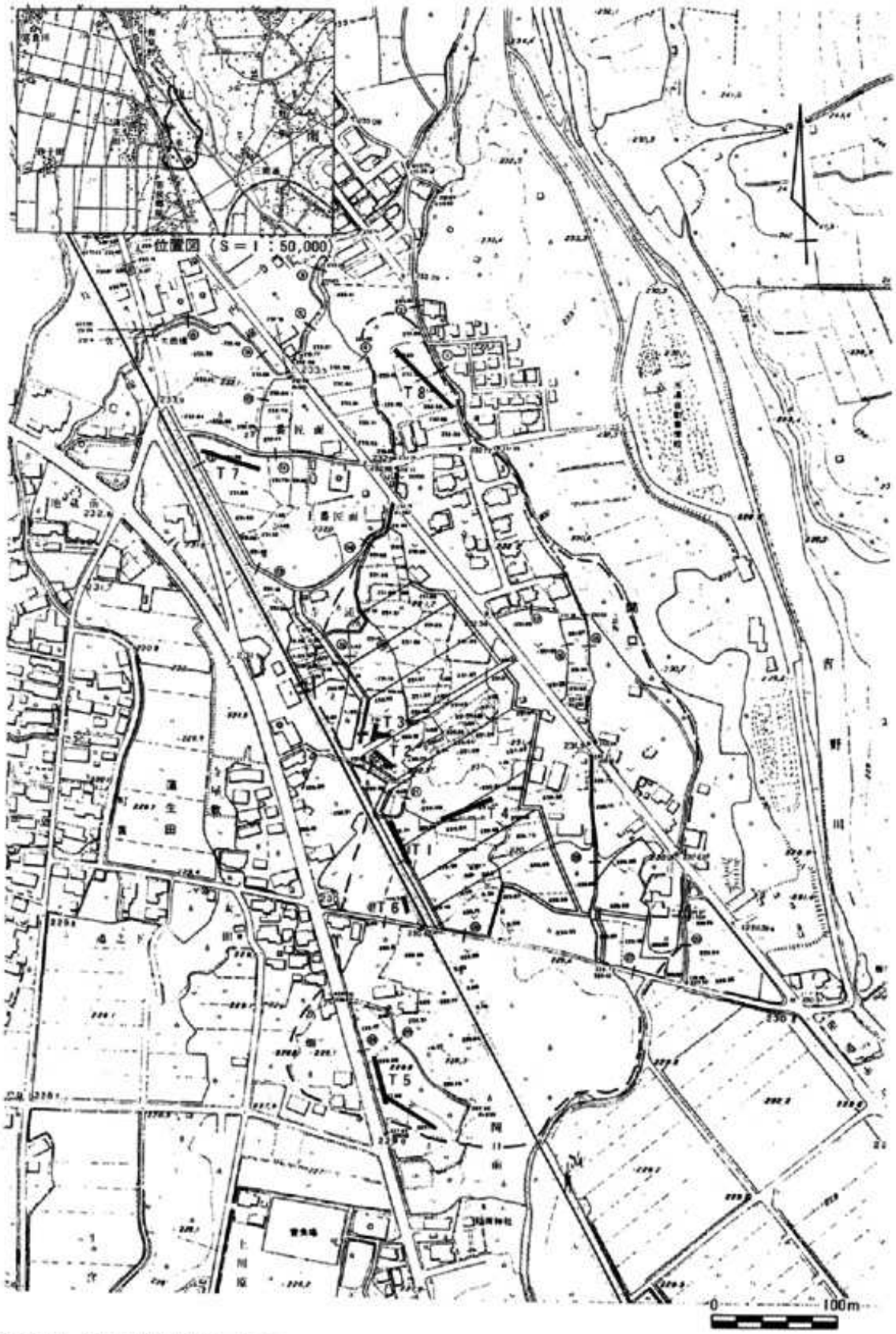
遺跡近景（北から）

Ｔ１全景

Ｔ１調査状況

Ｔ２調査状況

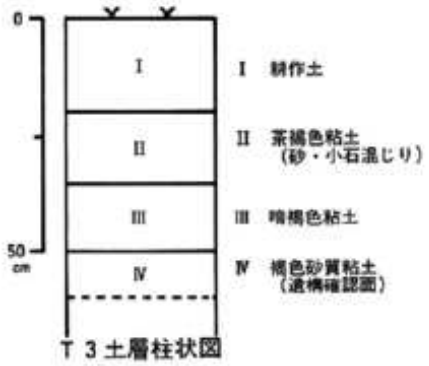
図版29　観音堂遺跡（１）



第36図　観音堂遺跡概要図

T３全景

T３調査状況



T３土層柱状図

T３土層断面

T４全景

T６全景

T１　T３　T４　T４　T６出土土器

図版30　観音堂遺跡（２）

（3）国道建設工事関係遺跡

a　富貴田遺跡（新　規　昭和60年）

所　在　地　山形県南陽市池黒字扇田

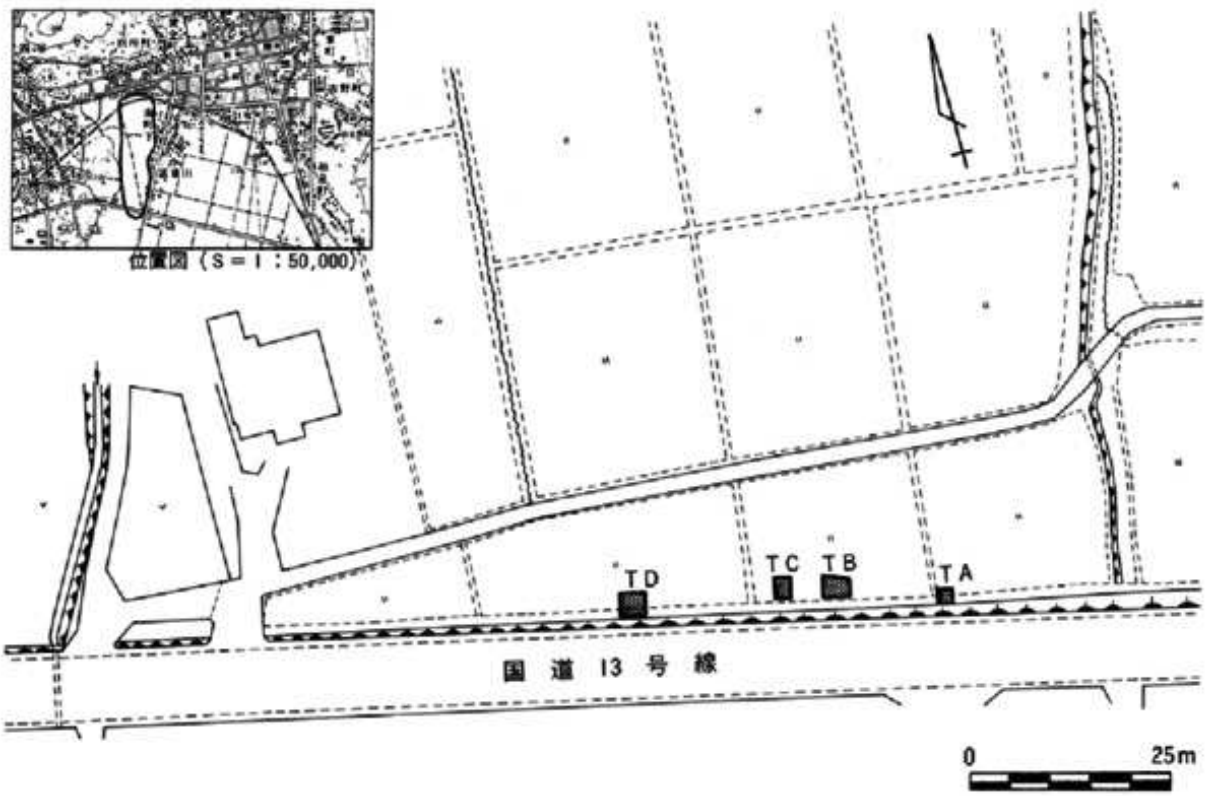
調　査　員　佐藤庄一

調査期日　立会い調査　昭和61年８月21日

遺跡の概要　本遺跡は、国鉄長井線宮内駅の南西約 1.5kmに位置し、標高約234ｍを測る。立地的には沖積平野の微高地にあたり、地目は、水田・道路等になっている。

遺跡の北東部については県営公害防除特別土地改良事業（吉野川流域）に関連して、昭和61年５月に分布Ｃ調査を実施しているが、その南側から国道113号線宮内歩道設置工事に関連して遺物が出土したため、建設省山形工事事務所と協議のうえ、立会い調査を実施することになったものである。

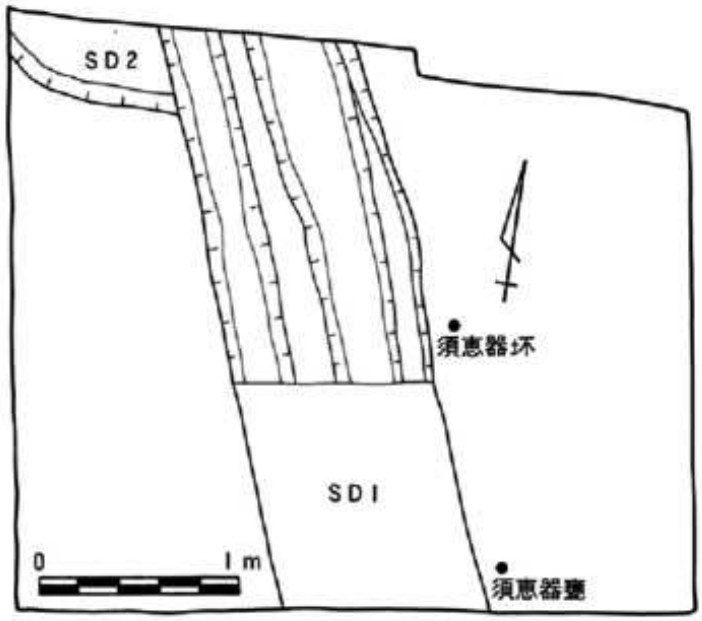
調査は、事業対象地区に４ヶ所のトレンチを設定し、II層までをバックホーで除去したのち面精査を行った。このうちＢ・Ｃトレンチから２条の溝状遺構と柱穴４個を検出した。遺構内から直接遺物は出ていないが、Ａ・Ｂトレンチから平安時代10世紀前後の所産と考えられる須恵器と赤焼土器片が出土している。いずれも磨滅が著しく、北方からの流れ込みにもるものと考えられる。



第37図　富貴田遺跡概要図

遺跡近景（東から）

ＴＢ土層柱状図

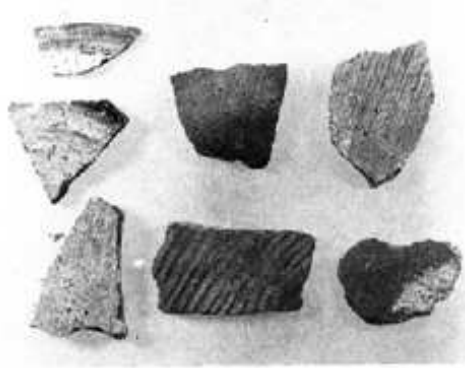


第38図　富貴田遺跡Ｂトレンチ遺構配置図

ＳＤ１（ＴＢ）

ピット検出状況（ＴＣ）

土師器



須恵器

図版31　富貴田遺跡

b　東高堰遺跡（新　規　昭和61年）

所　在　地　山形県南陽市漆山字東高堰二―1161―1他

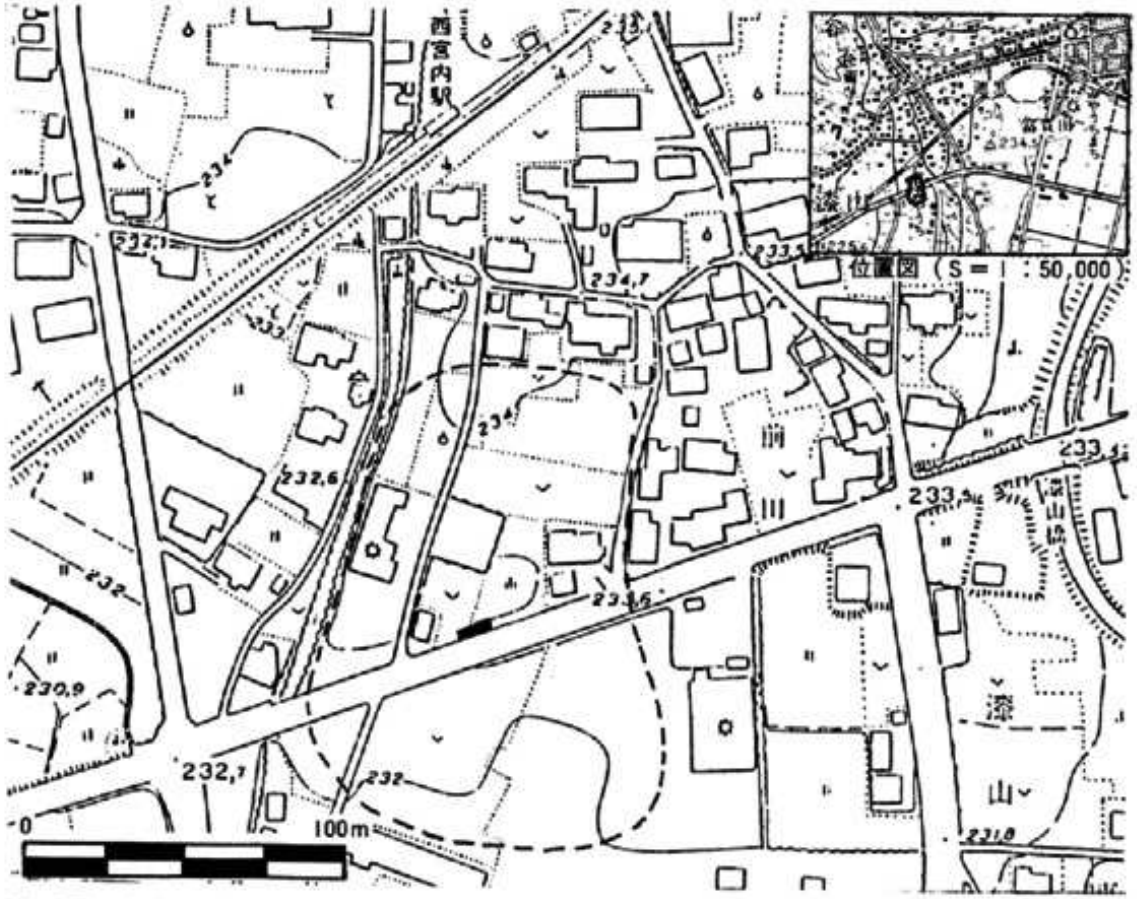
調　査　員　渋谷孝雄

調査期日　立会い調査　昭和61年10月8日

遺跡の概要　本遺跡は国鉄長井線西宮内駅の南方約 150mに位置し、沖積平野の微高地に立地する。標高は234mを測り、現在の地目は宅地、畑地、道路、荒蕪地等である。

本遺跡は昭和61年9月に付近を踏査していた南陽市教育委員会の職員によって発見された新規発見の遺跡で、市教委では9月26日に試掘調査を行い同29日付で県教委に遺跡発見通知の進達がなされた。県教委では遺跡の一部が国道113号線宮内歩道設置工事予定地内に入ることを確認したうえで、建設省山形工事事務所米沢国道維持出張所と遺跡の保護について協議を行なった。

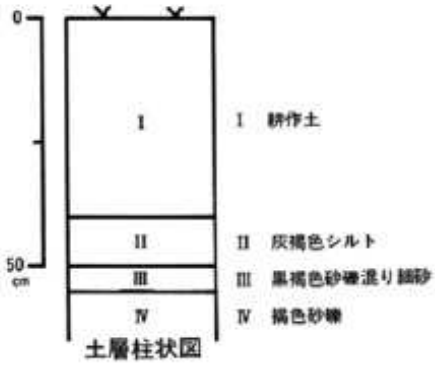
今回の調査はこの協議にもとづく立会い調査であり、事業区内に幅3.2m、長さ11.4mのトレンチを設定し、II層までバックホーで除去した後、手掘りで遺物包含層を掘り下げた。その後、VI層上面で面精査を行なったが遺構は検出できなかった。遺物は整理箱に約1箱分出土した。弥生時代中期堂森式の土器片と剥片がそれぞれ数片の他は、平安時代10世紀前後の所産と考えられる土師器、須恵器、赤焼土器である。いずれも磨滅が著しい。



第39図　東高堰遺跡概要図

調査風景（西から）

地山面検出状況（西から）



土層柱状図

土層断面（南から）

出土遺物（弥生土器他）

出土遺物（土師器）

出土遺物（須恵器）

出土遺物（赤焼土器）

図版32　東高堰遺跡

（4）一般県道米沢県南公園自転車道線関係遺跡

a　山の神1号墳（新　規　昭和61年）

所　在　地　山形県東置賜郡高畠町大字安久津字山の神

調　査　員　佐々木洋治　渋谷孝雄

調査期日　A調査　昭和61年8月27日　　立会い調査　昭和61年9月12日

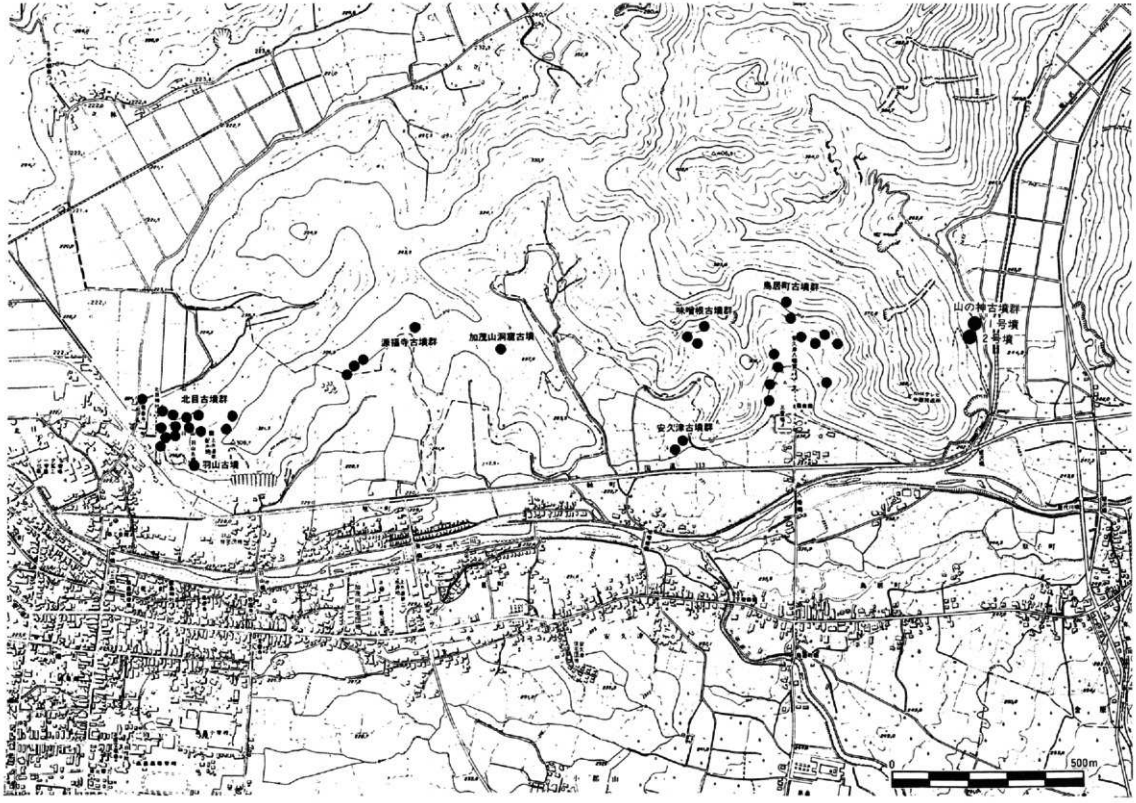
遺跡の概要　本古墳は昭和61年8月に高畠町教育委員会によって発見された新規登録の古墳である。本古墳の推定墳丘上から南西に約8m離れてもう一基の古墳—山の神2号墳—も同時に発見された。たまたま、この古墳が一般県道米沢県南公園自転車道の路線内に入る可能性が生じたため、連絡を受けた県教育委員会では、事業主体の県土木部米沢建設事務所と協議のうえ、同月27日に両者で現地確認を行なった。

その結果、1号墳はすでに内部主体の横穴式石室を構成する石材はすべて持ち去られてはいたが、山寄せ法で構築された古墳であることが確認され、このうちの東半部（第41図赤破線の東）が自転車道にかかることが明らかとなった。県教委では内部主体がほぼ完全に破壊されていること等から、立会い調査で対処するのが妥当と判断し、米沢建設事務所に対し、2号墳まで含めた現状測量図の作成と立会い調査の際の重機と作業員の提供を依頼した。立会い調査は立木の伐採、測量図の完成した9月12日に実施した。

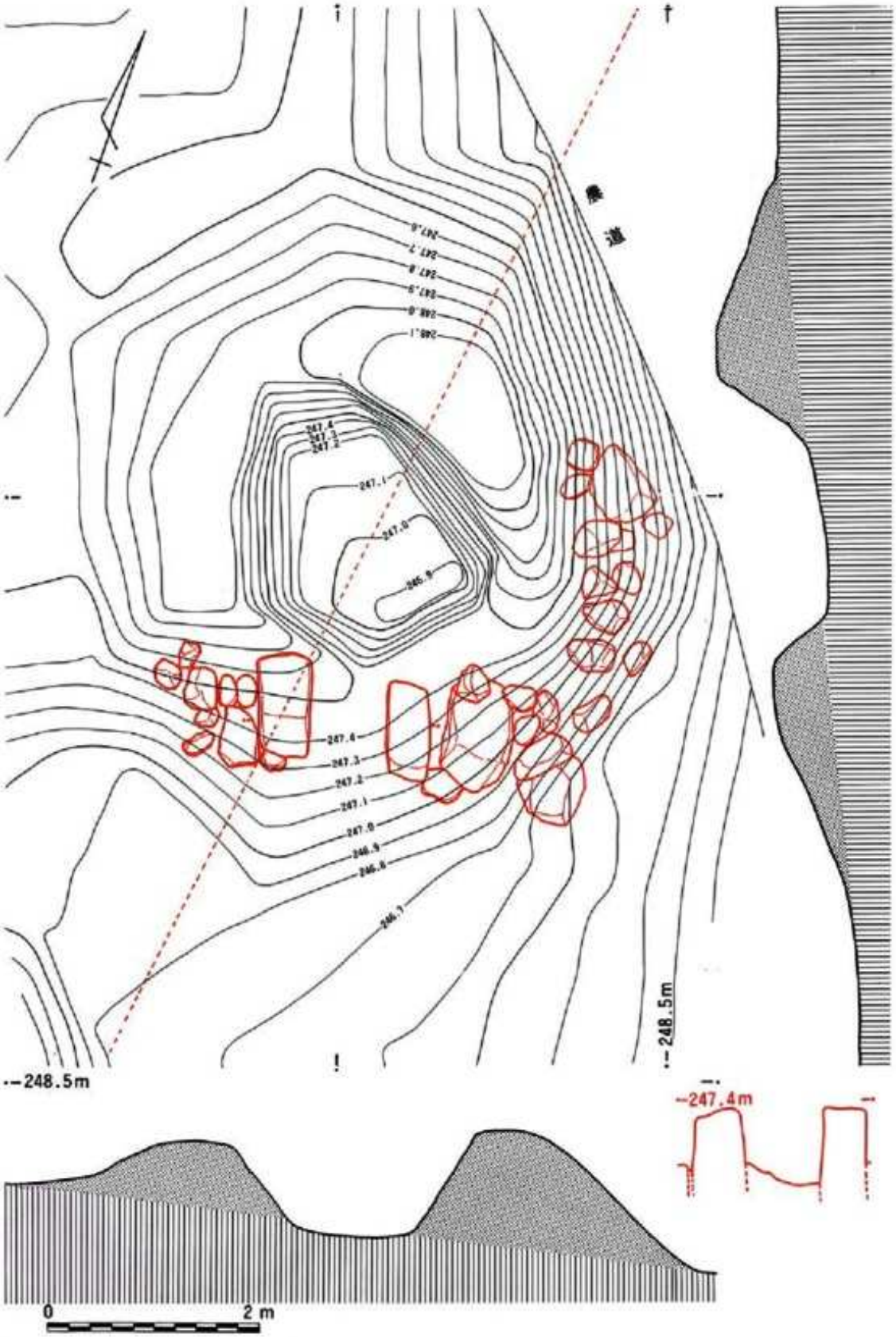
古墳の位置と環境　本古墳は県指定建造物である安久津八幡神社から東北東約 500mに位置し蛭沢川の右岸の山裾に立地する（第40図）。屋代川の北山麓には古墳時代後期～終末期にかけての多くの古墳の存在が知られ、現存する35基が安久津古墳群として昭和59年7月に県の史跡に指定された。安久津古墳群は従来からの北目、羽山、源福寺、加茂山、安久津、味噌根、鳥居町の7つの支群を総称したもので、本古墳群もそのひとつの支群とみることができる。これらの古墳群の多くは山麓に分布する山寄せの古墳であり、最も西に位置する北目1号墳と本古墳群を除いて最も東に位置する鳥居町9号墳は昭和59年度に県教委による発掘調査が行なわれ、その成果が公表されている（佐々木・佐藤1985）。

墳丘と現状　東面する山裾に山寄せによって墳丘を築いた直径約7mの円墳である。農道の開削によって墳丘裾の北東部の一部が切られている。現存する墳丘の高さは谷側から約1.6m、山側から0.6mを測る（第41図）。墳頂部には横穴式石室を構成する凝灰岩を採取するために掘られたとみられる南北2.8m、東西2.4m、深さ1.0mの窪地があり、天井、奥壁、側壁を構成する石はすべて持ち去られており、一部裏込めに使われた角礫が露出していた。今回の調査対象地区は自転車道にかかる第41図赤破線以東である。

石　　室　前述したとおり玄室を構成する石はすべて持ち去られていたが、墳丘の表土除去を行なっているうちに羨道部の両側壁を構成する2枚の切石が検出された。両壁とも長



第40図　山の神1号境と周辺の古境群位置図



第41図　山の神１号墳測量図

さ１ｍ、幅0.5ｍ、高さ0.9ｍ前後の一枚石であり、羨道幅は約0.7ｍとなる。 また、この石の走向から推定される石室の主軸方向は北から西に18°の振れとなっている。

出土した遺物　本古墳から整理箱にして３箱相当分の土師器・須恵器が出土した。その大半は羨道に向って左側の墳丘裾部からまとまって出土した（図版34）。接合作業の結果、土師器・須恵器合わせて41個体が復元できた。以下、その概要を記す。

（土師器）復元できたのは24個体である。すべて供膳形態の土器で甕は破片を含めても１点もない。器種は坏、椀、高坏がある。これらの製作にあたってロクロは使われていない。

坏は内外面とも黒色処理の施されたａ類と内面にだけ黒色処理のあるｂ類に分けられ、法量・器形等によって各々二分できる。

a1類：口径12～13cm、器高3.5cm前後とやや小形で平底となる。ゆるやかな立上りとなるが口縁部で屈曲し口唇部は直立する。１には器面全体にヘラミガキが施され、２の外面はヘラケズリの後ラフなヘラミガキが、そして、口唇部にはヨコナデが施されている（第42図１・２）。

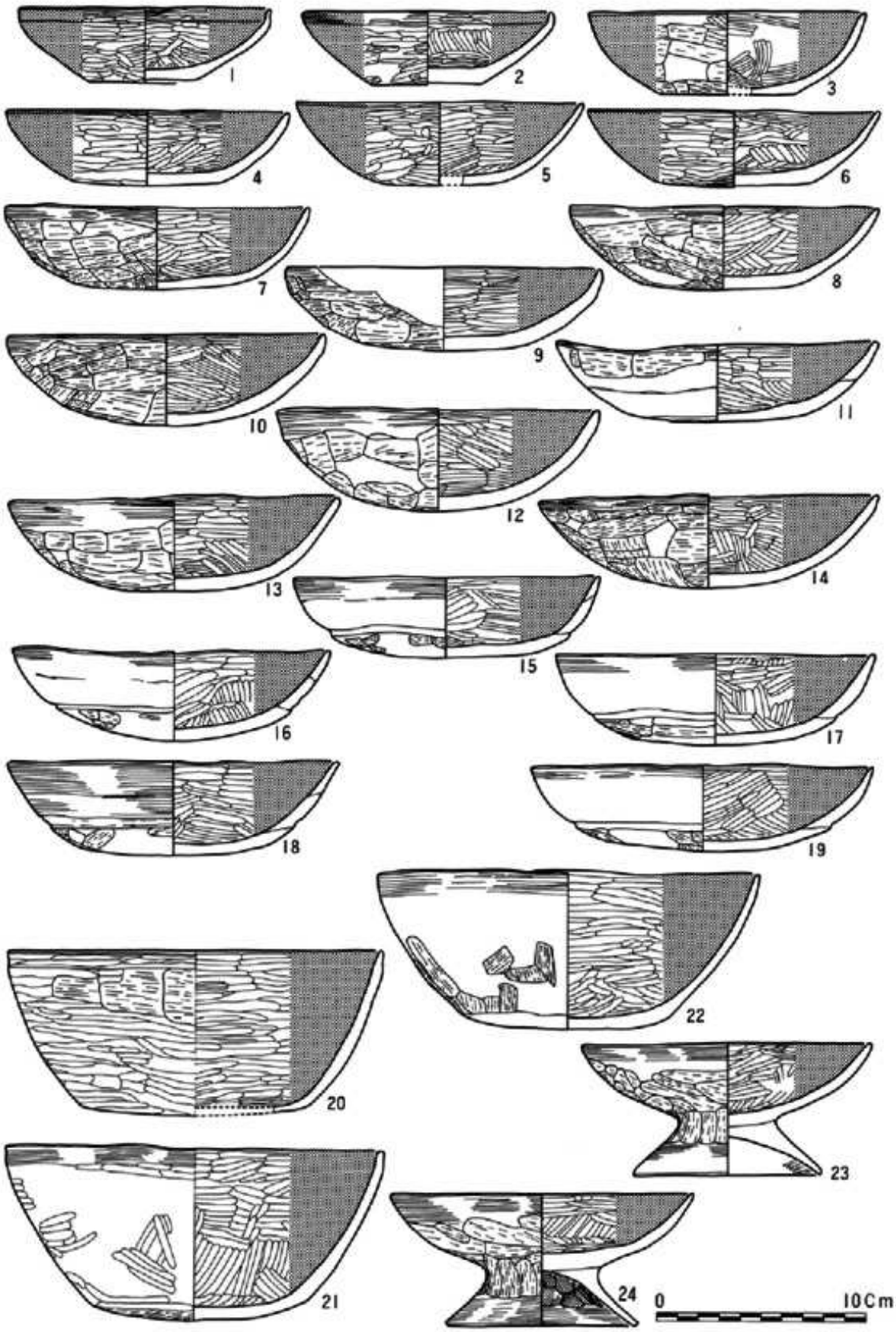
a2類：口径13.2～14cm、器高3.5～４cmでa1類より大形となる。 ３は平底であるが他は丸底ふうの平底となる。３が体部中央でやや強く内湾するが他はゆるく内湾しながら立上っている。３の外面にはヘラケズリの後、部分的にヘラミガキが施され、４～６には器面全体に丁寧なヘラミガキが施されている（第42図３～６）。

b1類：口径14.5～16.2cm、器高は3.5～4.5cm、底部は丸底となる。体部と底部は全面にヘラケズリ調整が施され、口縁部はヨコナデとなる（第42図７～14）

b2類：口径14.6～16.2cm、器高は3.9～4.5cmと法量的にはⅡａ類と大差ないが、体部外面下半に一本の沈線による段を有するのが特徴である。段の上位にはヨコナデによる整形が認められるだけでb1類にみられるヘラケズリはない。また、段の下位にも部分的なケズリ調整が施されているが顕著ではない（第42図15～19）。

椀は３点出土した。口径が17.8～18.1cm、器高は7.3～8.0cmと法量の差はほとんどない。底部は丸底ふうの平底である。外面の調整は３点とも異なっている。20はヘラナデ、ヘラミガキが併用され、最終的に口縁に丁寧なミガキが施されている。21は体部がナデ、口縁がヨコナデによって整形された後、部分的にヘラミガキが施される。底部は全面がヘラケズリ調整となる。22は体部外面にヘラケズリ、口縁部にヨコナデが施されている。

高坏は４個体出土したが復元できたものは２個体である。口径13.8～14.4cm、器高 6.2～6.3cmで、坏部の器形、調整技法は坏Ⅱａ類に類以する。脚部は直線的に開き、23には内面にヘラミガキが施され、24には刷毛目調整が施されている。坏部と脚部の境界外面には縦方向のヘラケズリが施されている。



第42図　山の神1号墳出土土器（1）

（須恵器）17個体が復元され、蓋、杯、高台付杯、甕の器種がある。

蓋は３個体出土している。回転糸切りによって切り離され、中央の窪むつまみが付けられている。口縁部のかえりもそれほど強くはない。口径は14.9～16.2cm（第43図25～27）。

坏は６個体の出土があり、切り離し技法と再調整の有無によって次のように分類できる。

a類：回転糸切りのもの。再調整はなく、体部内外面にロクロの凹凸がある。口径14.6cm、器高3.9cmで器形はｂ・ｃ類とほぼ同じである（第43図28）。

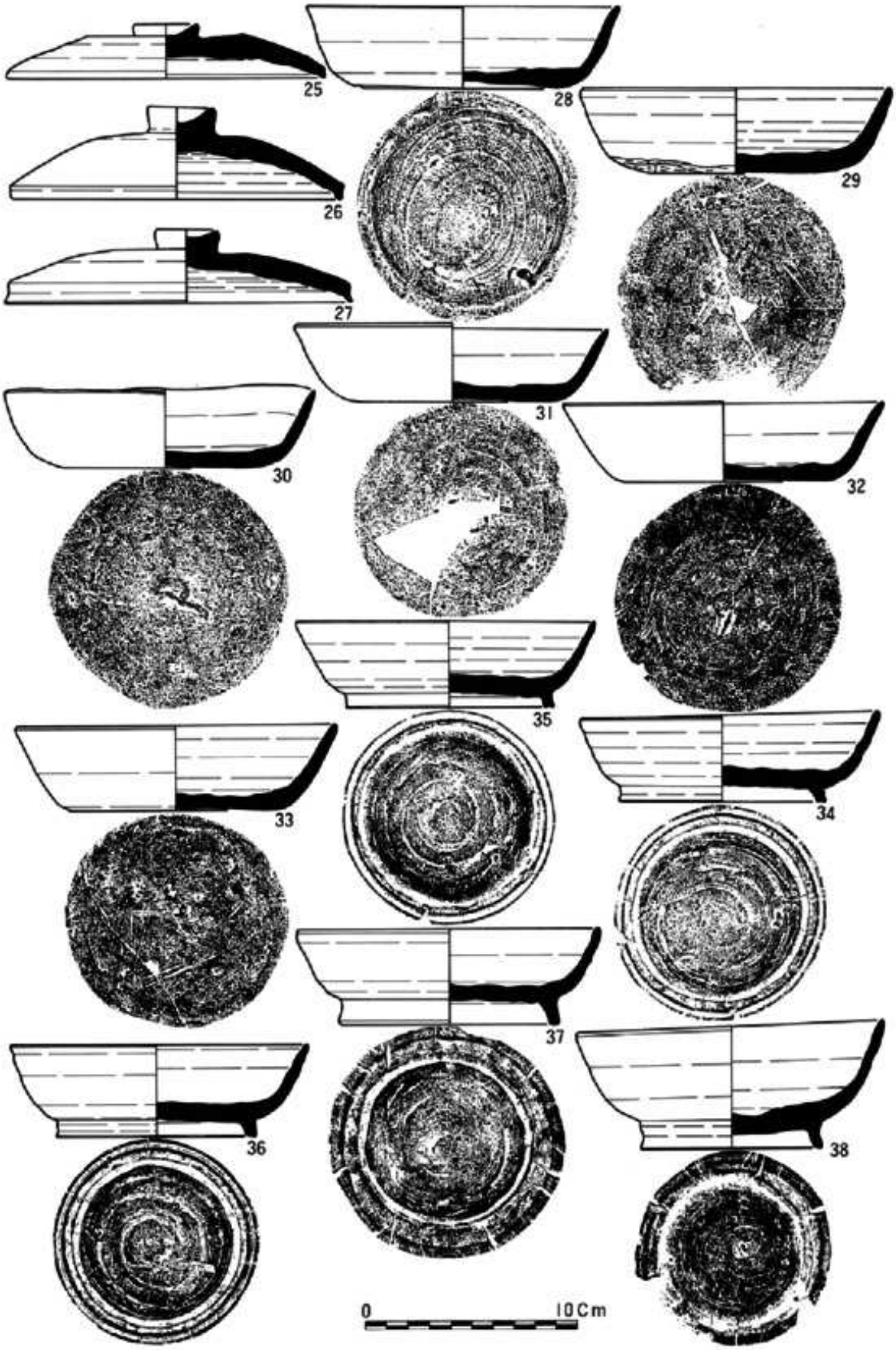
b類：回転ヘラ切り後、体部下端に手持ちヘラケズリが施されたもの。口径14.5cm、器高3.9cmである（第43図29）。なお、この底部外面には×印のヘラ描きがある。

c類：回転ヘラ切りのもの。ケズリ等の再調整はないが、体部外面はナデによって平滑に仕上げられている。口径14.5～15.0cm、器高3.5～4.0cm（第43図30～33）。33の底部には×印のヘラ描きがある。

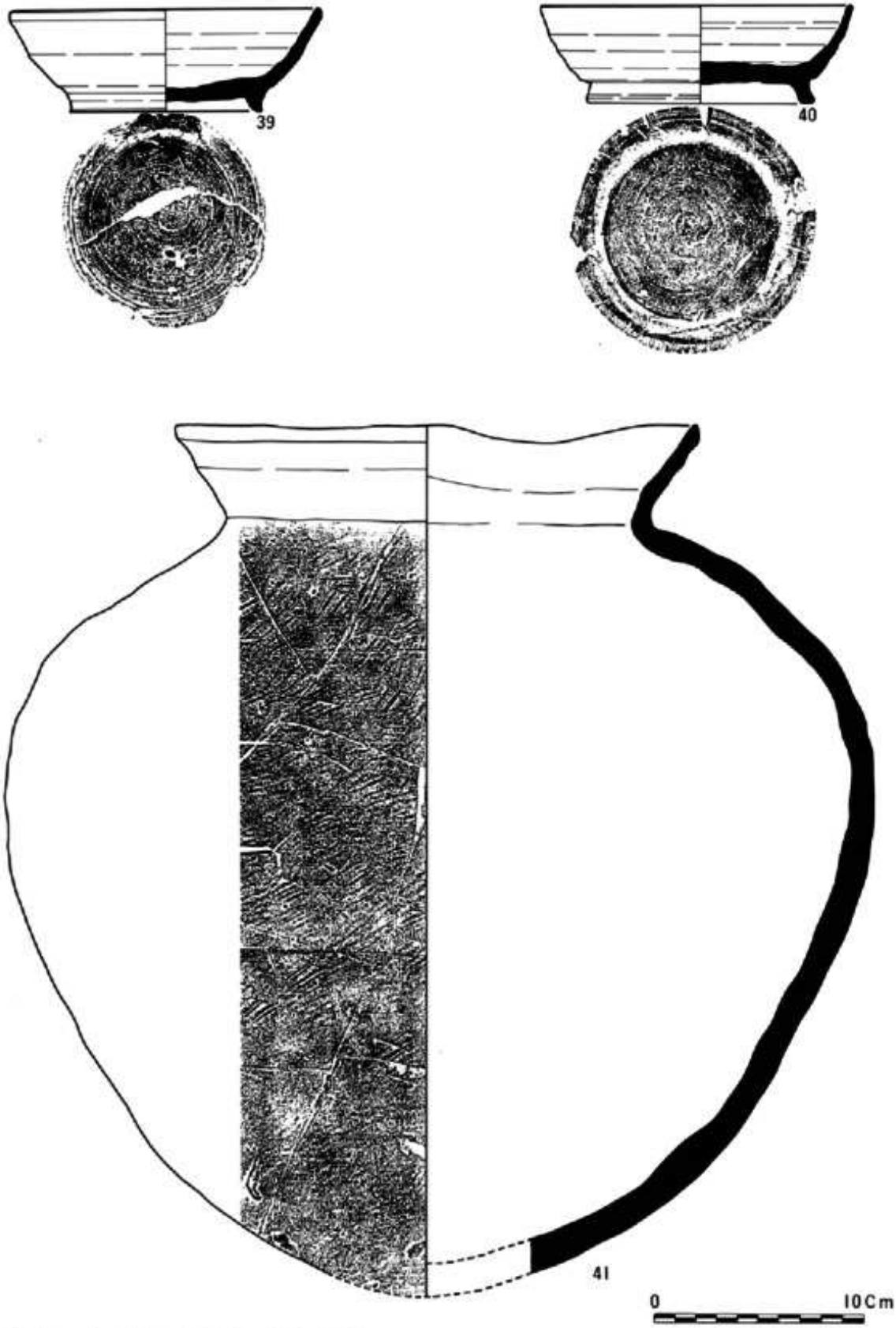
高台付坏は７個体出土した。身が浅く急角度で立上るもの（第43図34～37、第44図39）と身が深く、底部中央部からゆるやかな立上りとなるもの（第43図38、第44図40）の二者があり、前者は口径14.0～14.9cm、器高4.0～4.6cm、後者は口径14.4～14.8cm、器高 4.6～4.9cmである。

甕は１個体が復元できたが、これとは別個体の破片も出土している。焼歪みが著しいが平均的な口径は23.4cm、最大径41cm、器高41.3cmを測る。最大径は体部上半にあり、底部は丸底となる。平行タタキ、無文アテによる叩き締めの後、内外面ともナデ整形が行なわれている。体部中央から下半にかけて自然釉がかかっている（第44図41）。

出土遺物の性格と年代　今回の調査で出土した土器は埋葬後に祭祀用に使われて、そのまま遺棄されたものと考えられる。集落遺跡で普遍的に出土する煮沸形態の土器を欠いているが供膳形態の土器はほぼ出揃っているとみてよいだろう。これらの各器種は製作技法や器形の相違から２～３類に細分することができたが、一時期のものであるとの証拠も二～三時期に分けられるという証拠も現地調査の段階では得られなかった。土師器坏のb1、b2類はそれぞれ国分寺下層式第Ⅲ類と第Ⅱ類に相当すると考えられる（氏家1967）が、南陽市沢田遺跡第１～３号住居跡（名和1985）、山形市山形西高敷地内遺跡141・142号 住居跡（佐藤他1979）など近年の本県の集落遺跡の調査により、これらは共伴するものであることが明らかになりつつある。多賀城跡でもＳＩ1432住居跡で共伴しており（進藤1984）、最近ではこれらの年代が８世紀前半から中頃であるといわれている。本古墳の造営された時期もこの年代に近接すると考えられる。安久津古墳群の中で発掘調査が行なわれた北目１号墳（佐々木・佐藤1985）では土師器坏のb1類がなく、須恵器蓋、坏、高台付坏とも器形・調整技法に差が認められる。北目１号墳の方が本古墳よりやや遡るものと考えられる。



第43図　山の神1号墳出土土器（2）



第44図　山の神１号墳出土土器（３）

調査風景

羨道部検出状況

羨道部（東から）

羨道部（南から）

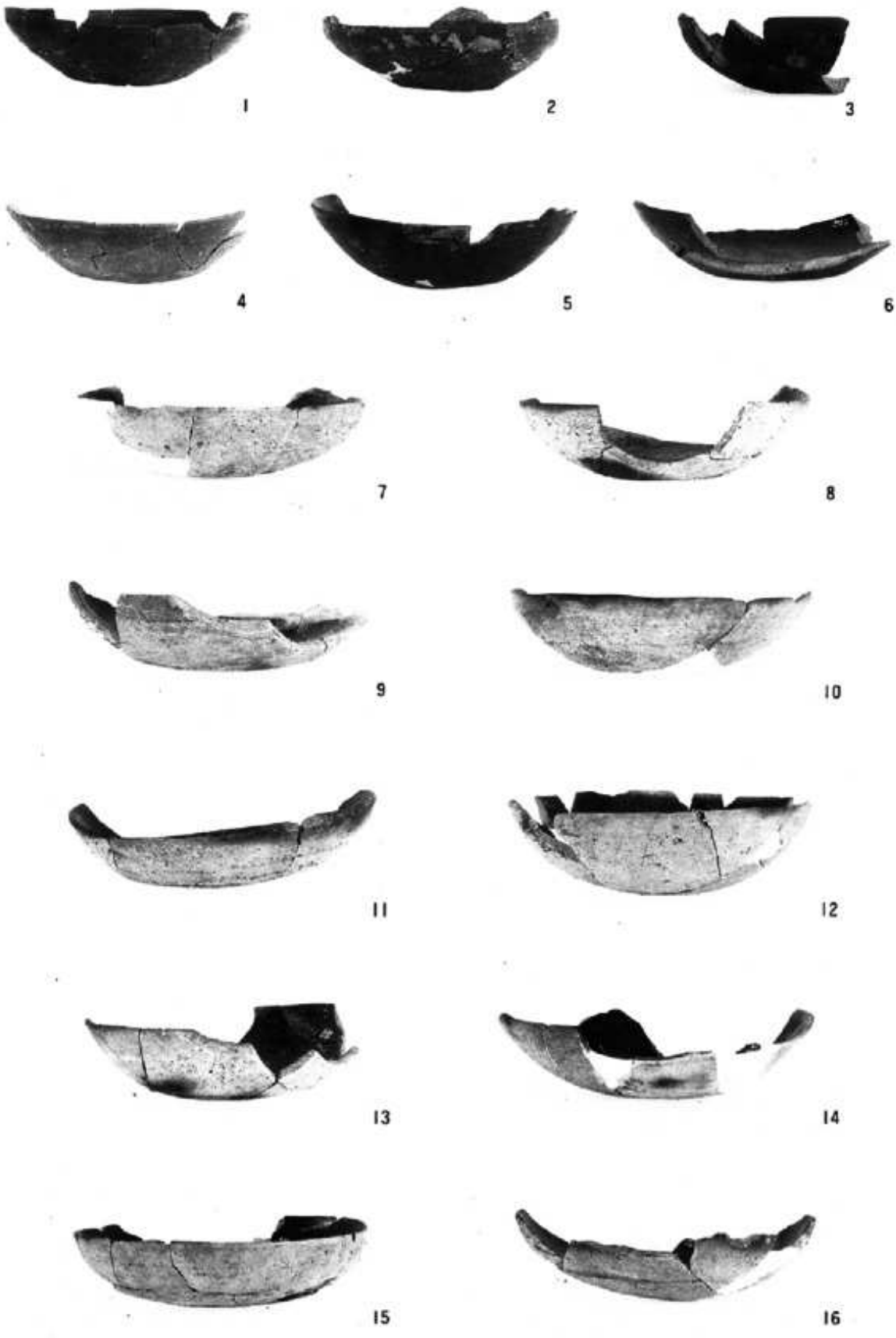
裏込め状況（南東から）

図版33　山の神1号墳（1）

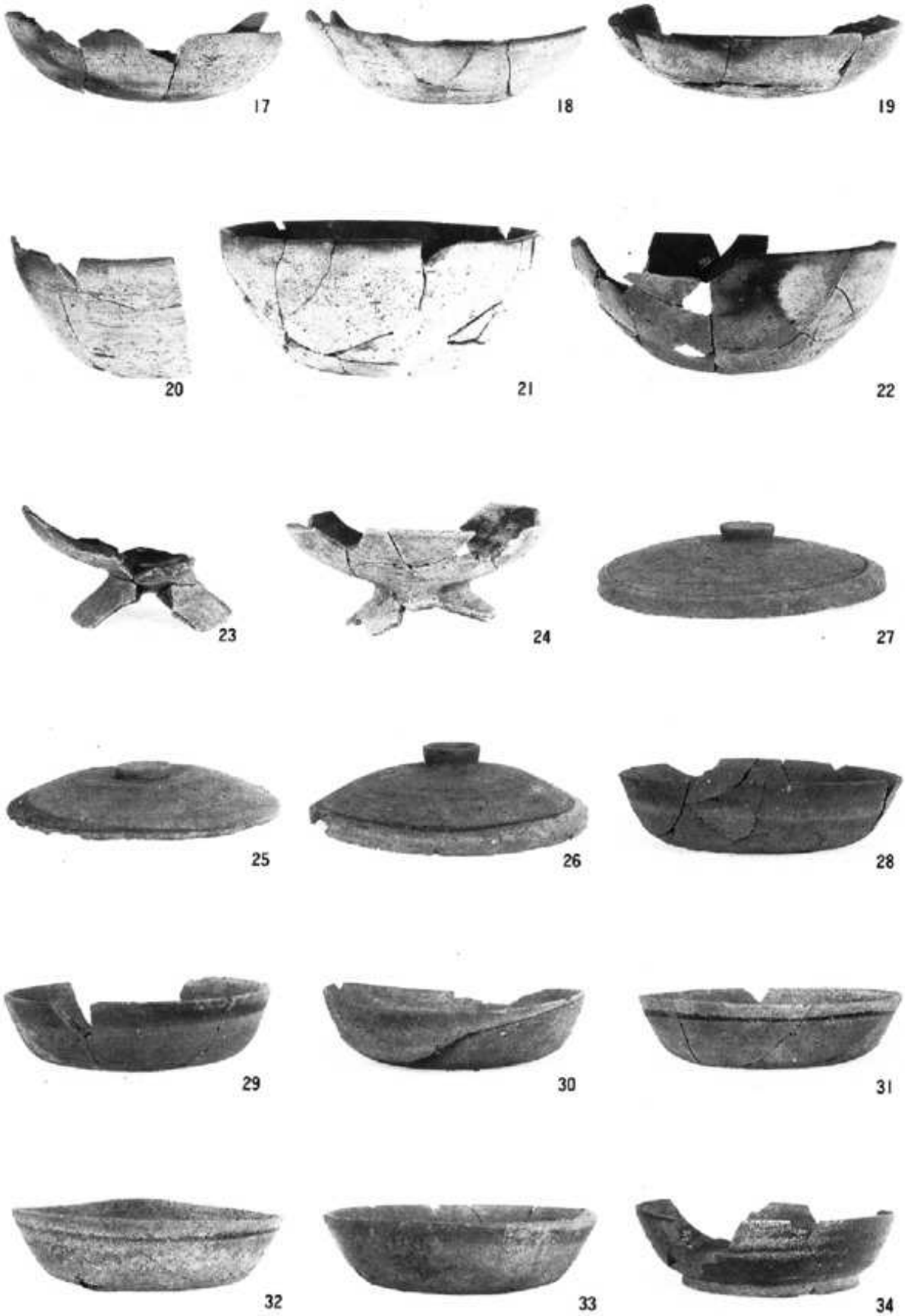
遺物出土状況（南から）

羨道部（正面から）

図版34　山の神１号墳（２）



図版35　山の神1号墳出土土器（1）



図版36　山の神１号墳出土土器（２）

35

36

37

38

39

40

41

図版37　山の神１号墳出土土器（３）

5　試掘調査実施遺跡

（1）県営ほ場整備事業関係遺跡

a　南興野（なんこうや）遺跡（遺跡番号2025）

所　在　地　山形県酒田市新青渡（にいあおど）字南大坪他

調　査　員　野尻　侃　名和達朗

調査期日　B調査　昭和61年10月13・14日

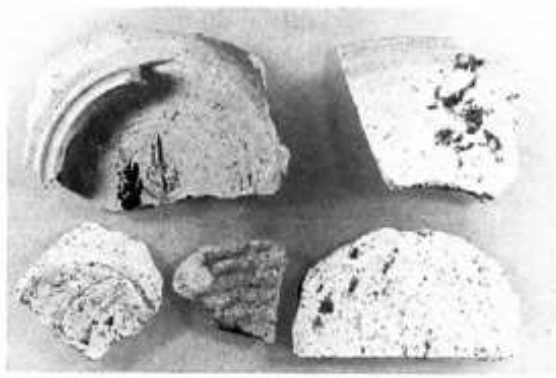
遺跡の概要　遺跡は、酒田市街地より東へ約4㎞、酒田市新青渡部落の南部に位置する。新井田川右岸の自然堤防上に立地し、標高 4.3m前後を測る。地目は水田・畑地・宅地で、新青渡部落へ向う市道の西側と東側に遺跡が広がる。今回の遺跡詳細分布調査は、昭和62年度に施工予定の県営ほ場整備事業（北平田第一地区）との調整に資するため実施したものである。また市道西側については、昭和61年度の同事業により、緊急発掘調査を実施している。昭和61年度の調査では平安時代10世紀後半から11世紀代の掘立柱建物跡・井戸跡板材列・土拡などの遺構・内黒土師器・須恵器・赤焼土器・斎串等の遺物が出土した。

今回の調査は、昭和62年度事業予定区内に1m×1mの坪掘りを63ヵ所実施し、赤焼土器・須恵器片などの遺物や、柱穴と考えられる遺構などが検出され、昭和61年度の調査で確認された遺跡が、更に東側へ大きく広がるものと考えられる。

遺跡近景（南から）

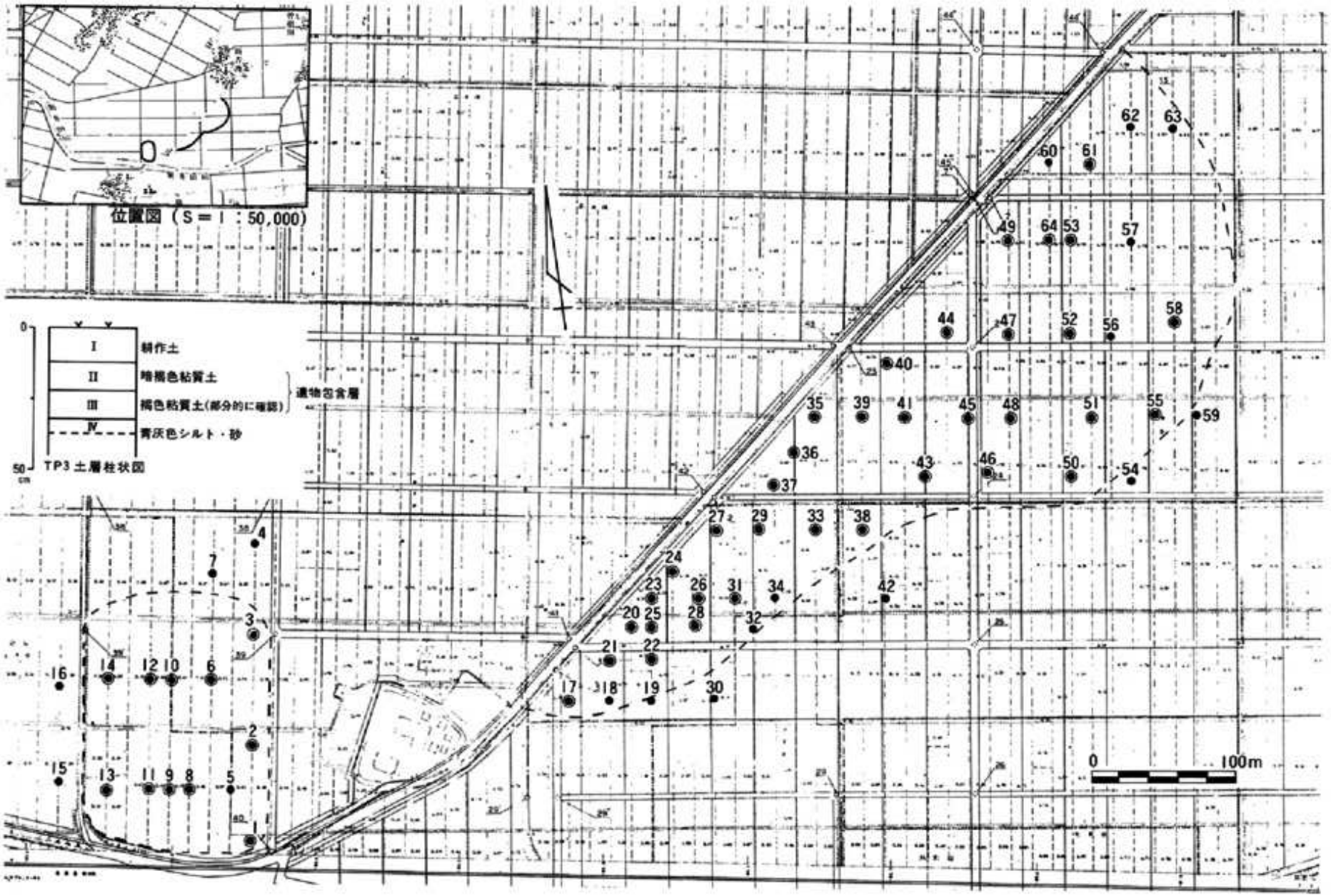
土層断面

土層断面



出土遺物（須恵器・赤焼土器）

図版38　南興野遺跡


位置図（S＝1：50,000）
0
I 耕作土
II 暗褐色粘質土
III 褐色粘質土(部分的に確認)
遺物包含層
IV 青灰色シルト・砂
50 cm
TP3 土層柱状図
0
100m

b　熊野田（くまのだ）遺跡（遺跡番号2028）

所　在　地　山形県酒田市大字熊野田字高砂71他

調　査　員　野尻　侃　名和達朗

調査期日　B調査　昭和61年10月14・15日

遺跡の概要　遺跡は、酒田市街地から東へ約5㎞、酒田市熊野田部落東側水田に立地する。新井田川左岸の自然堤防上に立地し、標高5m前後を測る。地目は水田・畑地・宅地で、熊野田部落近辺まで遺物の散布が認められ、遺跡は更に西側へ広がるものと思われる。

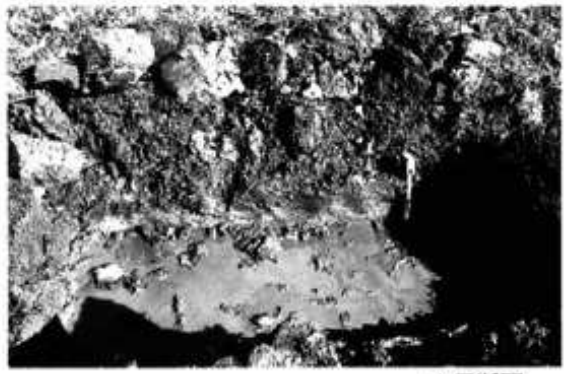
今回の調査は、本遺跡の東半部を含む一帯に、昭和62年度県営ほ場整備事業（平田地区）が実施されることになった。このことにより同61年度に所管課である県農林水産部農地建設課より同事業範囲内の埋蔵文化財分布調査依頼が出され、それを受けて、同年10月に試掘調査を伴う詳細分布調査を実施することになったものである。試掘調査は明確な遺跡範囲を得るため、事業区域内に1m四方のテストピット（T・P試掘穴）を42ヵ所行なった。遺跡の広がりは、東西300m、南北400mの約120,000㎡の範囲と考えられるが、遺跡の西半部は同事業区域からはずれ、次年度以降の事業区域となる。試掘したTPからは、地表下25～35cmに遺物包含層が存在し、須恵器・赤焼土器片が出土し、地山層である青灰色粘土層上面にはピット等の遺構が検出された。遺跡の性格は、平安時代の集落跡と考えられる。

第46図　熊野田遺跡概要図

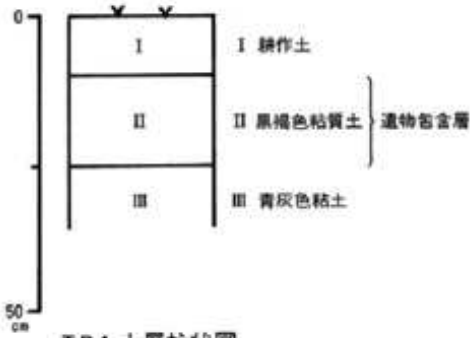
遺跡遠景（東から）

遺跡近景（北から）

土層断面



土層断面



TP4 土層柱状図

調査風景

出土遺物（赤焼土器）

出土遺物（須恵器）

図版39　熊野田遺跡

c　手蔵田（てぐらだ）6・7遺跡（遺跡番号2034・2035）

所在地　山形県酒田市大字手蔵田字杉ノ先72・76他

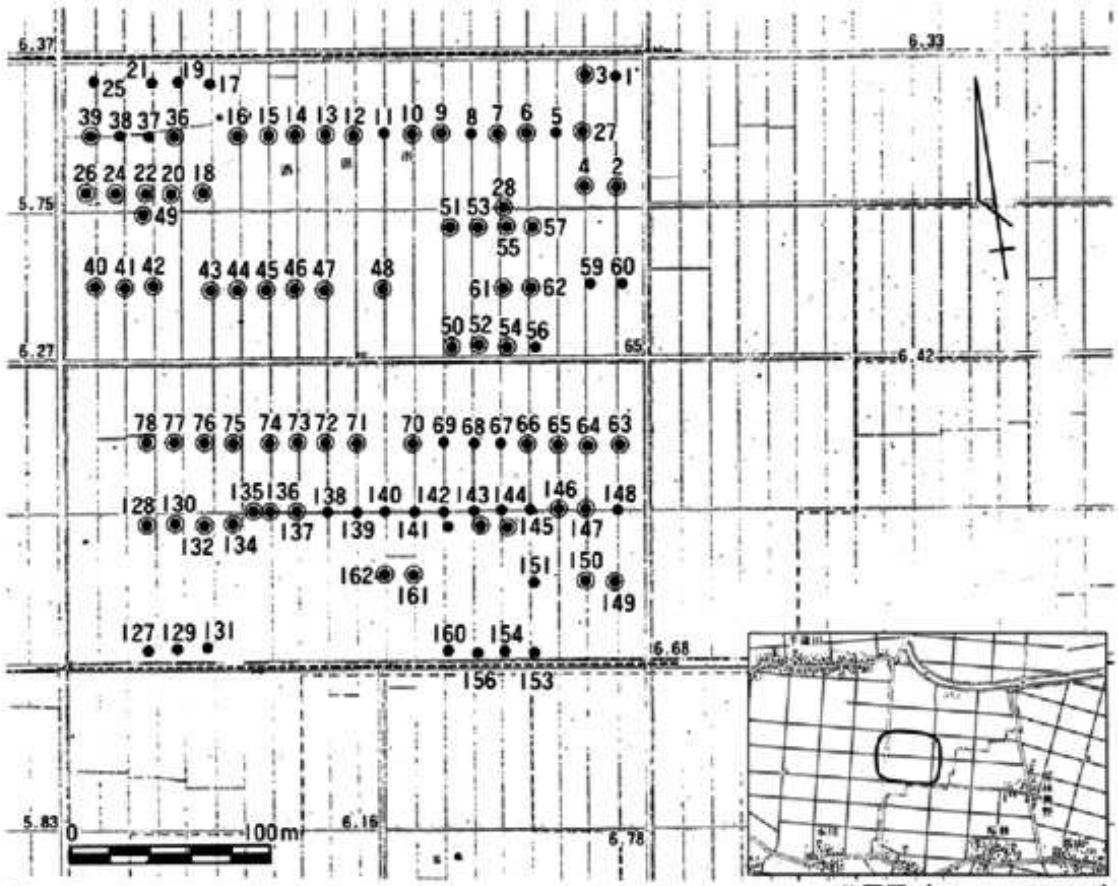
調査員　阿部明彦　黒坂雅人

調査期日　B調査　昭和61年10月8日

遺跡の概要　遺跡は、平田町石橋部落の北約 600m、手蔵田10・11に南接して位置し、標高6.3～6.5mを計る。手蔵田6遺跡では墨書土器、柱根、同7遺跡では須恵器他の土器類の出土が暗渠管理埋設工事等を通して知られ、「遺物包含層が厚く、分布範囲が広い」とされる。

今回の遺跡詳細分布調査は、昭和62年度に予定される県営ほ場整備事業（中平田東地区）との調整に資する目的から実施したもので、遺跡域を中心にその周囲 102ヶ所にテストピットを入れた。その結果、東西300m以上、南北約300mの範囲に遺構・遺物の分布が認められ、従来認識されてきた遺跡範囲を大きく上まわる事が判明した。手蔵田6遺跡については、施工区との関係からその中心部分についての調査を行なっていないが、同7遺跡の範囲拡大によってその距離的隔差はなくなり、東西に一連の遺跡と推測される。

出土遺物では、径の小さな糸切り底の須恵器坏、同甕、あかやき土器塊、甕等の破片があり、平安時代中期頃の年代が考えられる。

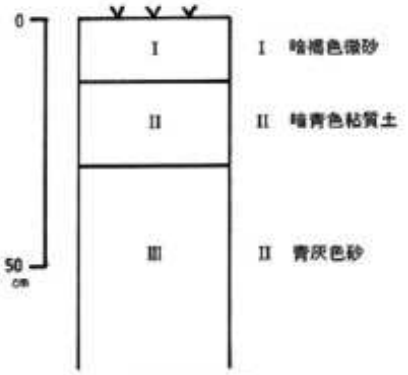


第47図　手蔵田6・7遺跡概要図

位置図（S＝1：50,000）

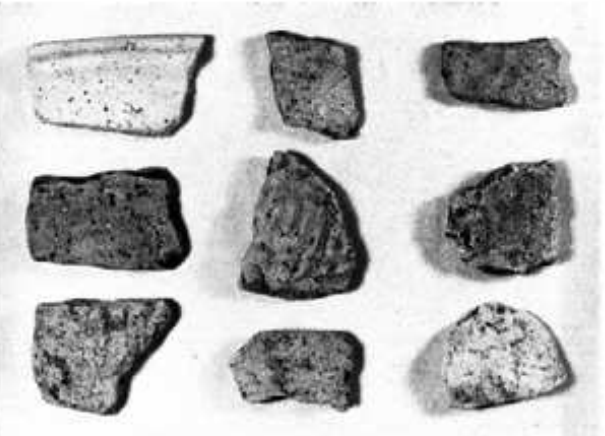
手蔵田６・７遺跡遠景（西から）

手蔵田６・７遺跡遠景（東から）



ＴＰ62土層柱状図

ＴＰ55検出遺構



出土土器（須恵器＝あかやき土器）

図版40　手蔵田６・７遺跡

d　手蔵田(てくらだ)10・11遺跡（遺跡番号2038・2039）

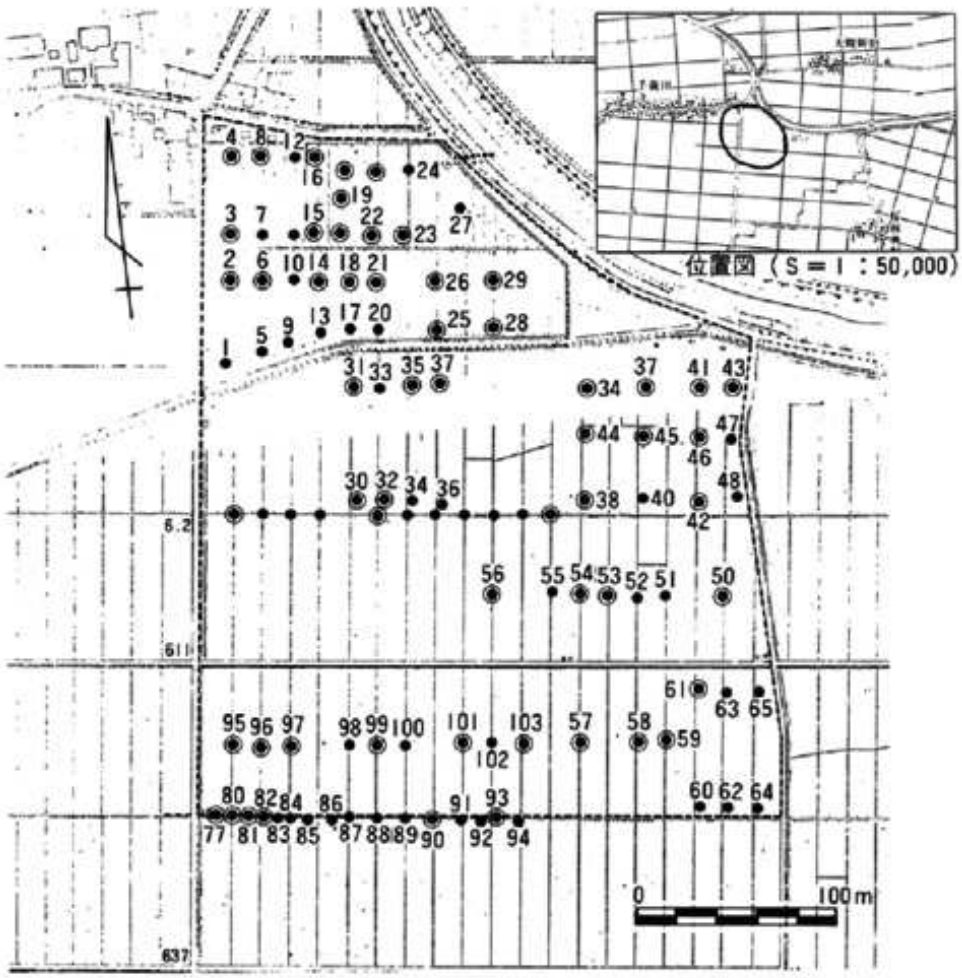
所　在　地　山形県酒田市大字手蔵田字村上58・97他

調　査　員　阿部明彦　黒坂雅人

調査期日　B調査　昭和61年10月7日

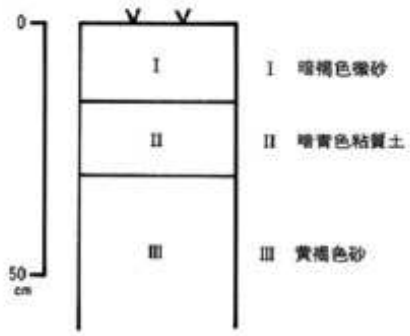
遺跡の概要　遺跡は、手蔵田部落の東端水田中に位置し、旧平田川の流路をはさんでその両岸一帯に広がっている。特に旧流路の右岸、遺跡北半域では、暗渠排水管の埋設工事に際して多くの土器類、柱痕、曲物等の出土が知られ、遺跡の主要な位置を占めるものと推測できる。試掘の結果でも地盤、遺物の包含状況ともに良好であった。

今回の遺跡詳細分布調査は、昭和62年度に施工が予定される県営ほ場整備事業（中平田東地区）との調整に資する目的から実施したもので、施工対象域に104ヶ所のテストピットを入れた。その結果、東西300m以上、南北約350mにわたって遺物の散布や包蔵が認められ、従来知られていた手蔵田10・同11遺跡は大きく見て同一遺跡の範囲内に含まれるものと判断できる。出土遺物は、須恵器、あかやき土器他があり平安時代の集落跡と見られる。



第48図　手蔵田10・11遺跡概要図

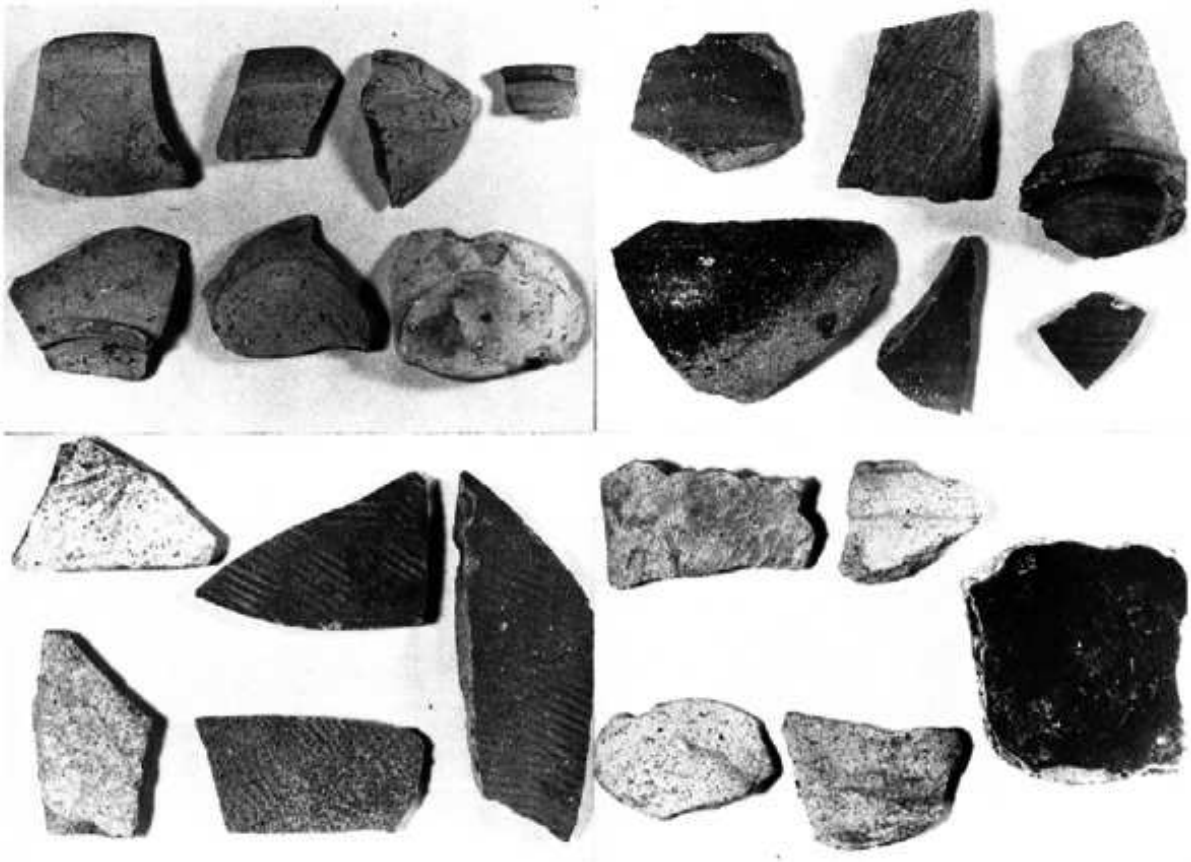
遺跡遠景（西から）



ＴＰ53土層柱状図

ＴＰ50土層断面

柱穴検出状況



出土土器（須恵器・あかやき土器）

図版41　手蔵田10・11遺跡

e　早稲田遺跡（遺跡番号2326）

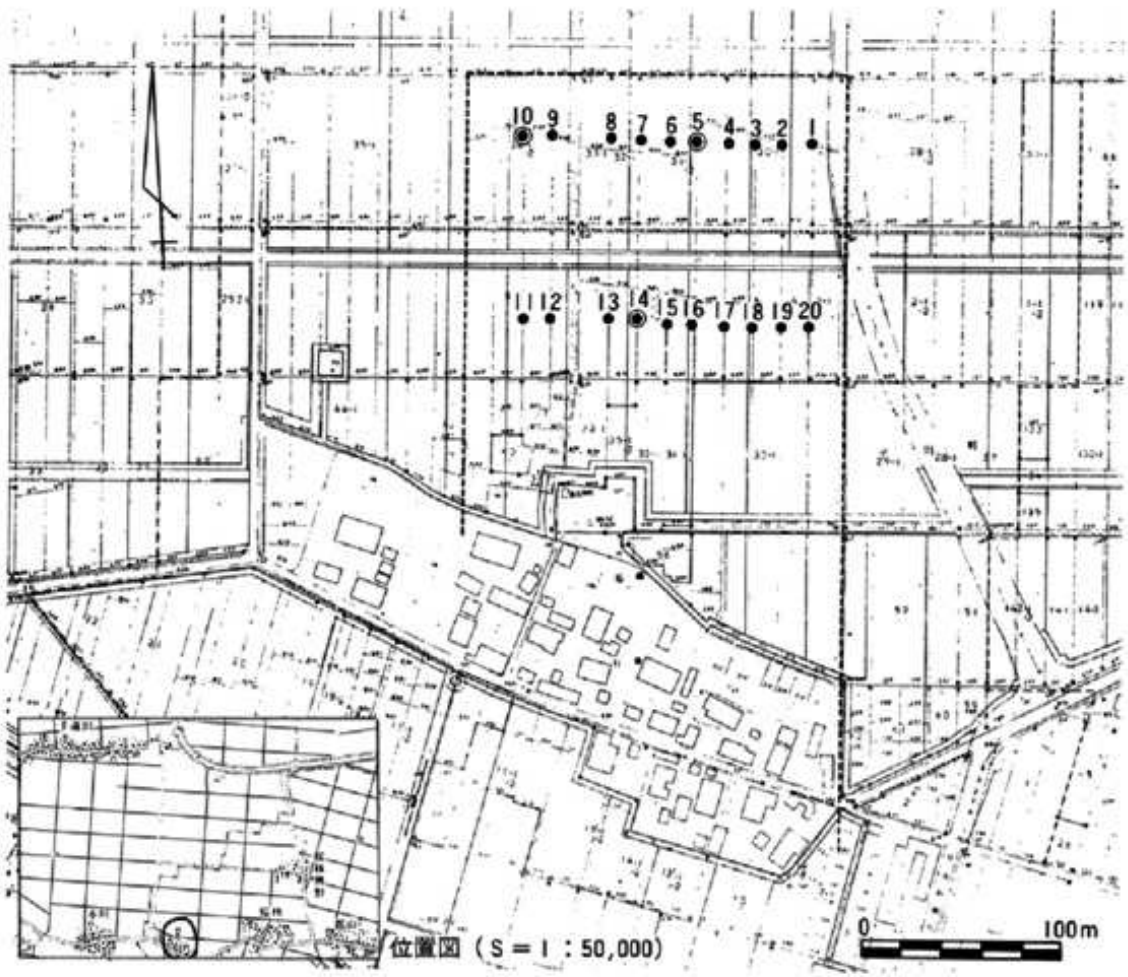
所　在　地　山形県飽海郡平田町大字石橋字早稲田

調　査　員　阿部明彦　黒坂雅人

調査期日　B調査　昭和61年10月13日

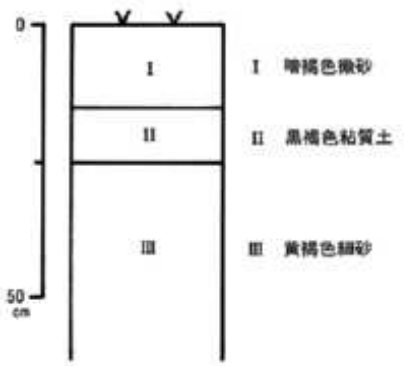
遺跡の概要　遺跡は、平田町石橋部落を南北からとり囲んだ形で存在する。標高 7.6～8mを計る。部落北側の水田及び畑地に、赤焼土器・須恵器他の散布が知られている。

今回の遺跡詳細分布調査は、昭和62年度に予定される県営ほ場整備事業（中平田東地区）との調整に資する目的から実施したもので、施工対象区域内に20ヶ所のテストピットを入れた。その結果、東西約200m、南北300m以上にわたって遺物の散布がみられ、従来知られていた遺跡範囲が北側に大きく拡大することが確認された。さらに皇太神社付近北側に良好な包含地点を確認した。出土遺物には須恵器・赤焼土器他があり、平安時代の集落跡と見られる。



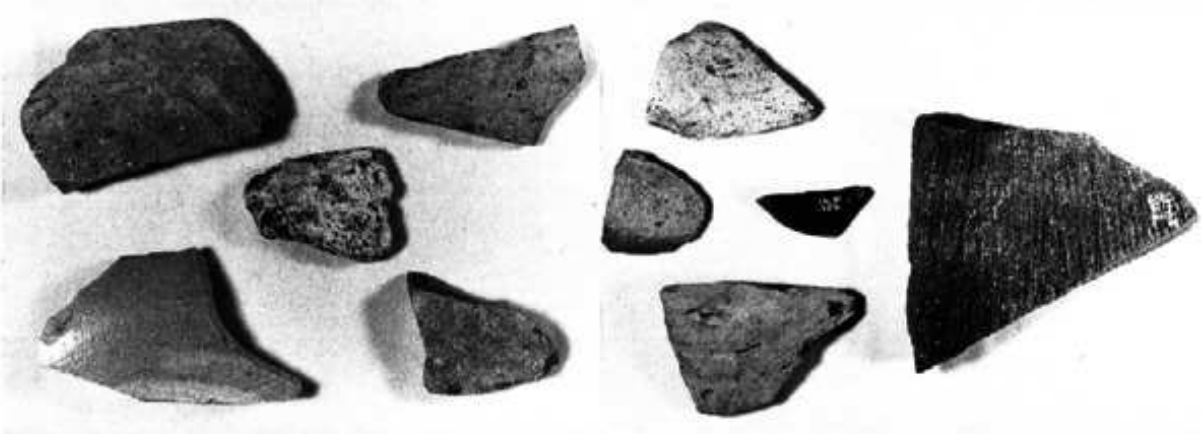
第49図　早稲田遺跡概要図

遺跡近景（東側より）



土層柱状図

ＴＰ14土層断面



出土土器

図版42　早稲田遺跡

f　桜林遺跡（遺跡番号2327）

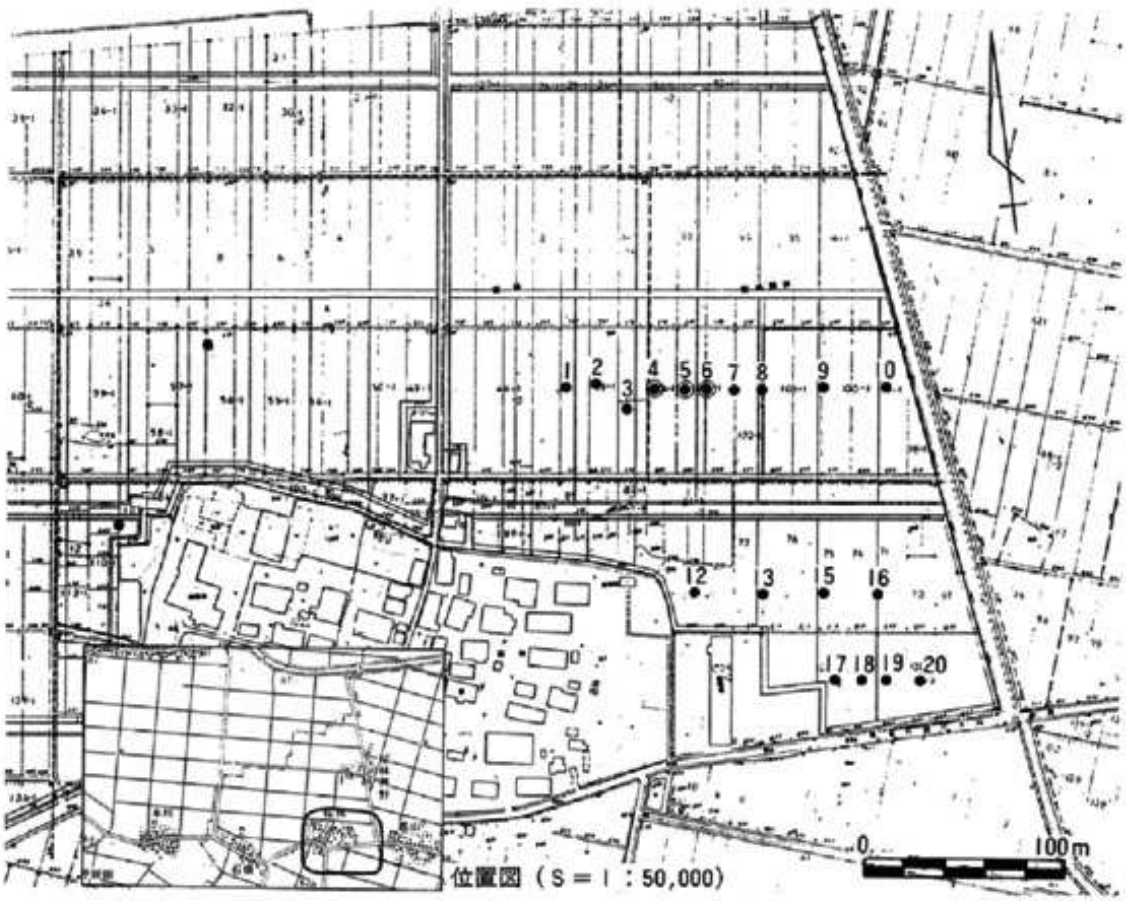
所　在　地　山形県飽海郡平田町大字桜林字大坪・惣田

調　査　員　阿部明彦　黒坂雅人

調査期日　B調査　昭和61年10月14日

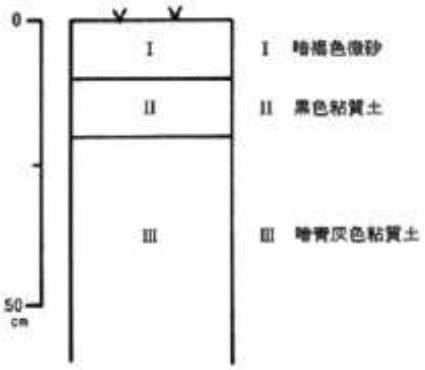
遺跡の概要　遺跡は、桜林部落を南北に囲む形で広がっている。部落北側畑地での遺物散布が知られており、水田部分については耕作のため一部破壊の可能性が指摘されている。現在まで須恵器、あかやき土器、曲物等の出土が確認されている。地目は水田、畑地、宅地となっており、標高約9mを測る。

今回の遺跡詳細分布調査は、昭和62年度に施工が予定されている県営ほ場整備事業（中平田東地区）との調整に資する目的から実施したもので、施工対象区域内、特に東側を中心に20ヶ所のテストピットを入れた。その結果、地山の状況、遺物の包蔵状態ともに良好であった。さらに北側～西側について遺跡詳細分布調査Aを実施し、東西400m、南北200mにわたって遺物の散布を確認した。出土遺物には、須恵器、あかやき土器他があり、平安時代の集落跡とみられる。



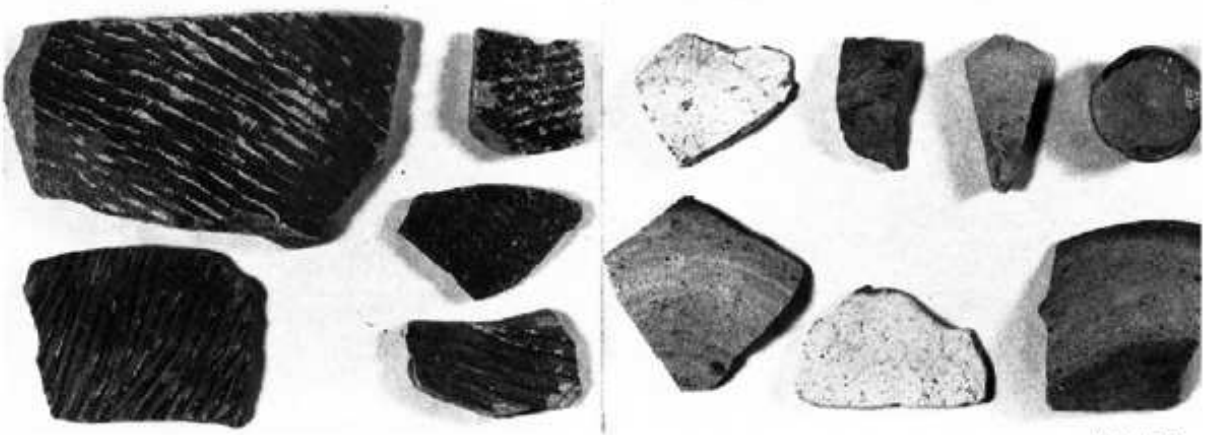
第50図　桜林遺跡概要図

遺跡近景



TP12土層柱状図

TP12土層断面



出土土器

図版43　桜林遺跡

g　西田（にしだ）遺跡（新　規　昭和61年）

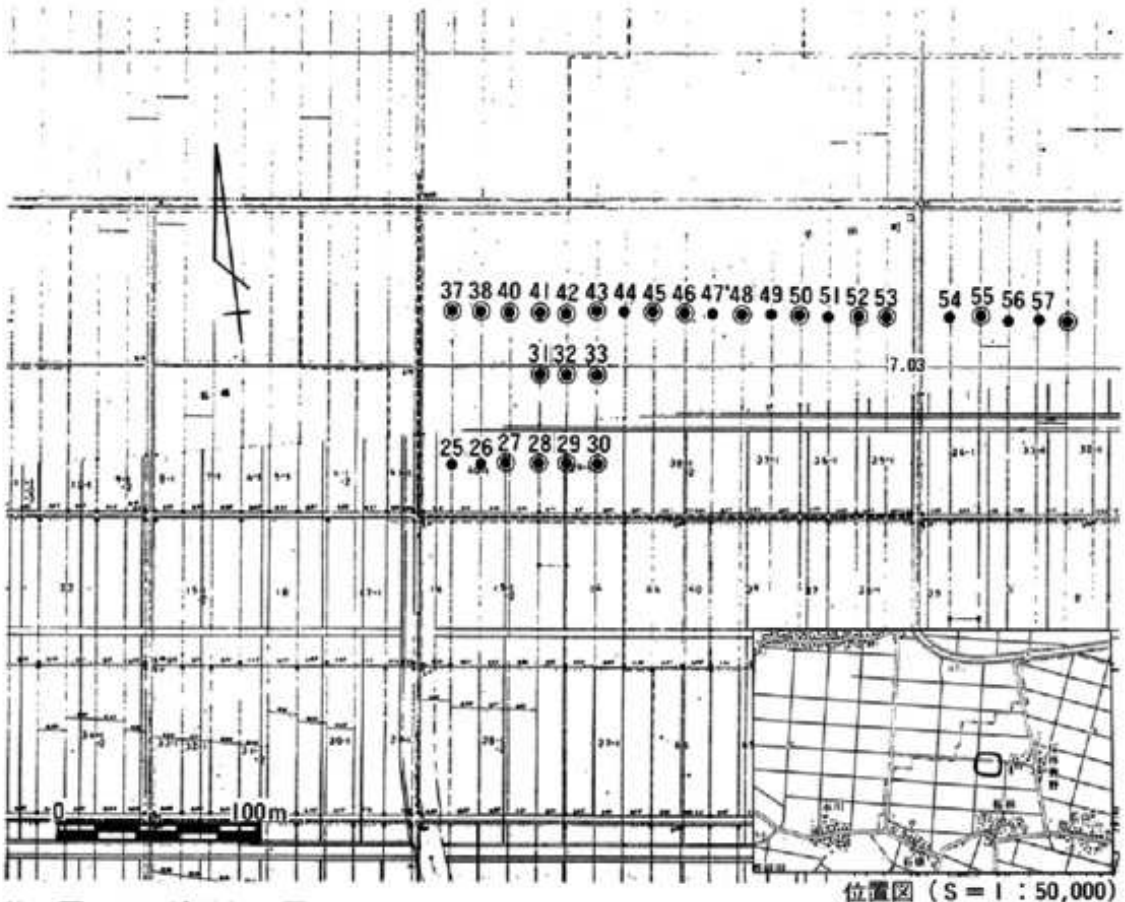
所　在　地　山形県飽海郡平田町大字桜林興野字西田

調　査　員　阿部明彦　黒坂雅人

調査期日　B調査　昭和61年10月9日

遺跡の概要　本遺跡は、昭和62年度に施工が予定されている県営ほ場整備事業（中平田東地区）との調整に資する目的から実施した遺跡詳細分布調査によって新たに存在が確認された。桜林興野部落の西側水田中、昭和61年度施工区域に隣接した地点について、遺跡詳細分布調査Aを実施したところ、遺物のまとまった散布がみられたため、施工対象区域内に30ヶ所のテストピットを入れた。

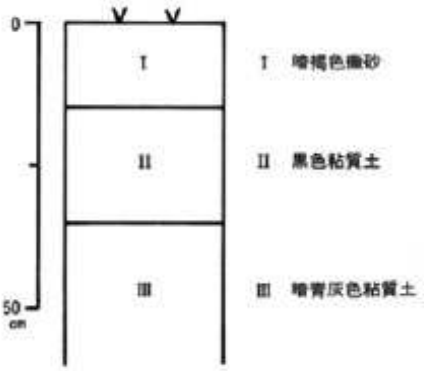
その結果、遺跡は東西350m以上、南北180m以上にわたって遺物の散布がみられ、遺跡範囲西側部分、標高 6.9m前後の付近に良好な遺物包含層を確認した。耕土から地山までの深さは25～40cmで地山は強い粘質を示す。遺物は耕土直下の黒色粘土層（II）より出土する。出土遺物には須恵器、あかやき土器があり、これらのことから平安時代の集落跡とみられる。



位置図（S＝1：50,000）

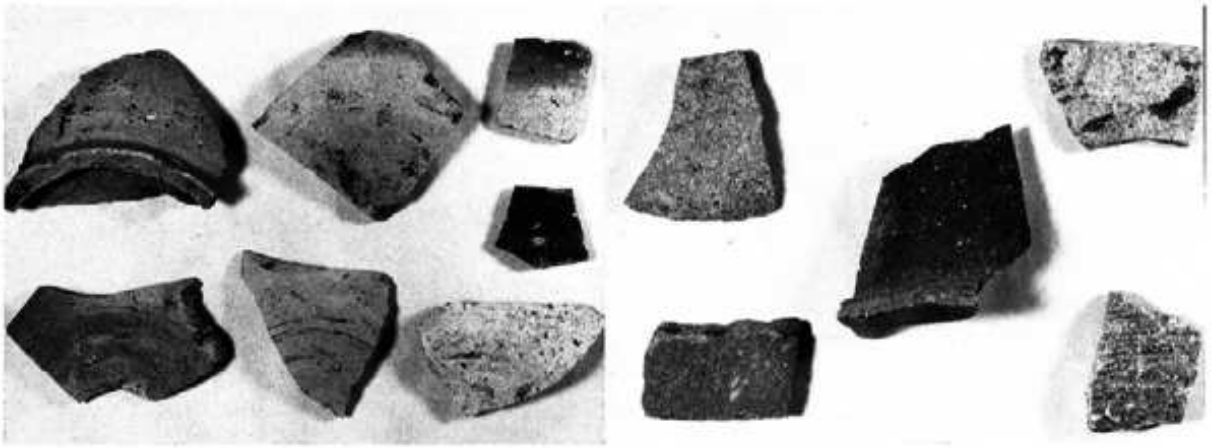
第51図　西田遺跡概要図

遺跡近景



TP48土層柱状図

TP48土層断面



出土土器

図版44　西田遺跡

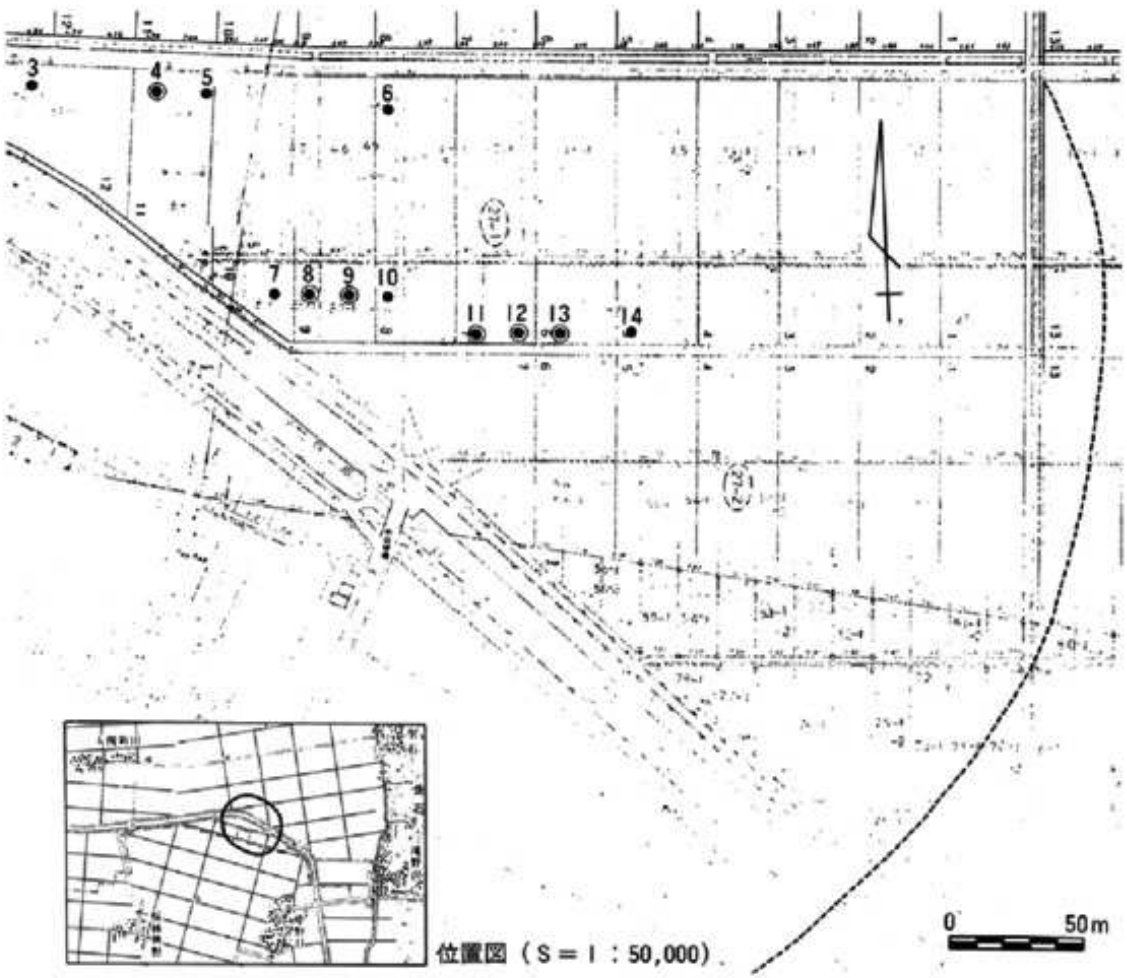
h　生石(おいし)4遺跡（遺跡番号2062）

所　在　地　山形県酒田市大字生石字下谷地

調　査　員　阿部明彦　黒坂雅人

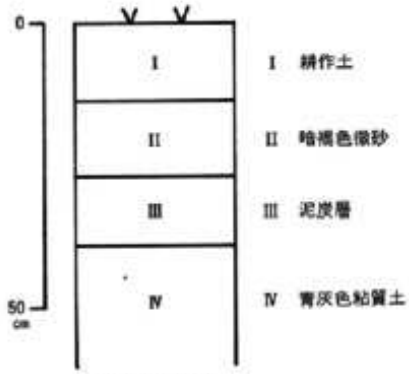
調査期日　B調査　昭和61年10月15日

遺跡の概要　遺跡は、酒田市大槻新田の東南方約1㎞の水田中に位置し、標高約 9.0mを測る。本遺跡は、昭和61年6月26日～同年8月29日までの間、県営ほ場整備事業（山元・南平田地）にともなって発掘調査が実施され、溝跡、道路跡、井戸跡等の遺構と、須恵器、土師器、木製品等の遺物が検出された。そこでは、溝跡と道路に関わって発見された木製の樋が注目され、丸木舟の転用材と考えられている。今回の調査は、昭和62年度に予定される県営ほ場整備事業（山形地区）との調整に資する目的から実施したもので、遺跡の東半部を主な対象として14ヶ所のテストピットを入れた。その結果、昭和61年度調査実施区に南接する部分で遺物の包含層が認められ、さらに表面の踏査から遺跡範囲が東方へかなりの広がりを見せる事が判明した。出土遺物は、奈良～平安時代の須恵器坏他がある。



第52図　生石4遺跡概要図

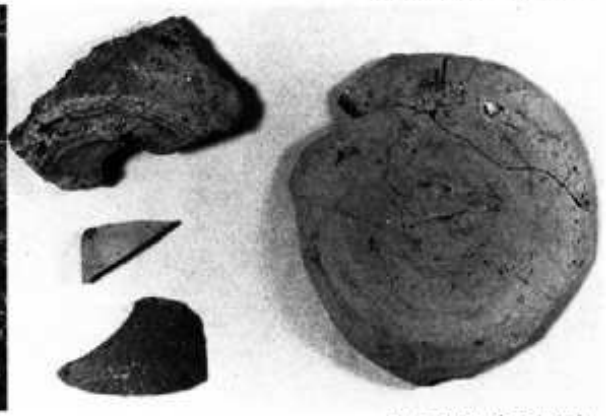
生石４遺跡遠景（東から）



土層柱状図

遺跡近景（西から）

ＴＰ４土層断面



出土土器（須恵器）

図版45　生石４遺跡

i　矢馳（やばせ）A遺跡（遺跡番号1618）

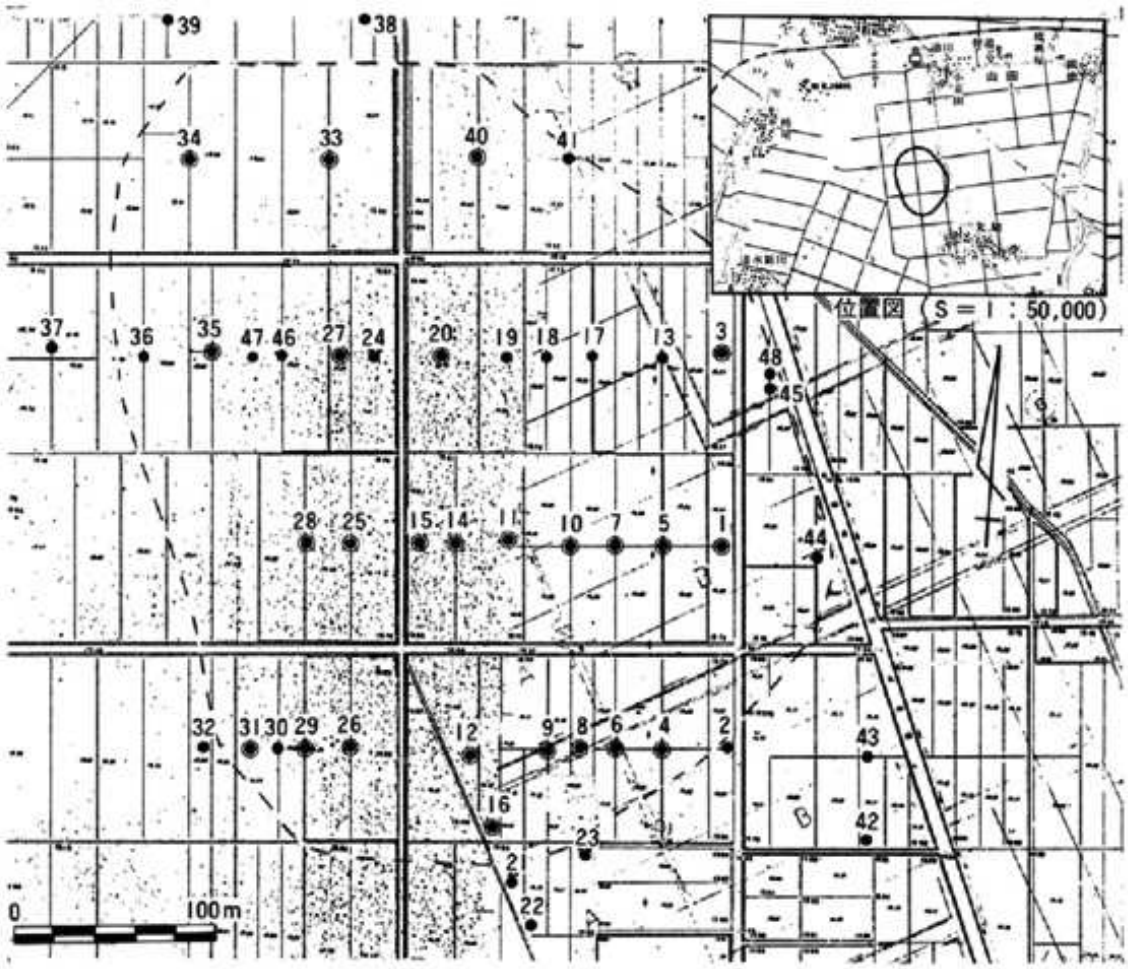
所　在　地　山形県鶴岡市大字矢馳字下矢馳４他

調　査　員　野尻　侃　名和達朗

調査期日　B調査　昭和61年10月６・７日

遺跡の概要　本遺跡は、鶴岡市街地より南西４km、同市大山より南方１kmに位置する。北側には羽越本線、南側には国道７号線が西走し、大山川の沖積地上に立地する。標高15m、地目は水田・畑地である。この地域に昭和62年度から県営ほ場整備事業（鶴岡西部地区）が計画され、所管課である県農林水産部農地建設課より同事業範囲内の埋蔵文化財分布調査依頼が昭和61年度に出され、同年10月に試掘調査を伴う分布調査を実施した。

調査は事業予定区域内に１m四方のテストピット（TP：試掘穴）を47ヵ所行なった。遺跡の広がりは、東西約320m、南北410mの約130,000㎡の範囲と考えられる。試掘したTPでは、地表下25～35cmの褐色粘質土層が土器片等を含む遺物包含層となる。またその下部の青灰色シルト・砂層は地山層となり、柱穴や土壙等の遺構の掘り込み面となる。出土した土器により、本遺跡の性格は、古墳時代後期から平安時代にかけての集落跡と考える。



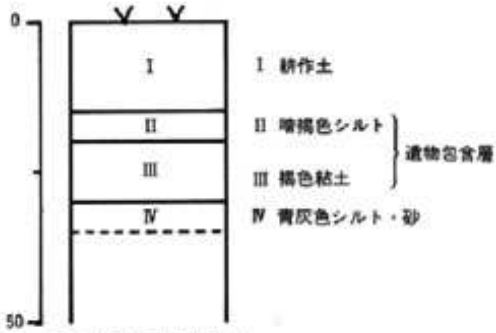
第53図　矢馳A遺跡概要図

遺跡近景（西から）

遺跡遠景（南から）

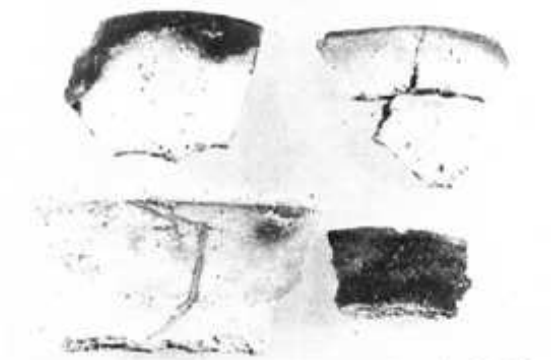
土層断面

土層断面



ＴＰ12土層柱状図

土層断面



出土遺物（土師器）

出土遺物（須恵器）

図版46　矢馳Ａ遺跡

j　矢馳（やばせ）B遺跡（遺跡番号1619）

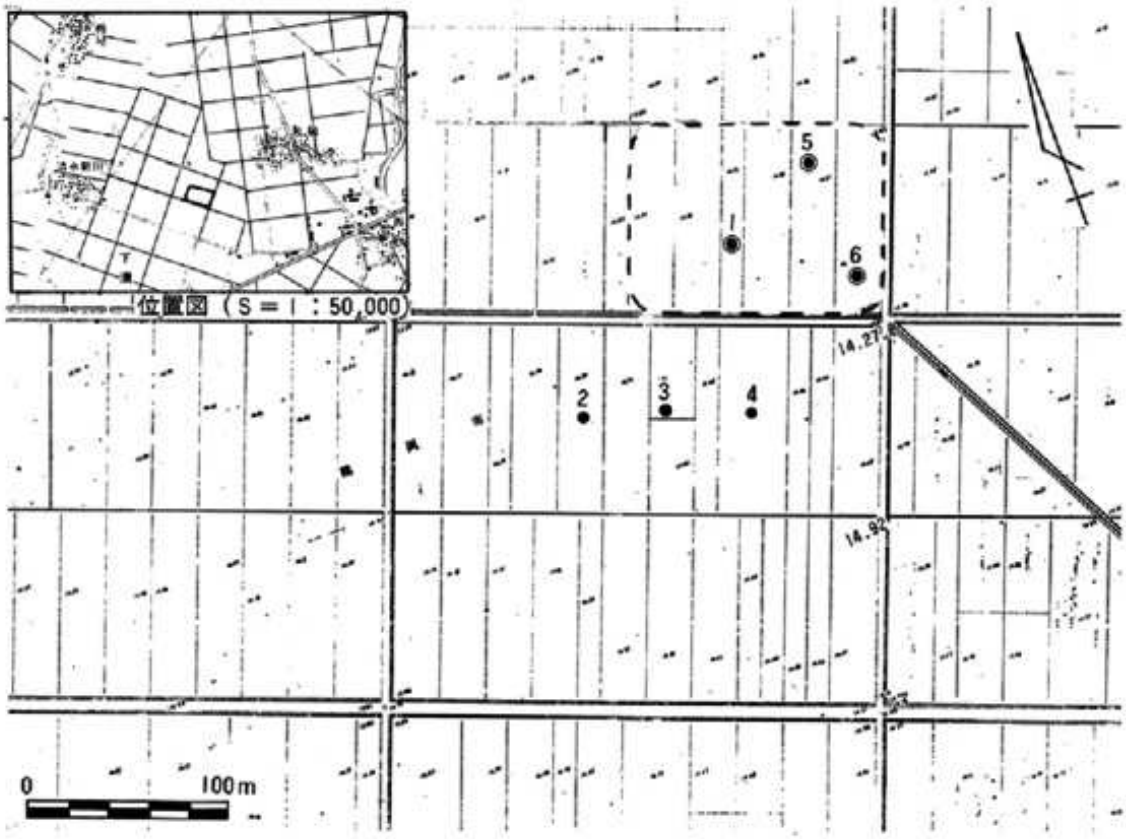
所　在　地　山形県鶴岡市大字下清水字向京田22他

調　査　員　野尻　侃　名和達朗

調査期日　B調査　昭和61年10月7・8日

遺跡の概要　本遺跡は、鶴岡市街地より南西約4㎞、南方 500mには国道7号線が位置している。大山川の沖積地上に立地し、標高15m、地目は水田である。

この地域に昭和62年度より県営ほ場整備事業（鶴岡西部地区）が計画され、昭和61年度に所管課である県農林水産部農地建設課より、同事業範囲内の埋蔵文化財分布調査依頼が県教育委員会に出された。これを受けて、同年10月に試掘調査を伴う遺跡詳細分布調査を実施したものである。調査は、対象事業区域内に1m四方のテストピット（TP試掘穴）を任意に設置し、正確な遺跡の範囲や、土層の堆積状況、包含層・遺構の有無を得るため6ヵ所に実施した。各TPでは、地表下30～50cmの灰黒色粘質土層中に土器片を含み、遺物包含層となった。またその下面の青灰色粘土層は地山となり、遺構の掘り込み面となる。本遺跡より北方300mには矢馳A遺跡が存在し、本遺跡が矢馳A遺跡の広がりとも考え、TPをA遺跡に向けて設置したところ、青灰色粘土層が下がる傾向を示したため同一とは認められなかった。しかし、本遺跡が矢馳A遺跡に近いことから同一集落と考えられる。



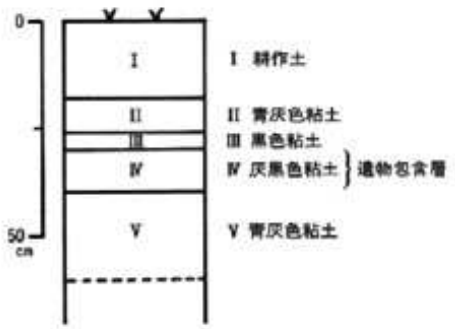
第54図　矢馳B遺跡概要図

遺跡近景（南から）

遺跡遠景（東から）

土層断面

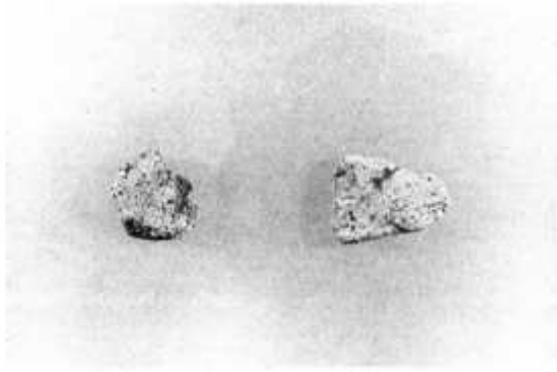
土層断面



ＴＰＩ土層柱状図

土層断面

土層断面



出土遺物（土師器）

図版47　矢馳Ｂ遺跡

h　清水新田遺跡（遺跡番号1653）

所　在　地　山形県鶴岡市大字清水新田字下谷地４他

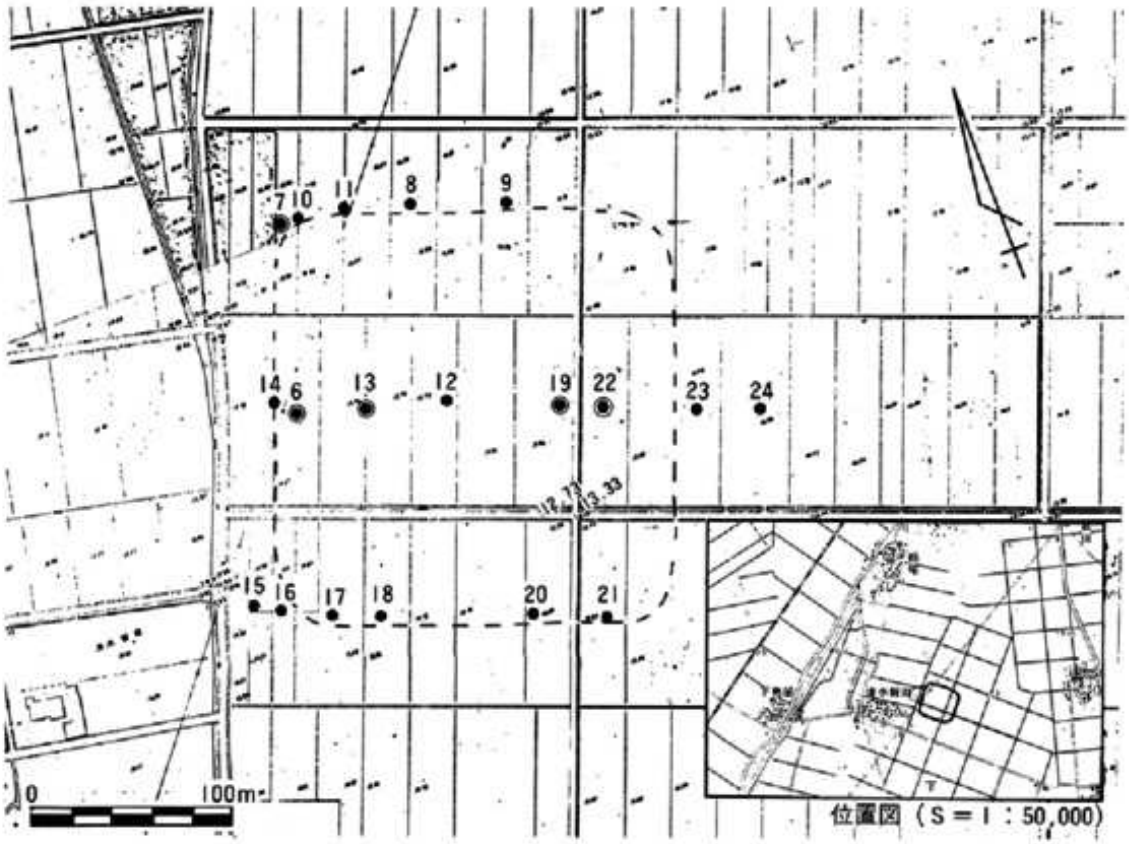
調　査　員　野尻　侃　名和達朗

調査期日　Ｂ調査　昭和61年10月８・９日

遺跡の概要　本遺跡は、鶴岡市街地より南西方約５km、西側の清水新田部落に接して存在する。地目は水田・畑地で標高５ｍを測る。

この地域に昭和62年度より県営ほ場整備事業（鶴岡西部地区）が計画され、昭和61年度に所管課である県農林水産部農地建設課より、同事業範囲内の埋蔵文化財分布調査依頼が県教育委員会に出された。これを受けて、同年10月に試掘調査を伴う遺跡詳細分布調査を実施したものである。調査は対象事業区域内に１ｍ四方のテストピット（ＴＰ試掘穴）を任意に設置し、正確な遺跡の範囲や、土層の堆積状況、包含層、遺構の有無を得るため、24ヵ所にＴＰを実施した。その結果、地表下15～25cmの暗褐色粘質土層中に土器片を含み、遺物包含層となった。またその下面の青灰色シルト層は地山層となり、遺構の掘り込み面となる。本遺跡の北側、東側、南側に向っては地山層とした青灰色シルト層が緩やかに傾斜し泥炭層となり、遺跡は広がらなかった。この部分に水田跡の存在がうかがえる。

本遺跡の性格は、出土遺物から古墳時代中期から平安時代の集落跡と考えられる。



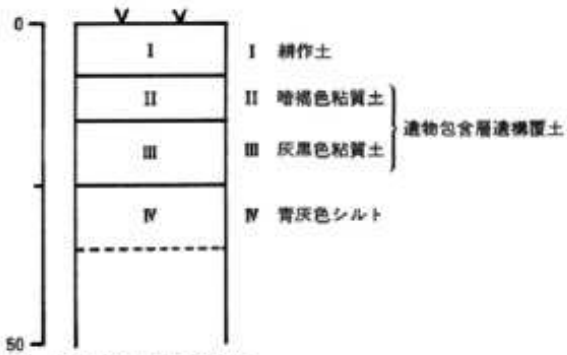
第55図　清水新田遺跡概要図

遺跡近景（東から）

遺跡遠景（東から）

土層断面

遺構検出状況



ＴＰ13土層柱状図

土層断面

土層断面

出土遺物（土師器）

図版48　清水新田遺跡

1　げんだい遺跡（遺跡番号951）

所在地　最上町大字法田字道合

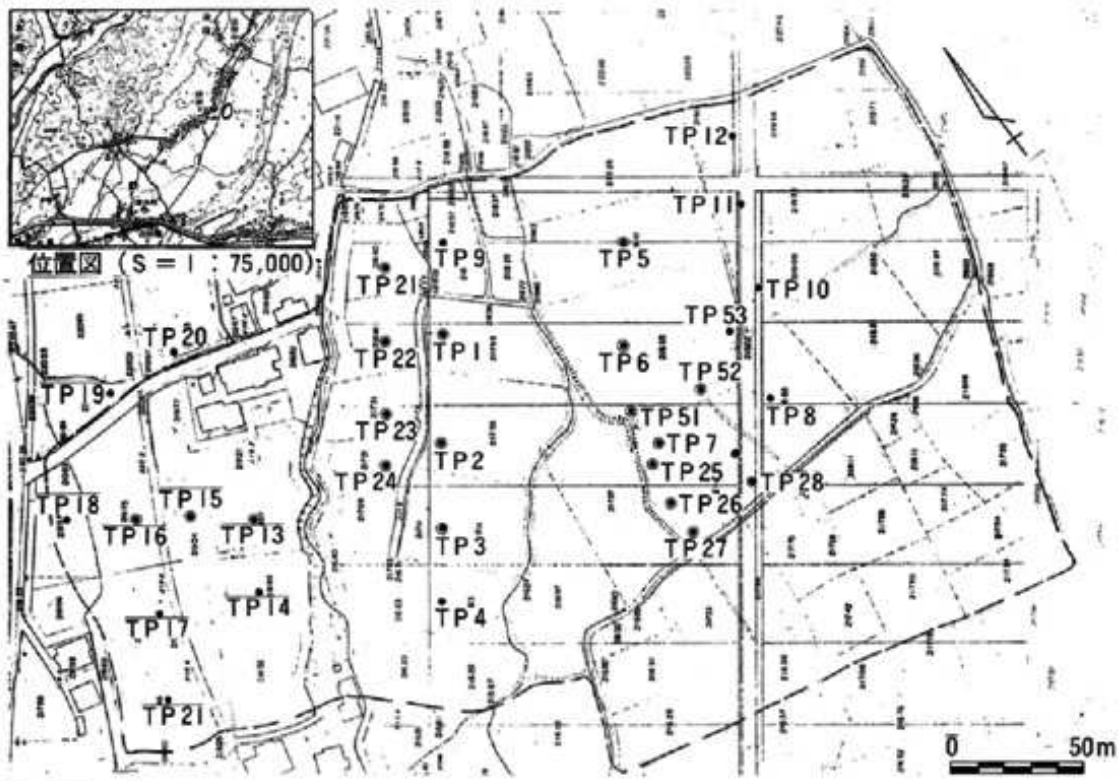
調査員　安部　実　黒坂雅人

調査期日　B調査　昭和61年10月27～29日

遺跡の概要　遺跡は陸羽東線大堀駅を北東へ約1.5km行った、法田地区の東側水田中にある。東側を流れる白川の右岸河岸段丘上にあたる。標高は216～219mを測る。現状は、北側および西側が高くなっている階段状の水田である。戦後行なわれた私営のほ場整備事業の際、縄文文化の遺物が多数出土したという。現在遺物は、近所の佐藤伝兵衛氏宅に保管されている。

今回の遺跡詳細分布調査は、昭和62年度に予定されている県営ほ場整備事業（最上町西部地区）との調整に資するために実施したものである。

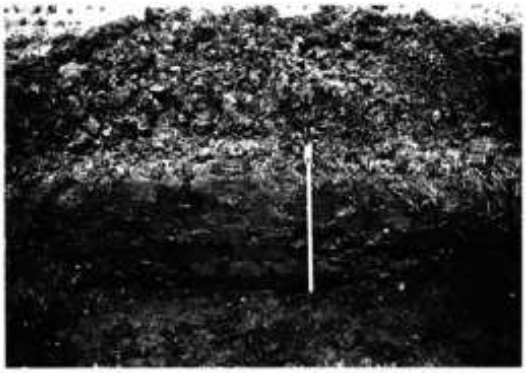
調査は事業予定区域内に、1×2m矩形の試掘を32箇所設定して行った。その結果遺跡西側で遺物は出土するが包含層は確認されなかった。東側の一段高くなっている地区で、遺物包含層が確認された。遺物は縄文土器（中期・晩期）・石器（磨製石斧）・フレイクなどがある。



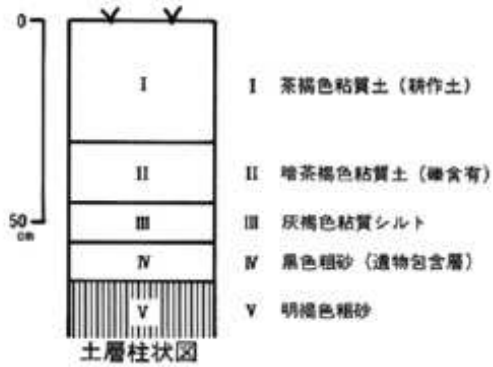
第56図　げんだい遺跡概要図

遺跡近景（北から）

遺跡近景（東から）



土層断面



土層柱状図

出土遺物

図版49　げんだい遺跡

（２）広域営農団地農道整備事業―北村山地区―関係遺跡

a　志田（しだ）Ｂ遺跡（新　規　昭和53年）

所　在　地　山形県尾花沢市大字丹生字安久戸

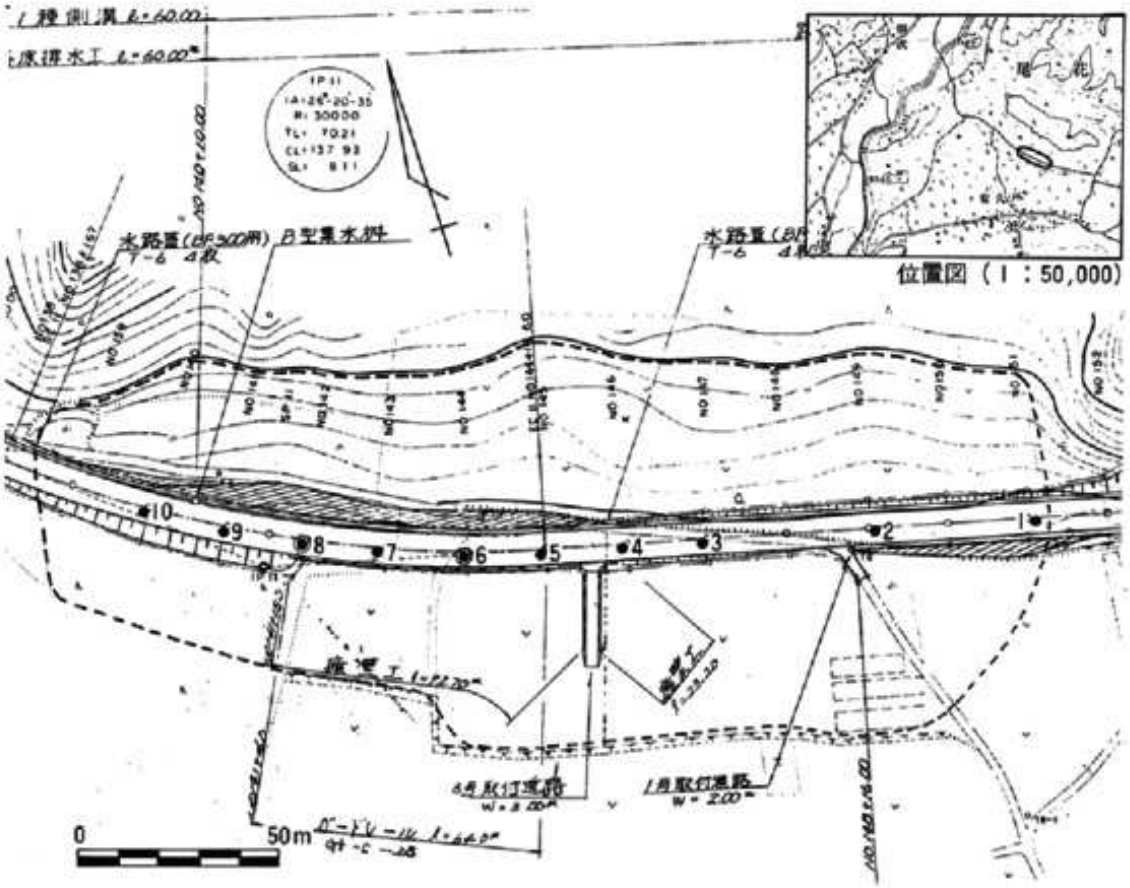
調　査　員　渋谷孝雄　長橋　至

調査期日　Ａ調査　昭和61年10月13日　　Ｂ調査　昭和61年11月28日

遺跡の概要　本遺跡は尾花沢市役所の東北東約3.8kmに位置し、本年度にＣ調査を実施した安久戸Ｄ遺跡の南東側に隣接し、かつて堀の内遺跡調査団によって古代村山郡衙跡と推定された、土塁、堀跡を伴う方180ｍの尾花沢市指定文化財西原遺跡の北東に隣接する。

南向きの山麓緩斜面に立地し、標高は119ｍを測る。地目は現在の農道の北部が原野、南部が畑地となっており、一部は山林となっている。畑地部分は重機による開墾が行なわれ、耕作土中に肘折起源の浮石ブロックが混入しており、若干の遺物が散布している。

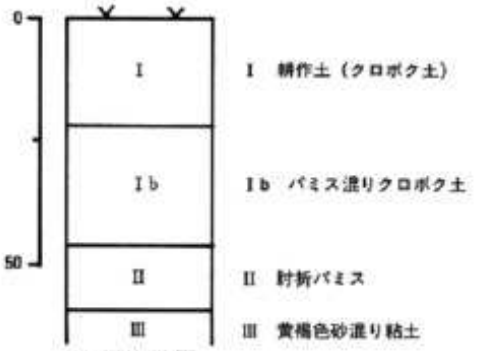
今回の調査は遺跡の中央部を東西に走る幅員８ｍの道路用地内に20～40ｍおきに１×１ｍの試掘溝を設定して遺物・遺構の分布状況を把握するために実施した。基本的な層序はクロボク土、肘折浮石層、黄褐色砂混り粘土の順となっており、畑地部分のＴＰ３～６では撹乱が認められた。遺物はＴＰ６、８のクロボク土ないしは肘折浮石との撹乱土の中から、縄文晩期とみられる土器片が合わせて３片出土しただけで、遺構は検出されなかった。



第57図　志田Ｂ遺跡概要図

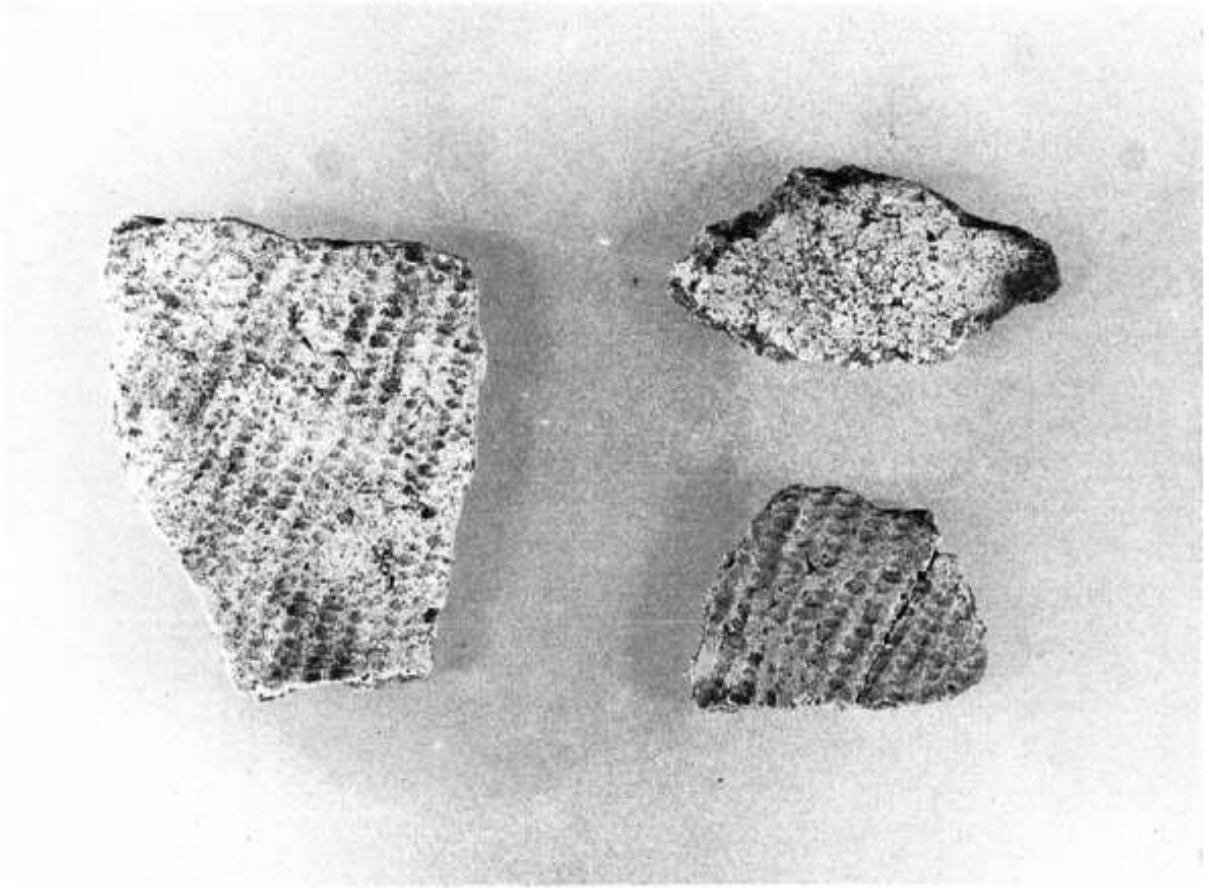
遺跡近景（南東から）

ＴＰ６土層断面



土層柱状図

ＴＰ９土層断面



出土遺物

図版50　志田Ｂ遺跡

（3）公害防除特別土地改良事業・吉野川流域地区関係遺跡

a　李の木遺跡（新　規　昭和61年）

所　在　地　山形県南陽市大字椚塚字李の木

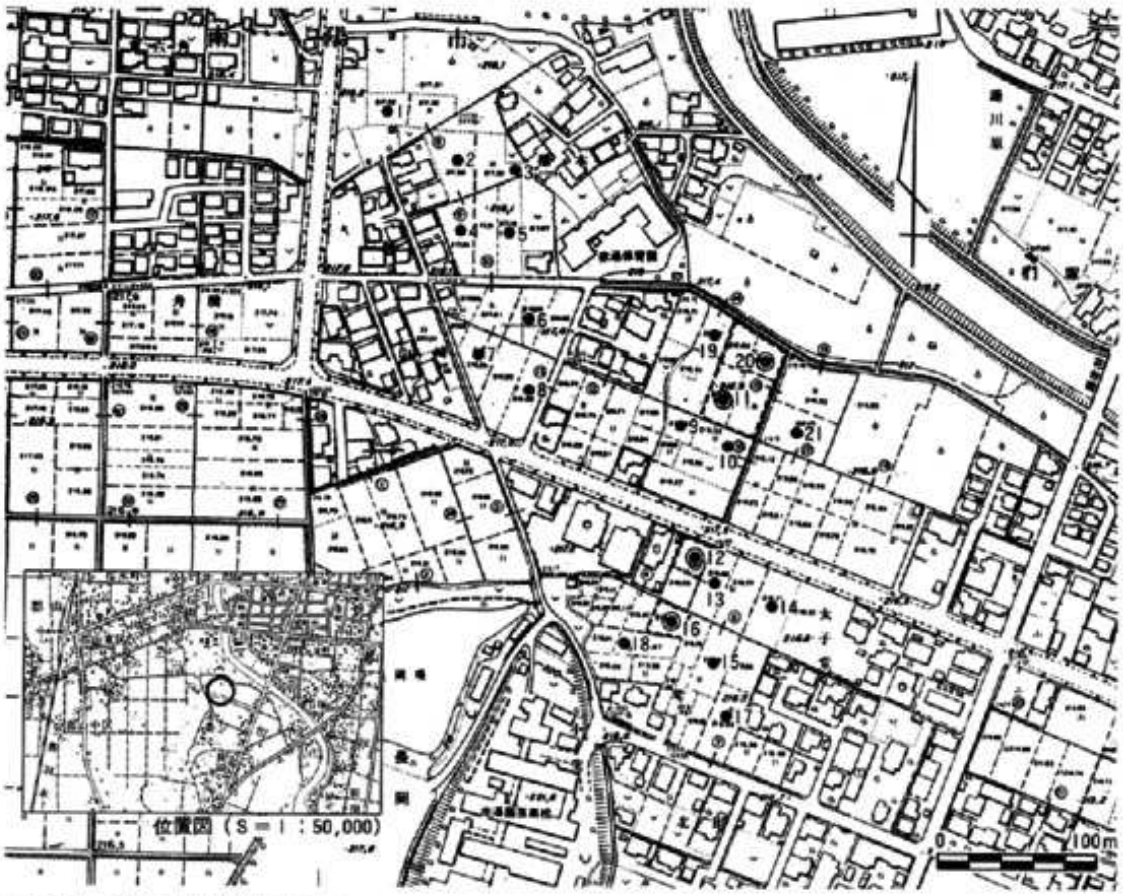
調　査　員　名和達朗　（吉野一郎　南陽市教育委員会）

調査期日　A調査　昭和61年11月28日　　B調査　昭和61年12月15日

遺跡の概要　本遺跡は、北側の赤湯保育園、南側の赤湯園芸高校との間に位置する。国鉄赤湯駅からは、南東に約1kmの距離である。遺跡は、吉野川右岸の沖積地に立地し、標高は約 216mを測る。地目は、水田であるが、宅地化の進んできている地域である。遺跡の確認は、南陽市教育委員会の分布調査によるもので、新規である。

ここに、昭和62年度公害防除特別土地改良事業が計画され、今回試掘調査を行なうことになったものである。

調査は、事業区域内について21ヶ所の坪掘りを実施した。その結果、ＴＰ11・12・16・20Ⅲ層から遺物が確認された。深さは、水田面下20～48cmである。範囲は、遺物確認地点の三ブロックをまとめると2,670㎡と考えられる。遺物は、ＴＰ16以外は１・２点の数量である。その内容は、フレイク・土師器・須恵器である。



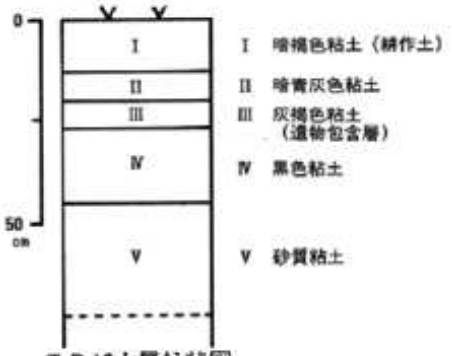
第58図　李の木遺跡概要図

遺跡近景（南東から）

遺跡近景（南から）

遺跡近景（東から）

ＴＰ16土層断面



ＴＰ16土層柱状図

出土土器（土師器）

出土土器（須恵器）

出土石器

図版51　李の木遺跡

（4）　村山北部農業水利事業関係

a　原の内A遺跡（遺跡番号787）

所在地　山形県尾花沢市大字鶴子字中原他

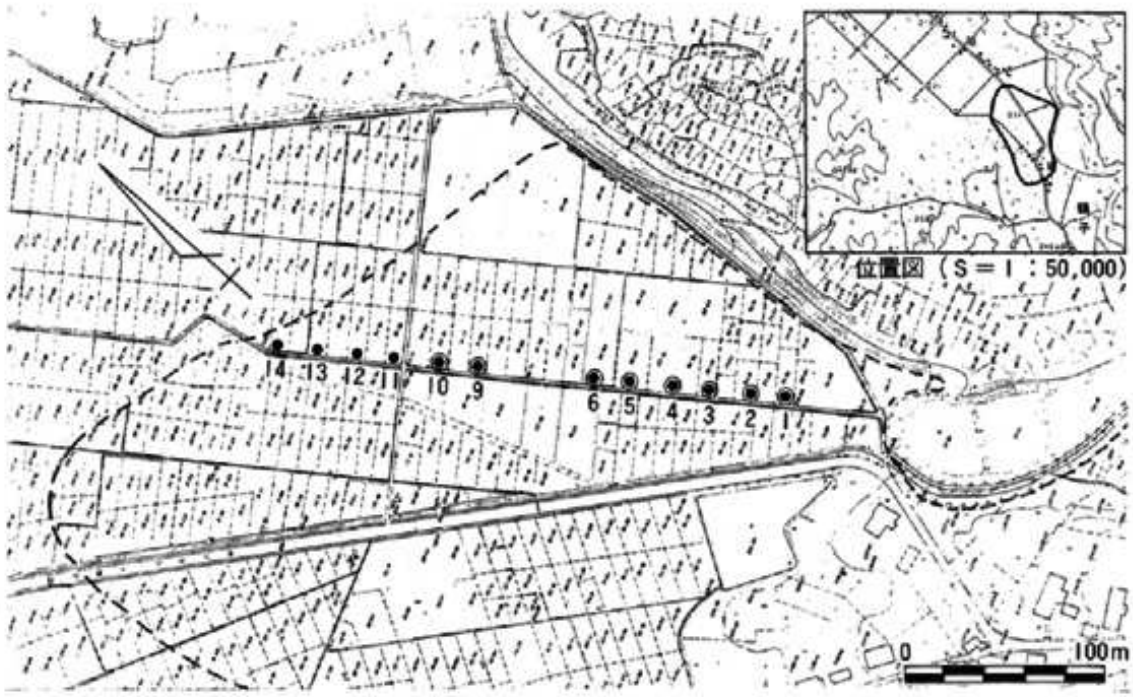
調査員　渋谷孝雄　長橋　至

調査期日　B調査　昭和61年10月14日

遺跡の概要　本遺跡は尾花沢市役所の南南東約8.5kmに位置し、標高235mの丹生川左岸の段近上に立地する。地目は水田・宅地・畑地などとなっている。

昭和48年度には簡易水道の建設に伴って県立博物館が、また昭和55年度には県営圃場整備事業、昭和57年度には県道改良工事に伴って県教育委員会が緊急発掘調査を実施した。これらの調査により、本遺跡は縄文時代中期・晩期を中心として、縄文時代早期から平安時代まで断続的に営まれた大集落であったことが明らかとなっている（佐藤他1983他）。

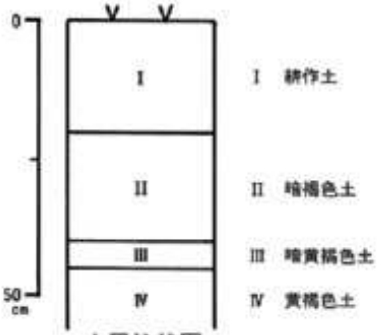
今回の調査は本遺跡と隣接する昭和57年度の分布調査によって登録された鶴子中原遺跡、それに玉野原A・B遺跡の本事業に係わる4遺跡について、原則として事業区内に20mおきの試掘溝を設定して実施した。昭和57年度の分布調査ではTP2と3の中間付近を境として原の内A遺跡と鶴子中原遺跡に分けて登録したが、今回の調査によってTP3以北の各試掘溝からも、縄文時代中期の土器が出土し、内容的に原の内A遺跡と同一と考えられることからTP14までを本遺跡に含めた。出土遺物は縄文時代中期を中心として、同早期、晩期があり、出土量も極めて多い。



第59図　原の内A遺跡概要図

遺跡近景（北から）

ＴＰ６一括土器出土状況



土層柱状図

ＴＰ５土層断面

出土遺物

図版52　原の内Ａ遺跡

（5） 国道13号線南陽バイパス関係遺跡

a 月ノ木B遺跡（新　規　昭和57年）

所　在　地　山形県南陽市字月ノ木前

調　査　員　佐藤庄一

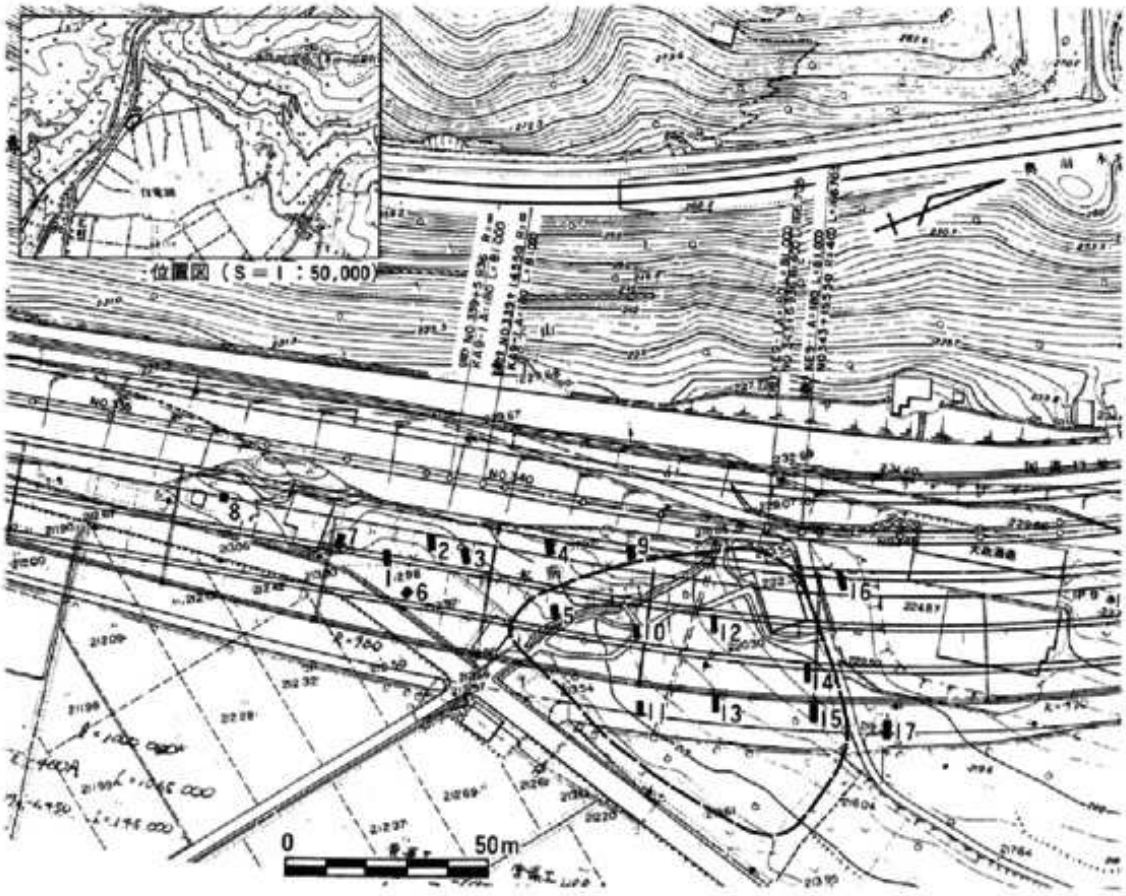
調査期日　B調査　昭和61年10月14・15日

遺跡の概要　本遺跡は、国道13号線添い通称「鳥上坂」の下方に位置し、標高217mを測る。立地的には秋葉山の東南山麓にあたり、すぐ下に大谷地の名残りである白龍湖が控える。地目は、果樹園・畑地及び宅地となっている。

事業対象地区内に設定した17地点の坪掘り区のうち、9地点で遺物が出土した。とくに坪掘り区の北東部に遺物包含層がよく残っており、遺跡の範囲も昭和57年のA調査段階から北東に大きくずれる。

出土した遺物は、縄文土器の他に石鏃・掻器などの石器があり、弥生土器と思われるものも1点存在する。時期的には縄文時代早期から中期に属する。縄文時代早期の土器は、内外面に貝殻腹縁文を施したもので、押出遺跡以前のこの地の歴史を探る上で貴重である。

なお遺跡の南端が大谷地に接しており、部分的に低湿地の遺跡にかかる可能性もある。



第60図　月ノ木B遺跡概要図

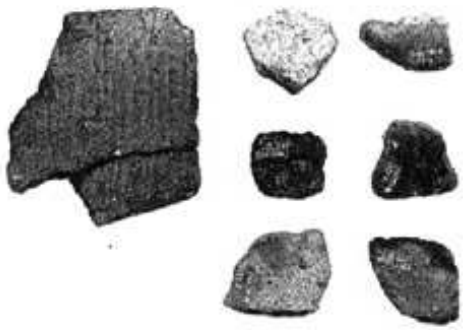
遺跡近景（北東から）

土層断面

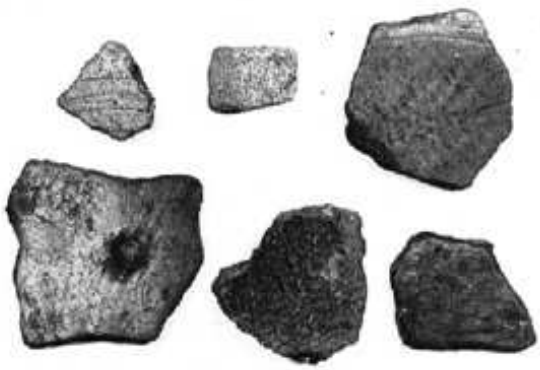
T 18土層柱状図

T 1 出土石器

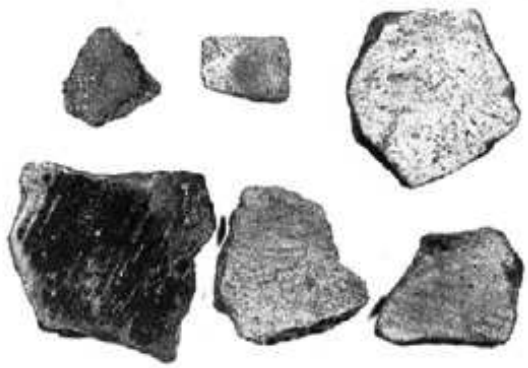
T 13出土土器



T 13出土土器



T 14出土土器



T 14出土土器

図版53　月ノ木B遺跡

（ｂ）県道改良工事関係

ａ　観音堂（かんのんどう）遺跡（新　規　昭和60年）

所　在　地　山形県南陽市大字蒲生田他

調　査　員　長橋至　渋谷孝雄

調調期日　昭和61年10月８日

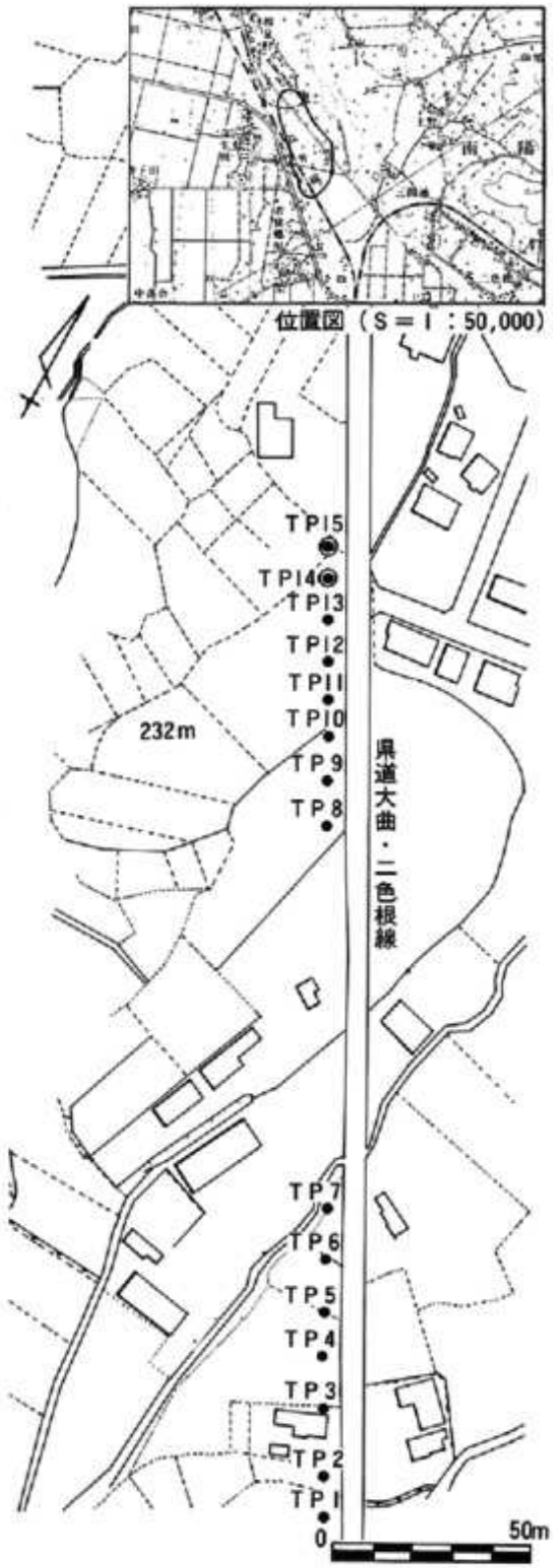
遺跡の概要　遺跡は、蒲生田地区東側の吉野川右岸に形成された自然提防上に立地する。標高は約 228ｍを測り、地目は、宅地・水田畑である（山形県埋蔵文化財調査報告書第96集分布調査13　山形県教育委員会）。

事業は、県道大曲・二色根線道路改良工事で、現道の西側を約８ｍ拡幅（×300ｍ）するものである。

調査は、現在使用されている私道・公道部分及び、道路改良に併行して実施される水道管埋設工事（南陽市で分布調査実施）のための盛土部分を除く区域で行なった。全体に16箇所の１ｍ四方の試掘区を設け遺跡の状況の把握に努めた。

その結果、事業対象区域とほぼ全域で、市の水道管埋設工事以外に、道路改良事業に伴う先行する盛土が既に行われ、いずれも、旧地表面まで10～70cmの厚さの砂礫が認められた。

また、地山まで調査した試掘区では、沖積地特有の不安定な層序が観察され、遺物包含層は確認されなかった。遺物は対象地区北側（ＴＰ14・15）で平安時代の須恵器、赤焼土器片が数点出土したが、双方とも盛土中からの出土で、この地区に密切に関係するものとは考えられない。遺跡内で遺構・遺物の希薄な地点と考えられる。

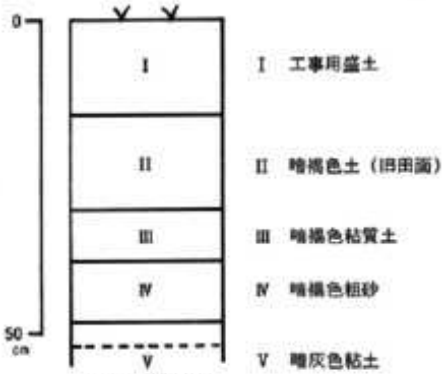


第61図　観音堂遺跡概要図

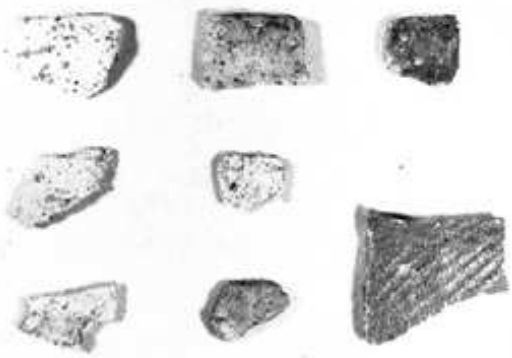
遺跡近景（北から）

土層断面

土層断面



土層柱状図



出土遺物

図版54　観音堂遺跡

b　新館（しんたて）遺跡（遺跡番号355）

所　在　地　山形県山辺町大字熊沢字新館

調　査　員　名和達朗　黒坂雅人

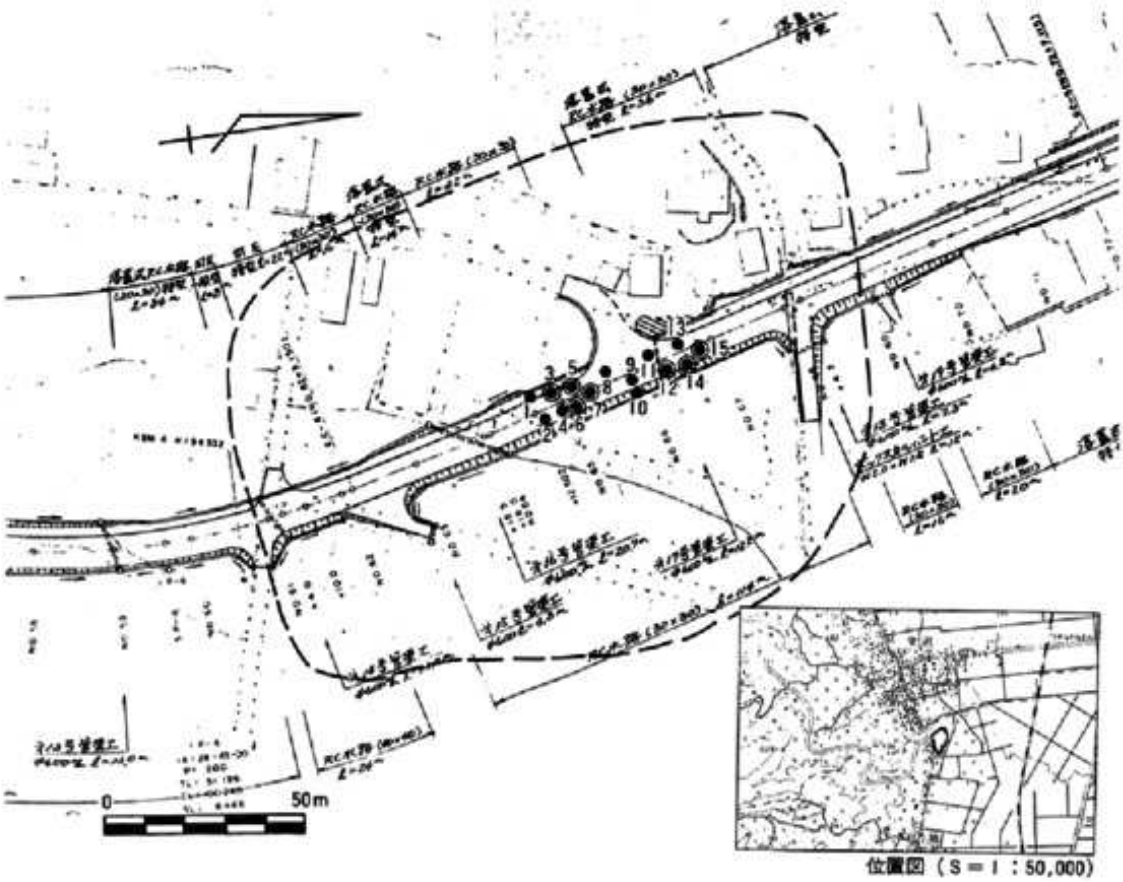
調査期日　A調査　昭和61年10月21日　　B調査　昭和61年10月22日、12月10・11日

遺跡の概要　本遺跡は、山辺町北部に位置し、西部山麓を通る県道の東側緩斜面に立地する。標高は、約95mを測り、村山盆地を遠望する景観にある。範囲は、東西約80m・南北約150m、面積約12,000m²が推定される。

ここに、昭和62年度県道平塩・山辺線道路改良工事が計画されたため、今回分布調査を行なうことになったものである。

調査は、最初A調査による現地確認を行ない、次いでB調査の試掘に移行した。全部で15ヶ所の坪掘りやトレンチを入れた結果、ＴＰ３・５～７・12・14・15からピットや土坑等の遺構が検出された。ＴＰ６からは遺物が確認され、時期不詳であるが弥生土器壺(？)の一部と推定される。他に採集品で、須恵器小片がある。

以上の内容から本遺跡は、住居跡等は確認できなかったが弥生時代・平安時代の集落跡と推定される。



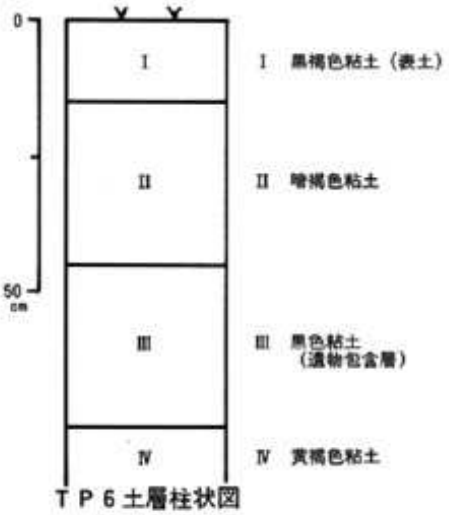
第62図　新館遺跡概要図

遺跡近景（南東から）

遺跡近景（南から）

遺跡近景（南西から）

遺跡近景（北西から）



ＴＰ６土層柱状図

ＴＰ６土層断面

出土土器

図版55　新館遺跡

（7）東北横断自動車道酒田線関係遺跡

a　関沢（せきざわ）B遺跡（新　規　昭和55年）

所　在　地　山形県山形市大字関沢字大谷沢386－23他

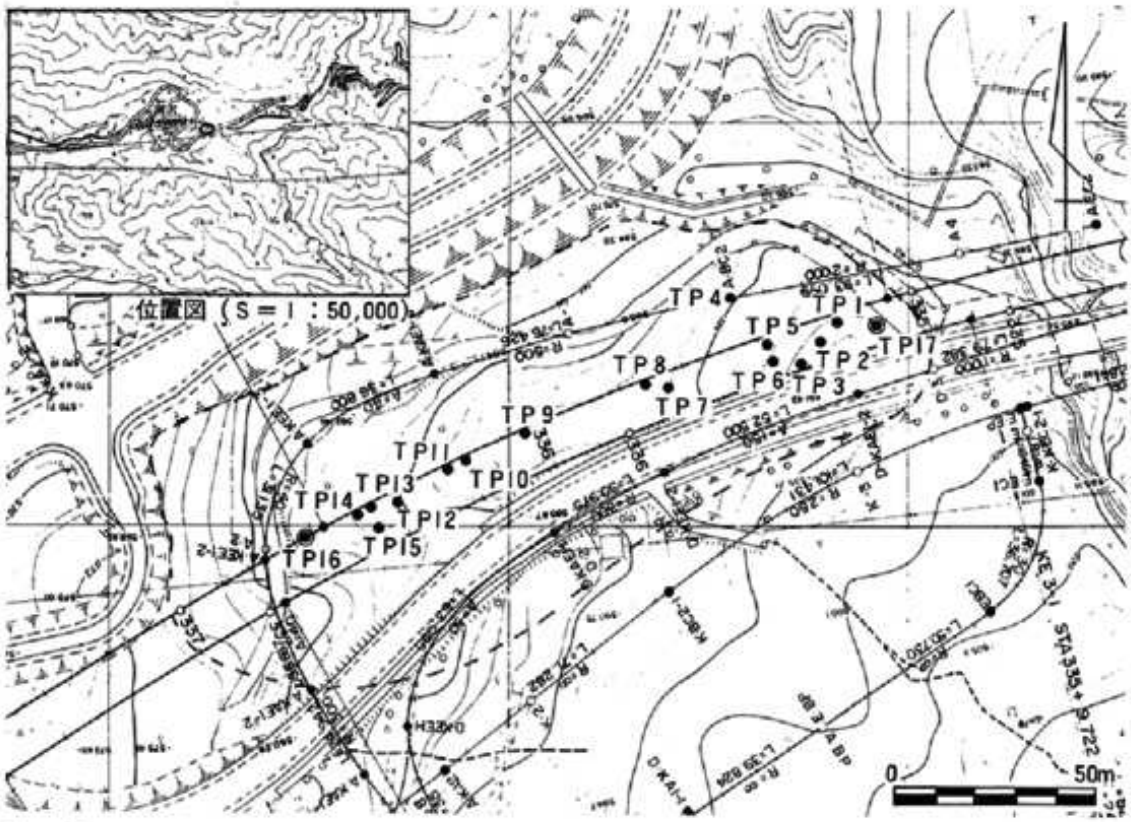
調　査　員　長橋　至　伊藤邦弘

調査期日　昭和61年10月21日

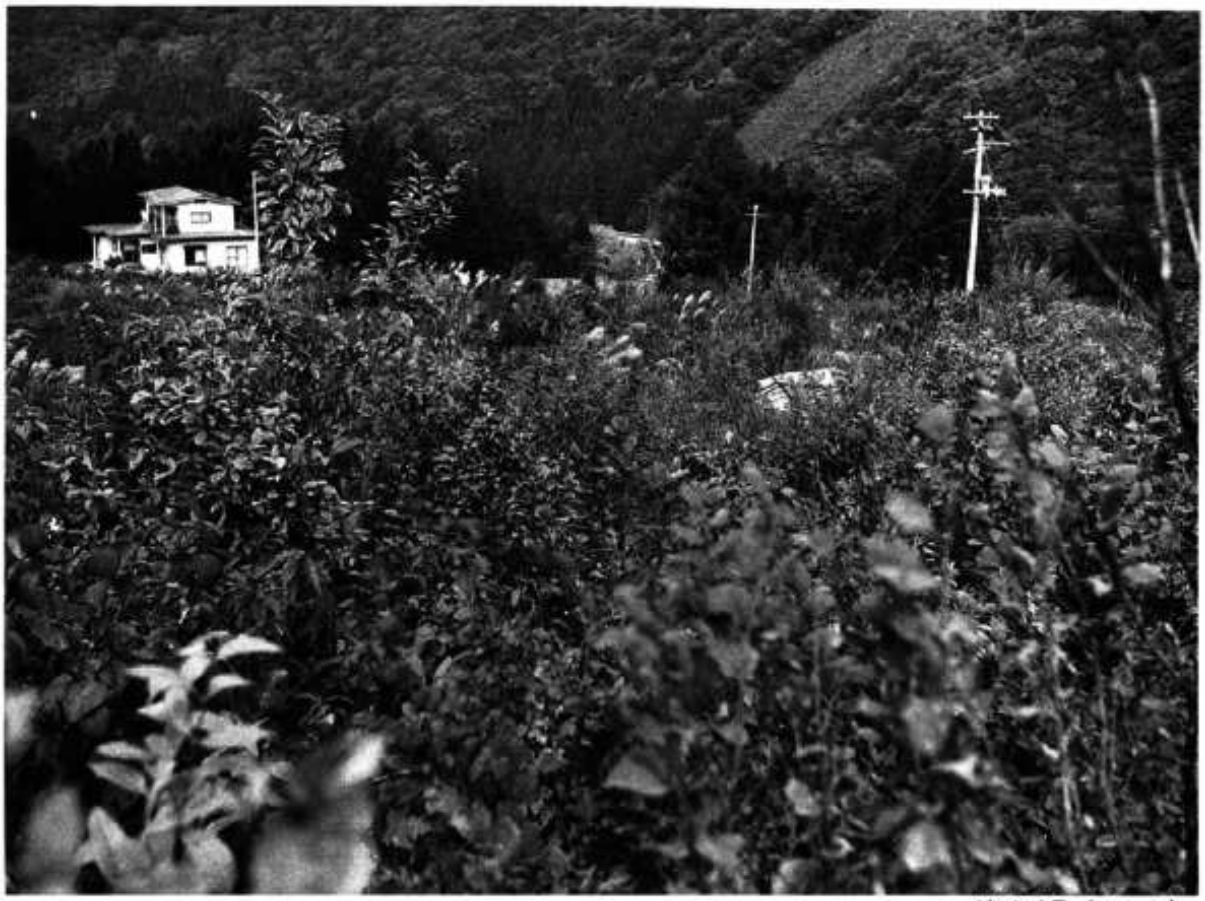
遺跡の概要　遺跡は、山形市東端部、奥羽山脈の西部、標高 550m前後を測る山腹に立地している。山形市から宮城県へ通じる、通称「笹谷街道」沿いに位置し、遺跡の中央部分は、この街道（国道 285号線）の道路改良時（昭和55年）に幅30m程の範囲で掘削されている。本遺跡は、この道路改良時に、東北横断自動車道酒田線関連分布調査の中で新規に発見されたものである。地目は現在、雑木・荒地となっている。

発見時には既に国道 286号線改良工事が進められていたため、遺跡として旧地形を留めているのは、遺跡範囲の東・西側の一部と考えられ、今回の分布調査も、この区域を中心に実施した。調査は、主に路線センターに合わせ、全体で17箇所の試掘区を設け、それぞれ、地山面まで掘り下げ、遺物の出土状況、遺構の分布、遺跡の状況等について探った。

その結果、計画路線のセンターに沿い、旧地形の残る東・西側で比較的良好な遺物包含層が確認され、両地区で、縄文時代の土器片、平安時代の土器片が出土した。



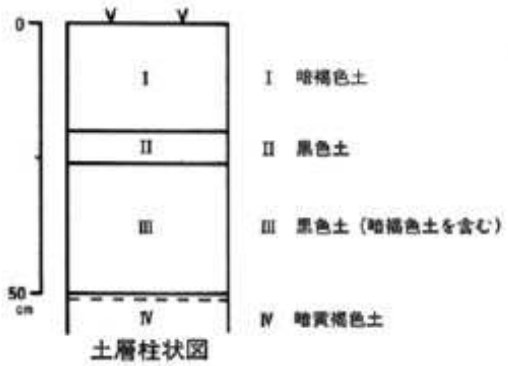
第63図　関沢B遺跡概要図



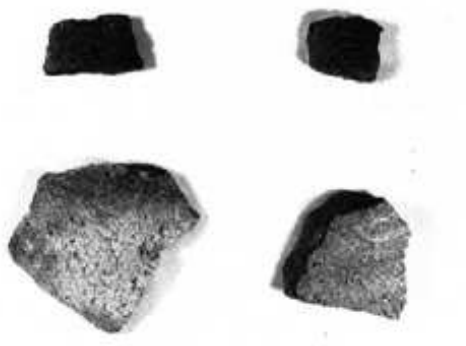
遺跡近景（南から）

土層断面

土層断面



土層柱状図



出土遺物

図版56　関沢Ｂ遺跡

b　向山遺跡（新　規　昭和55年）

所　在　地　山形県山形市大字下宝沢

調　査　員　長橋　至　伊藤邦弘

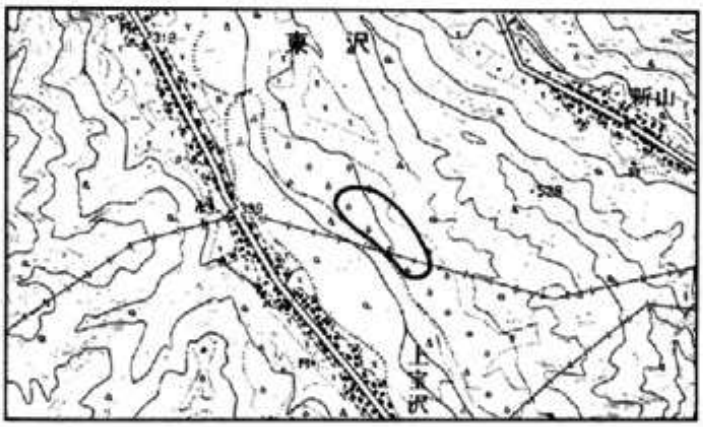
調査期日　昭和61年10月23日

遺跡の概要　遺跡は、山形市の東部、奥羽山脈の西端、山腹の小河岸段丘上に立地し、標高は約338～350ｍを測る。遺跡南側は段丘を形成した沢が西流し、北側の山との間の平坦地に遺物の散布がみられる。地目は大半が畑地、一部果樹となっている。

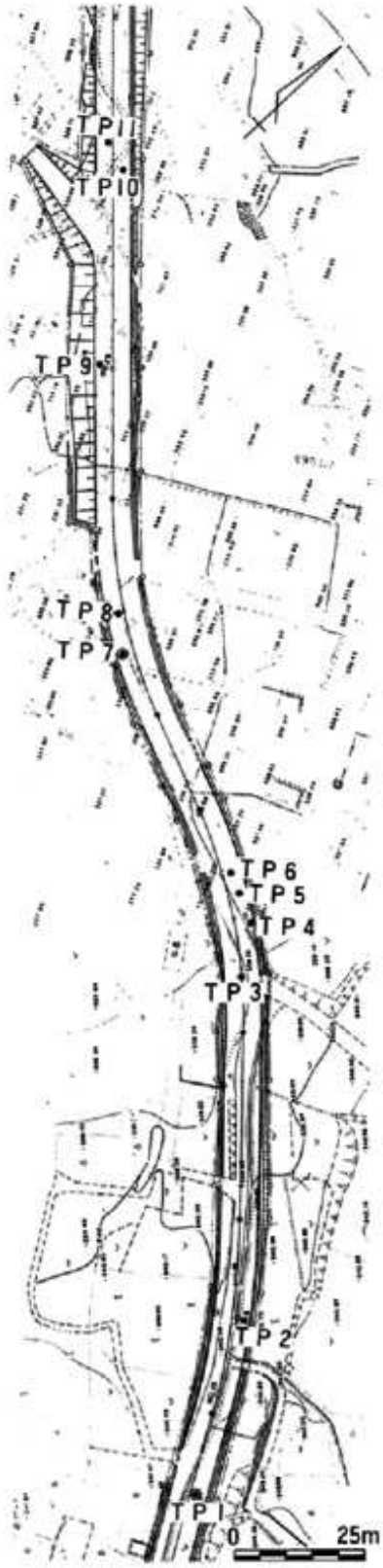
事業は、高速道本線に伴う工事用道路建設で、現農道を中心に幅員７ｍに拡張するものである。一部農道外の畑地も対象区域となる。

調査は、この拡幅区域及び畑地部分の事業対象区域のうち、調査時に作付けの行われていない地点について実施した。１ｍ四方の試掘区を全体で11箇所設定し、遺跡の状況を探った。

その結果、遺跡西側部分の畑地（ＴＰ７）で縄文時代後・晩期の土器、土拡と考えられる落込みを、さらに遺跡東側部分（ＴＰ１）で縄文時代の土器片が出土した。したがって、ＴＰ８以東、ＴＰ２付近まで遺構・遺物の存在が予想される。なお、遺跡北側の範囲は山際の傾斜変換線までと考えられる。

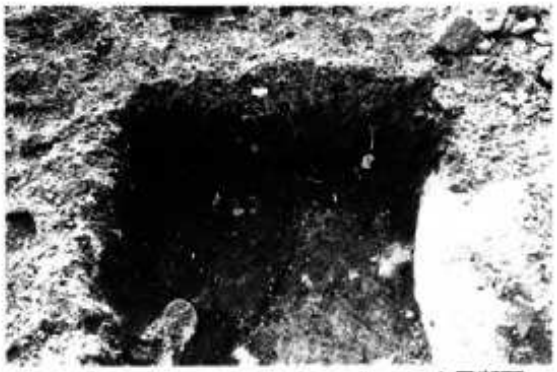


向山遺跡位置図（Ｓ＝１：25,000）



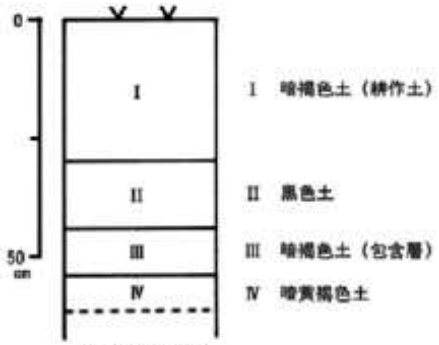
第64図　向山遺跡概要図

遺跡近景（東から）

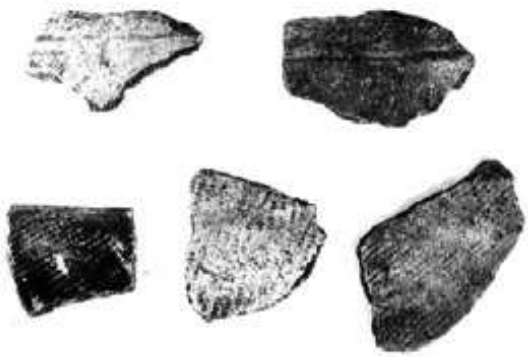


土層断面

土層柱状図



土層柱状図



出土遺物

図版57　向山遺跡

Ⅲ　まとめ

昭和61年度遺跡詳細分布調査は、昭和62年度以降実施予定の農林・土木事業他の開発事業に係る遺跡についてと、土木工事等による埋蔵文化財発掘通知に基づく立会い調査、及び埋蔵文化財包蔵地基礎調査を実施したものである。

調査は、各種事業区域及びその周辺地域について行ない、遺跡数は81ヶ所である。そのうち20遺跡が、今年度新規確認である。また、周知の遺跡の中で『山形県遺跡地図』記載位置の訂正を必要とするものについては、第Ⅱ章遺跡地名表の備考欄に表記した。

各遺跡の中で、昭和62年度の農林・土木事業に係る遺跡は次のとおりである。

（１）農林事業関係

大楯遺跡・南興野遺跡・早塚遺跡・熊野田遺跡・手蔵田６・７遺跡・手蔵田10・11遺跡・早稲田遺跡・桜林遺跡・西田遺跡・南口Ａ遺跡・生石４遺跡・矢馳Ａ遺跡・矢馳Ｂ遺跡・清水新田遺跡・げんだい遺跡・新田遺跡・志田Ｂ遺跡・季の木遺跡・原の内Ａ遺跡・鶴子中原遺跡・玉野原Ａ遺跡・玉野原Ｂ遺跡

（２）土木事業関係

月ノ木Ａ遺跡・月ノ木Ｂ遺跡・観音堂遺跡・塚田遺跡・山辺北条里遺跡・新館遺跡・関沢Ｂ遺跡・尺ノ上遺跡・向山遺跡

これらの各遺跡については、今後関係機関と協議を必要とするものである。

土木工事等による埋蔵文化財発掘通知に基づく立会い調査は、今年度は８遺跡について実施した。

埋蔵文化財包蔵地基礎調査は、今年度は長井地区について実施したが、遺跡の現状や環境の変化の把握、及び新規遺跡の確認等、将来の開発事業との調整を図る上で、今後も県内各地区を対象に調査を必要とするものである。

最後に、分布調査の実施にあたって御協力をいただいた各関係市町村教育委員会、並びに各関係機関に心から感謝を申し上げる。

＜参　考　文　献＞

氏家和典（1967）：「陸奥国分寺跡出土の丸底杯をめぐって」『山形県の考古と歴史』ＰＰ77～98

佐藤庄一他（1979）：『山形西高敷地内遺跡発掘調査報告書』　山形県埋蔵文化財調査報告書第17集

佐藤正俊他（1981）：『原の内Ａ遺跡第２次発掘調査報告書』　山形県埋蔵文化財調査報告書第71集

進藤秋輝（1984）：「Ⅱ　第45次調査」　『宮城県多賀城跡調査研究所年報1984』ＰＰ４～30

名和達朗（1985）：『沢田遺跡発掘調査報告書』　山形県埋蔵文化財調査報告書第88集

佐々木洋治・佐藤庄一（1985）：『県指定史跡安久津古墳群―北目１号墳・鳥居町９号墳―発掘調査報告書　山形県埋蔵文化財調査報告書第95集

山形県埋蔵文化財調査報告書第110集

分布調査報告書(14)

昭和62年度以降農林・土木事業他関係遺跡
埋蔵文化財包蔵地基礎調査・長井地区関係遺跡
C調査実施遺跡
立会い調査実施遺跡
試掘調査実施遺跡

昭和62年3月19日　印刷
昭和62年3月20日　発行

発行　山形県教育委員会
印刷　山形印刷株式会社